

目 次

= 巻頭言 =

令和4年新春に向けて	会 長 真 田 浩 一	1
躍動する兵庫、コロナを乗り越え未来へ	兵庫県知事 齋 藤 元 彦	2
令和4年を迎えて	副会長 松 田 武 史	3
令和4年を迎えて	副会長 綿 貫 裕	4
令和4年を迎えて	副会長 佐 藤 伊都子	5
令和3年各部局活動報告		6
事務局		6
組織活動局		8
事業推進局		11
HYOGO ニュース		15
会誌「HYOGO JOURNAL」投稿規定		37
研究会抄録		39
令和2年度 第7回理事会議事録		68
令和2年度 第8回理事会議事録		71
令和2年度 第9回理事会議事録		75
令和2年度 臨時総会議事録		81
令和3年度 第1回理事会議事録		82
令和3年度 第2回理事会議事録		86
令和3年度 第3回理事会議事録		90
令和3年度 第4回理事会議事録		94
令和3年度 第5回理事会議事録		100
令和3年度 第6回理事会議事録		106
令和3年度 定時総会議事録		111
令和3年度 兵庫県医学検査学会(第26回)		113
特別企画抄録集		121
一般演題抄録集		125
令和3年度 賛助会員		129
組織・執行体制		130
(公社)兵庫県臨床検査技師会 入会申込書		131
広報部名簿		132

= 巻頭言 =



令和4年新春に向けて

公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会

会長 真田 浩一

新年明けましておめでとうございます。

2年が経過し終息に向かうかと思われた新型コロナウイルス感染症ですが、オミクロン株の出現により再び予断を許さない状況となっています。一日も早い平穩の訪れを願って止みません。

さて、我々の生活スタイルを一変させた新型コロナウイルスですが、同等以上の対応を迫られているのが「少子高齢化」です。

令和3年11月30日に総務省より発表された2020年国勢調査では「5年前より94万人減少」となっています。実は「日本人の人口は5年間で倍近い178万人も減少していますが、外国人人口がこの5年間で84万人増えているので、その差し引きで日本の総人口が94万人減少」と言うのが事実なのです。今後は少子化による出生数の減少に加え、高齢化による死亡者数の増加が加速し、2100年には日本の人口が今の半分の6000万人程度になると推測されます。

この状態が延々と続けば日本人はやがて絶滅するのではないかと思うかもしれませんが決して恐れることはありません。大量の高齢者群の減少により、現在の釣鐘型のいびつな人口ピラミッドが全年代均等型に移行することで絶対人数は減りますがバランスは補正されていきます。大切なのは人口が6000万人になってしまう未来を「恐ろしい未来」ではなく「当然やってくる未来」としてとらえ、6000万人になってもやっていける道筋を構築すること、そして、そうした視点に考え方をシフトしていくことだと思います。

想像して下さい。現状の検査業務を今の半分の人員で維持できますか？ 将来をしっかりイメージすること、発生するリスクの可能性と対策を意識すること、考えてから行動するのではなく行動しながら考えること、そんな気持ちを持って一人ひとりが今できることを確実に実践すればきっと進むべき道が見えてくるはずです。

皆さんが誇りをもって、かつ、安定的に携わることができる臨床検査業界を目指し役員一同全力で取り組みますが、一歩踏み出すためには、会員、賛助会員を始め関係各位の皆様のお力添えが不可欠です。引き続きのご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



躍動する兵庫、コロナを乗り越え未来へ

兵庫県知事

齋藤 元彦

新年あけましておめでとうございます。

昨年も新型コロナが私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしましたが、県民・事業者・医療関係者の皆様のご協力により、第5波を乗り越えることができました。

しかし、感染再拡大のリスクは続きます。マスク着用、手洗い、「密」の回避など基本的な感染対策の徹底を引き続きお願いします。県としても、保健所や医療提供体制の強化、3回目のワクチン接種の推進など、対策に万全を期します。

同時に、「ワクチン・検査パッケージ」等も活用しながら、飲食、旅行、イベントなど、社会経済活動との両立も図っていきます。

さらに、今年はポストコロナ時代を見据えた取組を本格的に検討・推進する年とします。

その1つは、時代の潮流であるデジタル化やグリーン化の加速。デジタル技術を、働き方、教育、医療・介護、地場産業や農業など様々な分野で取り入れるとともに、再生可能エネルギーの導入拡大や水素の利活用などの地球温暖化対策に力を入れます。

また、少子高齢・人口減少社会への対応や、頻発化・激甚化する自然災害への備え、交流と日常生活を支える道路ネットワークの整備など、すべての県民の皆様が安心して、育ち、働き、暮らし続けられる、だれも取り残さない兵庫づくりを進めます。

大きなポテンシャルを持つベイエリアの活性化にも本腰を入れます。2025年大阪・関西万博は、兵庫に人・モノ・投資を呼び込む大きなチャンスです。更なる発展の起爆剤とすべく、ベイエリアプロジェクトの起動、万博の来場者を県内各地へ誘うフィールドパビリオンの具体化など、新たなチャレンジをしていきます。

もとより、こうした取組は行政だけでできるものではありません。民間との連携をこれまで以上に広げていきます。また、私自身が県内各地で地域の皆さんと対話を重ね、地域の課題やニーズを新たな施策に繋げていく県民ボトムアップ型県政を推進します。

「躍動する兵庫」の実現に向け、飛躍の一年としていく決意です。

皆様のご理解、ご支援をお願いします。

令和4年を迎えて

公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会

副会長 **松田 武史**

旧年中のご厚情に心より感謝申し上げます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、この2年を振り返った際に各職場における臨床検査技師の位置づけ・役割に変化はあったでしょうか。核酸検出検査などで注目を集めました新型コロナウイルス感染症に始まり、現状でも終息は見通せず、さらにオミクロン株の急速な感染が広まりを見せており、まさに、第6波の到来となっています。このような新型コロナ禍の状況においても各人一人ひとりが「チャレンジ」することが非常に重要で、「今までにないことに取り組む」「継続しながら改善していく」など実行し続ける組織としての柔軟性と、スタッフ同士の対話により自主的な改善活動を引き出せるような環境づくりや意識づけを進めることが、これからのリーダーに求められていると思います。

実際に「チャレンジ」する際には思考を転換させることが必要で、これまでの常識や慣例など当たり前だと思ってきたことが、無意識の内にバイアスとなっていることが多々見られます。また、問題を解決する際に「引き算」ではなく「足し算」の発想に頼りがちになります。今まで行って来たことに新しく何かを行う方が、第三者から評価を得やすく、すでに労力・時間・資金を費やしているため、今行っていることの見直し・再評価・修正は避ける傾向にあります。特に臨床検査分野においては、人・時間・資金等のリソースが限られていることは周知の事実です。この現状を打開出来るのは、いうまでもなく臨床検査技師である各個人の努力なくして成しえません。

本来、人は嫌なことや苦手なことは避けて通りたいと思うのは、ごく自然なことかもしれません。しかしながら、「2025年問題」ならびに2040年の医療提供体制を見据えた改革として、「医療計画」「地域医療構想」が策定され、また、新型コロナ禍により医療機関の機能分化と連携強化は、さらに重要課題となり、各医療機能に合わせた臨床検査技師のあり方や、組織の一員としての存在が問われているのではないのでしょうか。今、皆さんが意識・行動変革なされることによって、臨床検査技師としての5年後、10年後の未来像が、より良いものとして描けるようになるのではと思います。

新年早々、少し取りとめの無い話となりましたこと、ご容赦下さい。

今後も私自身が兵臨技の執行部役員として積極的に技師会活動に参画し、更なる臨床検査技師の地位向上を目指し鋭意努力して参りますので、今まで以上に会員・賛助会員の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

令和4年を迎えて

公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会

副会長 **綿 貫 裕**

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

コロナに明け暮れた2年となっています。現在、日本ではワクチン接種、マスクの着用などにより一時的に鎮静化していますが、このような事態を想像できたのでしょうか。今後コロナ感染を克服できたとしても、新しい生活様式が求められる時代となると思われます。この間、保健所・医療機関・検査機関などで、検体採取や検体検査などに従事した会員の皆様には、深く感謝いたします。

少子高齢化が進行している現在、医療・介護分野は医療費の高騰、要介護者・認知症患者の増加などで大きな転換点を迎えています。また、ゲノム医療、ICT(情報通信技術)やAI(人工知能)を活用した医療など、新しい医療が広がっていくという意味での転換点でもあり、臨床検査技師の業務拡大が必要となっています。

日臨技では、医療保険制度改革や医療提供体制の見直し、医師の働き方改革を実践するための作業が進んでいます。兵臨技でも厚生労働省主催のタスク・シフト/シェアに関する講習会開催の準備をしています。タスク・シフト/シェアでは8項目の法改正がなされるとともに、臨床検査技師卒前教育の改正も見込まれています。皆様ご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

今回の法改正の経緯を見ても“政治力抜き”では法律・制度改正は進まないことは明白であり、今後の政策実現・臨床検査技師の未来に向けて、臨床検査技師連盟の加入により、議員を支えていかなければなりません。

又、AIの進歩により、現在のルーチン検査のAI化は目の前にきています。チーム医療という切り口から、検査体制の再構築と技師自らの自己改革を通じて、患者さんのそばに行かなくてはなりません。患者への検査説明、医師への検査項目選択の提案、組織マネジメントを通じて品質保証を行っていく必要があります。そのため、病棟業務や在宅医療への進出を進めていきます。

昨年同様に役員共々、誠心誠意、各事業の遂行に努めて参りますので、会員の皆様の一層のご協力を賜りたく願います。

令和4年を迎えて

公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会

副会長 佐藤 伊都子

新年明けましておめでとうございます。会員の皆さまは新型コロナウイルス感染症がいまだ収束していない状況下で、昨年走り続けた1年だったのではないのでしょうか。その中で兵庫県臨床検査技師会主催の各種研修会やセミナー、施設責任者連絡者会議、また精度管理調査等に多数ご参加下さり感謝申し上げます。

臨床検査技師を取り巻く環境は医療技術の高度化だけでなく、臨床が求める医療により大きく変わろうとしています。臨床現場での救急、病棟、在宅、検診、施設内チームの役割と実施内容を理解するため、臨床検査技師学校養成所指定規則が改正され臨地実習単位が7単位から12単位に引き上げられたことはお聞き及びと存じます。平成26年の法改正「検体採取等に関する厚労省指定講習会」は、現在約6万人が受講を終了しています。新型コロナウイルス検査用の鼻咽頭検体採取に役立った会員も多いのではないのでしょうか。平成30年の法改正「医療法等の一部を改正する法律」では検体検査の精度管理が義務化となり、病院検査室においては、精度の高い検査データを客観的に保証する仕組みの構築が求められています。さらに、新たな業務拡大として令和3年7月「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律」が公布されました。「タスク・シフト/シェアに関する厚労省指定講習会」は、日臨技WEB研修システムの基礎講習を履修し、その後都道府県で開催される実技講習を受講する必要があります。兵臨技では2月より実技講習(60名/回)を順次開催していく予定です。

禅語に「日々新又日新(ひびあらたにしてまたひあらたなり)」というのがあります。自然は、日々移り行き毎日が新しい世界になります。何一つとして、同じ場所にとどまっているものはありません。私たちも変化し成長し続けるという自然の流れを受け入れることによって、明日はまた新しい自分に成長していけるのではないのでしょうか。

最後になりましたが2月には兵庫県医学検査学会も開催されます。兵臨技ホームページでは、研修会の案内や報告、臨床検査に関わる最新の情報等を常に発信しておりますので、自己研鑽のツールに使用していただければと存じます。平素よりお力添えを頂いております会員および賛助会員の皆さまには、感謝申し上げますとともに、今後ともご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和3年 各部局活動報告

■ 事 務 局 ■

□ 事 務 局 □

事務局長 南 雅仁

1. 会務執行体制

理事会の議を経て各部局の会務を執行しました。

事務作業は、臨時職員2～3名体制により、経済性に配慮しながら迅速かつ効率的に実施しました。

HYOGOニュース、ホームページ及び日臨技システムの一斉メールを活用し、会員への迅速な情報提供を実施しました。

国・都道府県公式公益法人行政総合情報サイトに電子申請を行いました。

令和3年度事業計画(令和3年3月25日)

令和2年度事業報告(令和3年6月28日)

2. 総会

令和2年度臨時総会を開催しました。(令和3年3月20日)

令和3年度定時総会を開催しました。(令和3年6月12日)

3. 関連団体への対応として行政及び関連団体への委員、役員等の派遣を行いました。

- ・精度管理専門委員(兵庫県、神戸市、姫路市、尼崎市、西宮市)
- ・日臨技、日臨技近畿支部
- ・健康ひょうご21県民運動推進会
- ・精度管理調査検討会
- ・健康づくり推進員
- ・兵庫県プライマリ・ケア協議会
- ・糖尿病療養指導士兵庫県連合会
- ・兵庫県合同輸血療法委員会
- ・兵庫県医療職団体協議会

4. 各種表彰について

令和3年度 兵庫県健康財団会長表彰(がん予防功労賞) 1名

令和3年度 兵庫県公衆衛生協会会長表彰(公衆衛生功労) 1名

令和2年度 兵臨技功労賞 1名

令和2年度 兵臨技学術奨励賞 1名

□ 総 務 部 □

総務部長 池本 純子

総務部では公文書の作成や発送のほか、総会の企画・運営や各部局から発生する書類の管理を行い、技師会活動が円滑に行えるように事務所の環境整備を行っております。

総会では事業計画や予算案など技師会活動の重要な方針が決定されますので、会員の皆様の貴重なご意見を技師会活動に反映させるため、より多くの会員のご参加を目指しております。今年度はWEB形式での定期総会を開催し、貴重な意見交換の機会として新たな形での取り組みを行いました。兵庫県の地理的な特性もふまえ、WEB活用等、更なる会員サービスの向上に努めて参りたいと存じますので、ご要望やご意見をいただければ幸いです。

直接、会員の皆様と接する機会が少ない部門ではありますが、会員のみなさまに技師会の活動をご理解いただき、より活用いただける様、努めて参りたいと存じますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

【会員状況】(令和4年1月4日現在)

	施 設 数	日臨技+兵臨技	兵 臨 技 の み ※
神 戸 地 区	125	932	63
阪 神 地 区	65	510	19
丹 但 地 区	13	100	7
東 播 地 区	49	443	30
西 播 地 区	48	396	19
未 設 定	0	15	0
合 計	300	2396	138

※ 現在、「兵臨技のみ会員」の賠償責任保険はありません。兵臨技では、全員加入保険（保険料は日臨技が負担）のある日臨技への入会をお勧めしています。

□ 経 理 部 □

経理部長 竹川 啓史

経理部では4月に前年度の決算を行うために、年度末に各部局より提出された出納帳と清算書を元に事務職員、公認会計士の全面的な協力のもと決算書、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録などを作成しています。最終的に外部委員による監査を受け総会に提示します。そして、新会計年度からは新たな事業が始まりますので、1月頃に提出された各部局の事業計画案や予算案を元に全体の予算案を作成し、理事会・総会での承認を得て事業が実施されます。毎月の業務として、理事会・常務理事会には予算管理月報を提出し、収支額が予算に対して適正かどうかの確認も行っています。以上が経理部の仕事ですが、無駄のない適正な運用を心掛けています。今後も継続して負担を軽減できるように努めていきたいと考えています。

また、2月には令和3年度兵庫県医学検査学会（第26回）が開催されます。令和4年には第61回日臨技近畿支部医学検査学会が兵庫県で開催されます。コロナ禍ではありますが、会員の皆様が良い環境の下、学会・研修会に参加できるように運用をしますので、よろしくお願いいたします。

■ 組織活動局 ■

□ 組 織 部 □

組織部長 大崎 博之

組織部では、各地区（丹但・西播・東播・阪神・神戸）の理事が中心となり、各地域の会員の資質向上と連携強化のために活動しています。

一昨年は新型コロナウイルスの関係で、多くの研修会や会議が中止を余儀なくされましたが、昨年は役員や会員も Zoom の使用にも慣れてきて、ほぼ例年通りの活動ができたのではないかと思います。特に、例年参加者の少なかった阪神・神戸地区の合同施設責任者・連絡者会議を Zoom で実施した結果、参加者が増加しました。また、新人研修会では、各地区理事がインシデントに関する動画を作成し、何が問題であったのかについて新人同士で discussion してもらいました。私も企画段階から参加しましたが、各地区理事の皆さんが作成した動画の出来は素晴らしく、また新人の皆さんの意見も驚くほどしっかりしていたことに感動しました。

本年も、各地区理事の皆さんとともに会員の資質向上と連携強化のために事業を企画・実行する所存ですので、ご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願いします。

【丹但地区】

- 令和 3 年 2 月 27 日 第 15 回丹但地区学術組織合同研修会 WEB 開催（参加者 55 名）
- 令和 3 年 2 月 27 日 丹但地区会議 WEB 開催（参加者 8 名）
- 令和 3 年 5 月 18 日 丹但地区施設責任者・連絡者会議 WEB 開催（参加者 14 名）
- 令和 3 年 6 月 27 日 第 41 回丹但地区研究発表会 朝来医療センター会議室・WEB 併用
（参加者 70 名：会場参加 22 名、WEB 参加 48 名）

【西播地区】

- 令和 3 年 3 月 17 日 令和 2 年度西播地区施設責任者・連絡者会議（参加者 25 名）
- 令和 3 年 4 月 25 日 令和 3 年度第 12 回西播地区研修会 WEB 開催（参加者 55 名）
- 令和 3 年 6 月 23 日 令和 3 年度第 1 回西播地区 地区会議 WEB 開催（参加者 21 名）
- 令和 3 年 7 月 25 日 令和 3 年度第 38 回西播地区研究発表会 太子町あすかホール・WEB 併用
（参加者 114 名：会場参加 43 名・WEB 参加 71 名）
- 令和 3 年 8 月 18 日 令和 3 年度西播地区施設責任者・連絡者会議（参加者 22 名）
- 令和 3 年 11 月 17 日 令和 3 年度第 2 回西播地区 地区会議 WEB 開催（参加者 22 名）

【東播地区】

- 令和 3 年 2 月 20 日 令和 2 年度東播地区施設責任者・連絡者会議（参加者 15 名）
- 令和 3 年 7 月 28 日 第 1 回東播地区ナイトセミナー（参加者 92 名）
- 令和 3 年 12 月 18 日 第 30 回東播地区研究発表会（参加者 57 名）

【阪神・神戸地区】

- 令和 3 年 3 月 10 日 令和 2 年度阪神・神戸地区合同施設責任者・連絡者会議 WEB 開催（参加者 23 名）
- 令和 3 年 11 月 14 日 令和 3 年度新人研修会 WEB 開催（参加者 33 名）

□ 広 報 部 □

広報部長 住ノ江 功夫

広報部は、会報等の紙媒体やホームページ(以下HP)などInformation Technology(以下IT)を活用して、会員の皆様に兵庫県臨床検査技師会の活動内容および研修会の案内・報告、臨床検査に関わる最新の情報等を発信しています。

今年度はHPの全面リニューアルを行いました。リニューアルしたHPは、広報委員や情報センター、および各ページで権限が与えられた理事や班長が、編集や操作が出来るようになり、お知らせや緊急の対応など、よりリアルタイム性が増しています。また、以前より要望が多かった求人情報のページの充実、事務所への問い合わせなども更新し、HPを介して情報のやり取りが出来るようになっていきます。現在のHPのアクセス数は、以前よりも著増しており、より使いやすく情報発信の場になりました。リニューアル当初は多くのトラブルや問題点がありましたが、現在は安定的に運用が可能となり、今後は研修会の動画や資料のダウンロードなどより充実した内容に更新する形を考えています。

機関誌では、会報HYOGO(HYOGO JOURNAL)は、令和2年の各部局活動報告等を含む新春号を2021年2月に発行しました。一方、HYOGOニュースは今年度より全面カラーでの発行となり、より情報が伝わりやすい誌面を進めました。コロナ禍でもあり、隔月発行での形になりますが、技師会活動を通じて情報共有の場を提供しています。コロナ禍の自粛が続くなかでも、好評を頂いている「会員グルメ情報～珠数つなぎ～」は、自粛解除の希望、飲食店を応援する気持ちを込めて、引き続き掲載を続けています。この会報HYOGO JOURNALが発行される頃には、第371号発行に向けて準備を進めているところとなります。

広報部は臨床検査情報センターと連携しながら、HPにより一層ITを活用し研修会等の速報、兵臨技の事業活動や市民公開講座等の情報を会員だけでなく、一般の皆様にも迅速に提供してまいります。また、広域な兵庫県にて開催される学会、研修会により多くの会員の方々に参加していただけるように、情報を迅速かつ効率的に伝達するよう努めてまいりますので、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

□ 渉 外 部 □

渉外部長 安部 史生

渉外部では、協働事業として県内医療職関連団体と連携強化を行い、同じ医療職従事者間で情報交換を行いながら、合同研修会・イベントを通して一般市民の方々に臨床検査技師を知っていただくと共に県民の健康増進と疾病予防・公衆衛生の向上を図る活動を行いました。そのほか、コロナ禍における各施設臨床検査室等におかれた現状調査や、兵庫県広域合同防災訓練では医師会チームに参画して災害医療を展開し、救護所、被災医療機関の病院機能維持支援等での医療活動の基盤整備活動を行いました。

また、50施設、65名の求人情報を紹介しました。

1. 第48回兵庫県医療職団体協議会合同研修会

開催日：例年1～2月

コロナ禍により開催中止

2. コロナ禍における各施設臨床検査室等の業務負荷等現状のアンケートを実施いたしました。55施設の検査室責任者と311名の会員より回答のご協力を頂きました。
3. 看護の日
開催日：例年5月
コロナ禍により開催中止
4. メディカルスタッフ体感WEBセミナー
開催日：令和3年10月30(土)～31日(日)
内 容：公益財団法人神戸医療産業都市推進機構主催のWEBセミナー。
将来を担う中高生を対象とし、臨床検査技師の役割や仕事内容と資格取得への道を紹介しました。
『医療を支える臨床検査技師～臨床検査技師になるには～』
(日臨技作製動画)をWEBにて配信。
5. 看護フェア
WEB開催
開催日：令和3年11月～令和4年3月31日
テーマ：フレイル予防
当会より「フレイル予防に役立つ臨床検査の紹介」としてInBodyを用いての体組織成分分析からSMIという指標についてフレイルやサルコペニアの診断への有効性などに触れた動画を掲載
6. 兵庫県・淡路地域合同防災訓練(令和3年度近畿府県合同防災訓練)
開催日：令和3年12月5日(日)
目 的：「近畿圏危機発生時の相互応援に関する基本協定」、「緊急消防援助隊の編制及び実施の施設の整備等に係る基本的な事項に関する計画」に基づく合同防災訓練を兵庫県で実施し、災害時における防災関係機関相互の連携や広域防災体制の充実強化を図る
会 場：淡路市生穂新島(メイン会場)、洲本市関西太平洋鉱産採石場跡地
(サテライト会場)他
内 容：兵庫県災害対策課が主催で行う合同防災訓練へ理事1名と会員1名で参加
JMAT(日本医師会災害医療チーム)に参画し、救出救助の救護所や被災医療機関の病院機能維持支援活動を行いました。

■ 事業推進局 ■

□ 学 術 部 □

学術部長 藤原 美樹

令和3年度の各部門主催の研修会は、新型コロナウイルスの影響により多くがWEB開催となりました。昨年から引き続きであったことから、学術部としても様々な検討を行い、各研究班で様々な企画の研修会を開催させていただきました。

令和3年の研修会は、チーム医療研究班3回、一般検査研究班6回、輸血検査研究班2回、生理検査研究班4回、微生物検査研究班6回、病理・細胞検査研究班11回、化学免疫検査研究班4回、血液検査研究班4回、合同研修会1回、学術部として精度管理報告会を1回開催し、合計で42回と多くの研修会を開催することが出来ました。参加者も2,365名となり、WEB開催の参加しやすさからかもしれませんが、多くの方々に参加していただける形となりました。今後の新型コロナウイルスの流行状況にもよりますが、これからの学術部の活動としては、WEB開催も一般的な研修会の形として取り入れた中で、継続して様々な企画が検討できるのではないかと考えておりますので今後とも宜しくお願い致します。

以上が各研究班活動の総括であり、今後も毎月学術部会を開催し会長を含めた各研究班の班長と検討を重ねて新しい企画を進めていきます。基礎から専門分野までの内容で指導者育成の一助となる研修会、さらに本年2月には令和3年度兵庫県医学検査学会(第26回)や第61回日臨技近畿支部医学検査学会も開催予定です。

今後とも会員の皆様の御支援、御協力を頂き運営致しますので宜しくお願い致します。

【臨床化学・免疫血清部門研修会】 研修会開催回数 4回			参加者総数 208名	
令和3年2月25日	WEB開催	化学免疫検査研修会	参加人数 54名	
令和3年6月24日	WEB開催	化学免疫検査研修会	参加人数 52名	
令和3年8月26日	WEB開催	化学免疫検査研修会	参加人数 43名	
令和3年10月21日	WEB開催	化学免疫検査研修会	参加人数 59名	

【生理検査研修会】 研修会開催回数 4回			参加者総数 260名	
令和3年1月20日	19:00～20:15		参加人数 37名	生涯教育点数 専門20
WEB研修会	精度管理報告会(生理部門) 心電図検査 心エコー検査 腹部エコー検査 神経伝導検査		沖 都麦 先生 (神戸大学医学部附属病院) 住ノ江 功夫 先生 (姫路赤十字病院) 伊東 宏祐 先生 (明和病院) 柴山 沙織 先生 (兵庫医科大学病院)	
令和3年2月20日	WEB開催	生理研修会	参加人数 85名	
令和3年4月24日	WEB開催	生理研修会	参加人数 88名	
令和3年10月30日	WEB開催	生理研修会	参加人数 50名	

【微生物検査研修会】 研修会開催回数 6回			参加者総数 467名	
令和3年1月21日	18:30～20:30		参加人数 59名	生涯教育点数 専門20
WEB研修会	感染対策のお話、グラム染色のお話		山本 剛 先生 (神戸市立医療センター中央市民病院)	
令和3年2月26日	WEB開催	微生物検査研修会	参加人数 80名	
令和3年5月20日	WEB開催	微生物検査研修会	参加人数 76名	
令和3年6月18日	WEB開催	微生物検査研修会	参加人数 97名	
令和3年7月16日	WEB開催	微生物検査研修会	参加人数 103名	
令和3年12月17日	WEB開催	微生物検査研修会	参加人数 52名	

【病理・細胞検査研修会】		研修会開催回数	11回	参加者総数 401名	
令和3年5月12日	WEB開催	細胞検査定期研修会(総論・基礎)	参加人数	25名	
令和3年5月26日	WEB開催	細胞検査定期研修会(呼吸器)	参加人数	34名	
令和3年6月16日	WEB開催	細胞検査定期研修会(婦人科)	参加人数	35名	
令和3年6月30日	WEB開催	細胞検査定期研修会(泌尿器・体腔液)	参加人数	28名	
令和3年7月14日	WEB開催	細胞検査定期研修会(非上皮性腫瘍)	参加人数	33名	
令和3年8月25日	WEB開催	細胞検査定期研修会(甲状腺・乳腺)	参加人数	32名	
令和3年9月8日	WEB開催	細胞検査定期研修会(スライド模試①)	参加人数	37名	
令和3年9月22日	WEB開催	細胞検査定期研修会(1次模擬試験・筆記)	参加人数	34名	
令和3年10月13日	WEB開催	細胞検査定期研修会(スライド模試②)	参加人数	36名	
令和3年10月17日	WEB開催	令和3年「認定病理検査技師による研修会」	参加人数	70名	
令和3年11月23日	参加型研修会	兵庫技細胞検査士2次模試対策	参加人数	37名	

【一般検査研修会】		研修会開催回数	6回	参加者総数 374名	
令和3年2月24日	WEB開催	一般検査研修会(ジュニアコース第3回)	参加人数	60名	
令和3年5月28日	WEB開催	一般検査研修会(ジュニアコース第1回)	参加人数	67名	
令和3年6月23日	WEB開催	一般検査研修会(ジュニアコース第2回)	参加人数	69名	
令和3年7月21日	WEB開催	一般検査研修会(ジュニアコース第3回)	参加人数	62名	
令和3年8月18日	WEB開催	一般検査研修会(ジュニアコース第4回)	参加人数	57名	
令和3年10月29日	WEB開催	一般検査研修会	参加人数	59名	

【輸血検査研修会】		研修会開催回数	2回	参加者総数 126名	
令和3年6月26日	WEB開催	第1回輸血検査研修会	参加人数	71名	
令和3年7月17日	WEB開催	第2回輸血検査研修会	参加人数	55名	

【血液検査研修会】		研修会開催回数	4回	参加者総数 230名	
令和3年7月30日	WEB開催	第1回血液検査研修会 自動血球分析装置の測定原理と異常フラグの考え方	参加人数	52名	
令和3年8月20日	WEB開催	第2回血液検査研修会 凝固検査を紐解く 凝固時間	参加人数	70名	
令和3年10月22日	WEB開催	第3回血液検査研修会 凝固検査を紐解く	参加人数	56名	
令和3年12月17日	WEB開催	第4回血液検査研修会 ①貧血データの見方 ②凝固検査のビットフォール	参加人数	52名	

【チーム医療部門研修会】		研修会開催回数	3回	参加者総数 170名	
令和3年1月29日	18:30～20:00		参加人数	63名	生涯教育点数 基礎20
WEB研修会	患者対応を第一に考えた採血室運営 採血できるようにしたい！その思いを大切に ちょっとだけコロナ対策のお話も		高岡 欣也 先生 (加古川中央市民病院) 神前 雅彦 先生 (兵庫医科大学病院)		
令和3年6月25日	WEB開催	チーム医療研修会	参加人数	65名	
令和3年8月27日	WEB開催	チーム医療研修会	参加人数	42名	

【血液検査・遺伝子検査合同研修会】		研修会開催回数	1回	参加者総数 88名	
令和3年2月7日	14:00～16:20		参加人数	88名	生涯教育点数 基礎20
WEB研修会	講演1: 骨髄像検査はじめての一步 ～誰でもできる報告書作成～ 講演2: 造血器腫瘍におけるフローサイトメトリーの基礎 ～結果の見方・考え方～ 講演3: 臨床の現場で役立つ遺伝子検査 ～いまさら聞けない遺伝子の基本から～		中村 真一 先生 (公立八鹿病院) 山根 範子 先生 (県立尼崎総合医療センター) 野口 依子 先生 (神戸大学医学部附属病院)		

【学部開催】		研修会開催回数	1回	参加者総数 41名	
令和3年2月28日	WEB開催	令和2年度 精度管理調査報告会	参加人数	41名	

□ 精度管理事業部 □

精度管理事業部長 狩野 春艶

兵庫県臨床検査技師会精度管理調査は県民に信頼性の高い臨床検査データを提供することを目的とし、兵庫県臨床検査技師会と兵庫県医師会との共同事業として実施しています。令和3年度(第41回)の参加施設は141施設です。調査項目は化学検査(26項目)、ヘモグロビンA1c、血液ガス(3項目)、免疫検査(6項目)、血球計数検査(5項目)、凝固検査(3項目)、便潜血、微生物検査、輸血検査、病理組織、免疫組織化学染色、フォトサーベイ(血液像、尿沈渣、微生物塗抹鏡検、細胞診、生理機能)と多岐に渡り、さらに今年度は新型コロナウイルス核酸検査を追加し、日本医師会や日本臨床検査技師会主催の臨床検査精度管理調査で実施していない項目にも対応しています。

また、兵臨技の精度管理調査は全国精度管理調査と異なり、マトリックス効果の生じない実試料(プール血清、新鮮血や病理組織)を用いているため、日常検査の誤差要因を解析しやすいこと、評価基準より大きく外れた「C」評価施設へは精度管理改善へのサポートを実施することにより、県下の臨床検査の精度の向上に寄与しています。令和2年度より各学術研究班の協力の下、全分野において改善サポートを実施し、各施設のPDCAサイクルが活性することにより施設の品質向上に繋がっていると考えます。

外部精度管理調査は自施設の検査結果を客観的に評価し、検査結果の正確性を保証することが可能です。各施設の検査精度の向上を目標に事業を進めて参りますので会員皆様方のご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

精度管理事業部の活動内容

令和3年1月～	令和2年度(第40回)精度管理調査報告会開催(分野ごと)
令和3年2月28日	令和2年度(第40回)精度管理調査報告会開催(全分野合同)
令和3年3月1日	令和2年度(第40回)精度管理調査 解析資料集発送
令和3年3月13日	令和2年度(第40回)精度管理調査検討会開催(兵庫県医師会合同)
令和3年7月1日	令和3年度(第41回)精度管理調査 施設長への案内送付
令和3年8月3日	令和3年度(第41回)精度管理調査 申込開始(JAMTQC)
令和3年9月14日	令和3年度(第41回)精度管理調査 申込締め切り(JAMTQC)
令和3年11月3日	令和3年度(第41回)精度管理調査 試料発送(精度管理委員他)
令和3年11月4日	令和3年度(第41回)精度管理調査 回答開始(JAMTQC)
令和3年11月16日	令和3年度(第41回)精度管理調査 回答締め切り(JAMTQC)
令和3年12月2日	令和3年度(第41回)精度管理調査検討会打合せ会(兵庫県医師会合同)
令和3年12月～	令和3年度(第41回)精度管理調査 解析作業実施(精度管理解析委員)
令和3年12月～	令和3年度(第41回)精度管理調査 サポート開始(精度管理委員)

□ 公益事業部 □

公益事業部長 澁谷 雪子

兵庫県臨床検査技師会として、臨床検査の有用性を知って頂き、臨床検査を社会還元できることを目指し活動をしています。

県民に対して公衆衛生では、保健・医療、臨床検査の重要性や有用性に関する情報提供をとおり、疾病予防の関心を高め、健康診断受診率の向上を図り、公衆衛生の向上を図ることを目的として各事業を実施しています。

令和3年12月4日(土) 令和3年度検査セミナー(ハイブリッド形式で開催)

令和3年12月 検査と健康展2021(WEB開催)

第368号

HAMT HYOGOニュース

公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会
〒651-0085 神戸市中央区八幡通4-1-38
TEL 078-271-0255 FAX 078-271-0256
E-mail info@hamt.or.jp

編集委員
住ノ江功夫 / 中村光希 / 湊 宏美 / 渡邊優子
矢野美由紀 / 小松敏也 / 鳥居良貴

臨床検査情報センター
URL <http://www.hamt.or.jp>

今月の目次

- 《各部局報告》・小島三郎記念技術賞を受賞して（大崎組織部長）..... 1～2
- 2020年度第1回東播地区ナイトセミナーに参加して..... 3
- 《行事予定表》..... 4～5
- 《会員グルメ情報》・《求人情報》..... 6～7

各部局報告

学 術

WEB研修会を開催して

(10月18日)

加藤 正輝（輸血検査研究班班長）

10月から兵庫県臨床検査技師会でZoomが使用できるようになり、ようやく輸血検査研修会開催に至りました。30名の応募があり、27名が参加して頂けたと思っているのですが、Zoom上では個人の確認ができません。そこで、参加登録にグーグルフォームを使用しました。同時にご意見を伺えるメリットがあります。23名の返信がありました。URLが解らないや、登録方法が解らないなどの理由で登録できなかった参加者がいたら、申し訳なく思います。

初めてのWEB研修会には不安が大きかったのですが、いち早く研修会を開催した研究班があり、苦勞したことなどを聞いていたため、事前に対策ができたことは大変助かりました。例えば、参加申込みの返信対応があります。メールによる申込みのため、届いている?と不安になると思い早く返信したいのですが、その作業が大変です。そこで自動返信を採用しました。ただ、こちらからのメールを受信できずに招待メールが届かないケースがありました。また、動画の使用方法についても検討が必要です。などなどまだまだ課題は多いと感じています。

WEB開催の演者は、受講者の顔が見えず、上手く話せているか心配になります。半ば誘導尋問ですが、返信頂いた23名の皆さんが満足度を良かったと回答してくれていることにひと安心しています。次のテーマを検討していますので、開催が決定した際には、懲りずにご参加をお願い致します。

第1回輸血検査研修会WEBに参加して

瀬見 亜優会員（神鋼記念病院）

Zoomを使用した第1回輸血検査WEB研修会に参加しました。

研修テーマは、血液型検査と不規則抗体検査（消去法）です。

血液型の歴史からはじまり、検査手順、判定方法、ガイドラインに則った消去法などの日々の業務に役立つ内容でした。輸血検査は用手法が多いため、手技のポイントなど、今更聞けないと思っていた事が解消され、大変勉強になりました。

Zoomの使用は初めてでしたが、班員の方のサポートもあり、安心して聴講することが出来ました。また、スマートフォンを使用しての聴講でしたが、スライドも見やすく、質問はチャット機能を用いて伝えることが可能なので、人前で話す事が苦手な私にはありがたい機能でした。

対面での研修会には実技など体感できる学びがありますが、オンライン研修会は距離などの理由で、いままで参加できなかった人が、学べる良い進化になると思います。

対面とオンラインと両方の選択肢があれば会員としてありがたいです。

この度は、このような企画をしていただき、ありがとうございました。

新型コロナウイルスの検査に関するPCR実技研修会に参加して(9月6日)

高橋 利江会員 (ツカザキ病院)

今年に入ってから新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、日本中で増加してきました。

当院においても、外来患者様、手術前検査のスクリーニングにより新型コロナウイルス感染症のPCR検査が増加しました。

その様な中で、私自身のスキルアップだけでなく、地域医療に貢献できればと思い、令和2年9月6日、兵庫県との共催の新型コロナウイルスの検査に関するPCR実技研修会に参加させていただきました。

研修では実技だけでなくPCR検査の流れから始まり、RNA抽出の原理、RT-PCR反応の原理・反応条件、検査結果の見方等の座学も実技前に学ぶことで、実技において今自分が何を行っているのか理解ができ、より知識が深まりました。

また検査過程においてウイルス暴露、コンタミネーション防止等を教えていただき、実際に行う際の注意点がよく解りました。

現在私自身が行っているLAMP法の手技も同時に学び、遺伝子増幅の原理、PCR検査との違い、LAMP法の特徴を再度理解しました。

研修会では普段あまり気にしていなかったピペットの使い方、必ず安全キャビネット内で行わなければならない検査過程等、基本的な操作を学ぶことができたので、検査手技を見直し、検査室を汚染させていないか、自分自身が暴露していないか再確認できました。

また、検査結果の陰性・陽性の見方、再検査した方が良い検査結果の見方も教えていただいたので、臨床側に結果を報告する際にその検査結果が本当に正しいのかを自分で判断できるようになったと思います。

研修中は随時質問に答えていただき、疑問が残らないように進行され、参加者の雰囲気も良く、一体となってPCR検査を学ぼうと意欲的でした。このような研修会に参加でき嬉しく思います。



小島三郎記念技術賞を受賞して

大崎 博之会員 (組織部部長：神戸大学大学院)

この度は、小島三郎記念技術賞という大変名誉ある賞を賜り感激しております。

私は、臨床検査技師として四国の国立病院で15年間勤務した後に、四国の県立大学で教員として10年間勤務し、5年前より神戸大学大学院で勤務しております。私が臨床検査技師として勤務していたのは、香川県の山の中にある200床程度の中小規模施設でした。私の主な業務は病理・細胞診でしたが、午前中は一般検査など他部署を手伝うこともありました。そして、一般検査の尿沈渣ではネフロン由来の細胞をはじめ様々なものを観察しているのに対し、尿細胞診では癌細胞のみしか観ていないことに疑問を持ちました。そのため、病院勤務時代から、尿細胞診におけるネフロン由来細胞の細胞学的特徴と臨床的意義の解明をテーマとして検討を続けてきました。

糸球体腎炎はポドサイト(糸球体上皮細胞)が傷害を受けて糸球体基底膜から剥離することにより惹起されます。剥離したポドサイトは尿中に出現するため、これを検出することで糸球体腎炎を早期発見できるのではないかとこの着想に至りました。そして、国際的標準法になり得る

SurePath法で尿細胞診標本を作製し、ポドサイトマーカーであるWT1抗体を用いた免疫染色(酵素抗体法)を行うことで尿中ポドサイトを検出する方法を考案しました^{1,2)}。このことが評価され、今回の受賞につながりましたが、これは私が地方の中小規模施設で複数の検査部門を掛け持ちせざるを得なかったからこそ気づいたテーマです。研究というと恵まれた環境で最先端のことを行うものと考えがちですが、日常の業務の中で生まれた疑問を解決していくことも立派な研究だと思います。今回の私の受賞が、中小規模施設で頑張っている若手の臨床検査技師の励みになればこの上ない喜びです。

最後になりましたが、今回の受賞はご指導いただいた先生や先輩方、協力してくれた同僚や後輩、家族のおかげです。この場を借りて御礼申し上げます。

- 1.Ohsaki H*, et al. WT1 immunoenzyme staining using SurePath processed urine cytology helps to detect kidney disease. Cytopathology. 2016; 27: 43-49.
- 2.Fujita T, Ohsaki H*, et al. Urinary WT1-positive cells as a non-invasive biomarker of crescent formation. Cytopathology. 2017; 28: 524-530.

*: corresponding author



2020年度第1回東播地区ナイトセミナーに参加して (10月23日)

伊藤 拓哉会員 (高砂市民病院)

ナイトセミナーは東播地区で定期的に行われている研修会で、今回はWEBで開催されました。内容は『新型コロナウイルスについて』で新型コロナウイルスの基礎から発生状況、検体ごとの検出感度や検査の適応など幅広い内容で、とても分かりやすいものでした。WEB研修会に参加するのは初めてで自施設で参加することができ、会場に行く必要もないため気軽に参加できました。また、質問はチャット機能を用いることでできるという点もシャイな私にとってはとても良かったです。しかし、東播地区の研修会は近隣の施設で開催され、同じ地域の臨床検査技師が顔を合わせる数少ない場となっているため、個人的には現地での開催の方がいいように感じました。早く新型コロナウイルスの流行が落ち着いて、再び現地開催の研修会に参加したいと思います。

酒井 美玖会員 (加古川中央市民病院)

令和2年度第1回東播地区ナイトセミナーに参加させて頂きました。初めてのWEB開催で、各施設だけではなく自宅からも多くの参加がありました。

今回のテーマは新型コロナウイルスについてで、海外・日本における現在の感染状況、感染が拡大している原因、検査方法などを学びました。ニュースや新聞などで、感染者数やウイルスについて耳にすることは多いですが、疫学や感染拡大のポイントを詳しく学ぶ機会はなかったので大変勉強になる内容でした。

色々な検査方法やその感度の違い、発症日によって推奨される検査項目など学ぶことができ、様々な知識を得ることができました。セミナーで学んだことを活かし、さらに自分自身でも積極的に新しい情報を取り入れ、今後の業務において臨機応変に対応できるように努めていきたいと思っています。



公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会 651-0085 神戸市中央区八幡通4-1-38 TEL 078-271-0255 FAX 078-271-0256 E-mail info@hamt.or.jp
編集委員 住ノ江 功夫 / 中村 光希 / 湊 宏美 / 渡邊 優子 / 矢野 美由紀 / 小松 敏也 / 鳥居 良貴
臨床検査情報センター URL <http://www.hamt.or.jp>

CONTENTS

新年の挨拶（令和3年新春に向けて）	1
「検査セミナー」開催される・令和2年度検査セミナー参加報告	2～3
公衆衛生協会会長表彰を受賞して・行事予定・求人情報	4
会員グルメ情報	5

HYOGO ニュース刷新…フルカラー印刷となりました

新年の挨拶 令和3年新春に向けて

公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会
会長 真田 浩一



新年明けましておめでとうございます。

2019年12月に中国の武漢市で発生した新型コロナウイルスは爆発的に拡大し、あっという間に世界中を飲み込みました。1年が経過しましたがその勢いはいまだ衰えず、未来永劫続くと思っています。いたささまざまな日常はいとも簡単に崩れ去っています。この状況下「ニューノーマル」という言葉をよく耳にするようになりましたが、皆さんはご存じでしょうか？

「ニューノーマル」とは、社会的に大きな影響を与えるできごとが社会に変化をおこし、新しい常識や常態が生まれることで「新常态」とも呼ばれます。ニューノーマルの時代は、事業環境が刻々と変わることが特徴です。しかもどのように変わるかは、誰にもわかりません。厄介なところは、変化しないことを選んだ場合でも今の状態を維持できるとは限らず、むしろ最悪の結果を招くおそれすらあることです。答えが誰にも分からない時代には、変化に対する迅速な対応が必須です。今後おこりうる事態を積極的に予測した上で十分かつすばやく検討し、必要なアクションをおこすことがトータルでのリスクを下げることに繋がります。

現在、新型コロナウイルス以外にも、少子高齢化、働き方改革、タスクシフティング、ゲノム医療の進歩、個別化医療、AIの台頭など「ニューノーマル」に繋がるキーワードが多数存在します。

今後は「変化しないことは悪」との前提のもと、何が必要なのか一人一人が自分自身で考えること、それを実行、検証、修正、再試行するPDCAサイクルが回せるしくみと、失敗してもよいので積極果敢にトライできる雰囲気をつくるのが大切だと考えます。

この困難な状況を乗り切るためには会員、賛助会員を始め関係各位の皆様のお力添えが不可欠です。皆さんが誇りをもって、かつ、安定的に携わることができる臨床検査業界を目指し役員一同全力で取り組みますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和2年度「検査セミナー」開催される

令和2年12月5日(土)に、兵庫県臨床検査技師会と兵庫県がん診療連携協議会と共催で、がん診療に従事する医療関係者を対象とした「検査セミナー」が開催されました。コロナ禍のため、会場とZoomを用いたオンラインでのハイブリット形式で行われました。当日は会場16名、WEBでは67名の方が参加され、会場では、参加者は机1卓に1名、質疑応答のマイクは1人ごとに消毒など、十分な感染対策を行い開催されました。WEBでは、専門のスタッフが配置されておりました。講演1で音声トラブルがありましたが、WEB参加スタッフと会場スタッフとの連携により講演2には解消されました。

今年度のテーマは“がん診療における循環器合併症”として、著名な講師の先生方にご講演頂きました。質疑応答は会場のみでしたが、会場からの質問も多くあり、非常に有意義な研修会となりました。

- 講演1 「生理学的検査で診る がん関連血栓症・心毒性」
演者：佐藤 洋 先生(関西電力病院 臨床検査部技師長)
- 講演2 「がんセンターにおけるCAT(がん関連血栓症)の実態」
演者：野中 顕子 先生(兵庫県立がんセンター 循環器内科部長)
- 講演3 「がんセンターにおけるCTRCD(がん治療関連心機能障害)対策」
演者：福田 優子 先生(兵庫県立がんセンター 循環器内科医長)

講演1の佐藤先生からは、がん関連での血栓症、心毒性の基本的な内容について、お話し頂きました。動静脈血栓や心毒性について、臨床検査技師が関わる検査内容が多いことを改めて感じました。個々の検査だけを理解するのではなく、がん治療の視点から検査の意義を知り、知識として我々臨床検査技師が知っておくことは重要であると感じました。

講演2の野中先生からは、CAT(がん関連血栓症)の実態について、お話し頂きました。がんにより血栓症を発症することは知られていますが、がんの種類(特に婦人科がん、肺がん、膵がん、リンパ腫)により血栓形成が多いこと、またその血栓形成時期(初回治療時、終末期)で異なることを、がんセンターの統計をもとに解説頂きました。結語でも、がんの予後が良いといわれる、婦人科がんや悪性リンパ腫は初期から中期に発症しており、全力で早期発見・早期治療を行うことの重要性を強く報告されていました。

講演3の福田先生からは、抗がん剤による心筋障害についてお話し頂きました。ガイドラインの作成にも携わられており、現在のトピックについて聞くことができました。特に心毒性の強い、アントラサイクリン系の抗がん剤使用時における、心エコー検査の重要性を言われており、従来の収縮性指標の左室駆出率(EF)の低下だけでなく、早期に判断できるglobal longitudinal strain(GLS)を指標とした早期治療介入の必要性を言われていました。今後も抗がん剤による治療は増加すると予想されており、循環器合併症を早期に発見し治療介入する臨床検査技師の重要性は高いと言えます。

会員の皆様も日々進歩する現代の医療を学ぶことができる「検査セミナー」に、今後ともご参加下さい。

(文責：広報部)



令和2年度検査セミナー

「がん診療における循環器合併症 ～より長期の生存のために～」に参加して (WEB参加)

湊 宏美会員 (兵庫医科大学病院)

令和2年12月5日に開催された検査セミナーにWEB参加を行い、著名な先生方のご講演を拝聴することができました。

演題1の佐藤先生のご講演ではがん治療に関連する合併症として、心筋障害、血栓塞栓症、末梢血管疾患および脳梗塞を中心に、これらの検査に関わるエコー検査や脈波検査など、臨床検査技師として関わる機会の多い内容について解説いただきました。

2演題目、野中先生はがん関連血栓症について、血栓症のリスクはがん初回治療時と終末期に高い傾向を示すという報告をいただきました。特に腫瘍による静脈圧排が認められる、婦人科系がんや悪性リンパ腫などではがん初期・中期のVTE(深部静脈血栓症)発症が多く、これらのがんは予後が良好であることから、血栓症による死亡を回避するため、積極的にVTEの早期発見・早期治療を行うことが望ましいと結論されました。その一方で、肺がんや膵がんなどではがんの終末期に凝固能を主体としたVTEを多く発生し、腫瘍による圧排を伴わないことから、血栓症の予測が難しく、がんの予後が不良である時期ということもあり、適切な介入が必要であるとの見解を示されていました。

最終演題、福田先生からはCTRCD(がん治療関連心筋障害)についてのご講演をいただきました。アントラサイクリン系抗がん剤の心毒性による心筋障害は、予後が不良であり、がん治療に影響を及ぼすため、CTRCDを早期発見することで抗がん剤による心不全の発症を妨げる可能性を示唆されました。さらにCTRCDの早期発見にはエコー検査でのGLS(global longitudinal strain)が有用であり、ご自身の施設内での情報発信や、エコー検査のオーダーシステムについての取り組みについても紹介いただきました。

高齢化に伴い、循環器疾患を伴うがん患者はますます増加していくように思われます。エコー検査をはじめとした循環器領域の検査について、臨床側からの要望に応えるだけでなく、臨床検査技師側からも積極的に介入し、スタッフ間でのすみやかな情報・共有がなされることで、早期発見・早期治療につながるものと考えます。

今回私はWEBでのセミナー参加でありましたが、音声トラブルに対する会場での臨機応変な対応やオンライン配信等の配慮により、無事に受講することができました。コロナ禍という社会を取り巻く環境が大きく変化している中で、会場とWEBを併用した新しい情報発信の場が徐々に浸透しつつあると感じました。加えて、これまでは様々な制約により、なかなか会場に足を運べなかった研修会やセミナーにも気軽に参加できるようになり、広い見識を得られる機会が増えたように感じます。スムーズな運用には課題も多くあるかと思いますが、必要な知識や情報を多くの方と共有できるよう、時代に即した新しい情報発信の場が設けられることの必要を改めて感じました。



令和2年度検査セミナー

「がん診療における循環器合併症 ～より長期の生存のために～」に参加して (会場参加)

渡邊 優子会員 (神戸大学医学附属病院)

令和2年12月5日に開催された検査セミナーに会場にて参加致しました。

私事ではございますが半年前より生理検査部門に異動し、DVT(深部静脈血栓)エコー検査も行うようになり、演題1「生理学的検査で診る がん関連血栓症・心毒性」の佐藤先生、演題2「がんセンターにおけるCAT(がん関連血栓症)の実態」の野中先生の講演に興味をもち、本セミナーへの参加を決めました。静脈を圧排するような、婦人科がんや悪性リンパ腫では血栓症のリスクは高いだろうとは思っていましたが、直接的に血管を圧迫しそうにはない、肺がんや膵がんでもCAT発症のリスクが高い(特にがんの終末期において)ということを知りました。

演題3「がんセンターにおけるCTRCD(がん治療関連心機能障害)対策」の福田先生の講演では、がん治療における薬剤の種類によっても、心不全をきたし、がんではなく心不全によって予後不良となる場合があるということを初めて知りました。アントラサイクリン系の抗がん剤では心毒性により心筋障害を引き起こすこと、GLS(global longitudinal strain)の低下を指標としCTRCDを早期発見できること、そして心不全まで移行せずにがん治療を完遂すること、が大事だと知りました。

各演題、会場内では活発に質疑応答が行われていました。その場だけでなく、参加申請書内に質問事項についての記入欄があり、講演後に先生方から回答をいただきました。事前に質問事項を伝えられるのは、普段聞きたいことがあっても質問しにくい小心者な私にとってはありがたかったです。

また、会場内ではコロナウイルスへの感染対策が徹底され、感染拡大防止に配慮されていました。受付はクリアボード越しで対応がなされ、手指消毒や検温を行い、会場内はソーシャルディスタンスが保たれるよう座席も1テーブルに1人まで、質問者へのマイクも1人ごとにアルコールで消毒されるなど、対策されていました。コロナウイルスの影響により、WEBでのセミナーや勉強会が増えています。実習形式などWEBでは開催しづらい内容もあると思われます。延期や中止にするのではなく、可能であれば、本セミナーのように感染防止に努めながら開催し、学ぶ機会を得られれば良いと思います。



公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会 651-0085 神戸市中央区八幡通4-1-38 TEL 078-271-0255 FAX 078-271-0256 E-mail info@hamt.or.jp
編集委員 住ノ江 功夫 / 中村 光希 / 湊 宏美 / 渡邊 優子 / 矢野 美由紀 / 小松 敏也 / 鳥居 良貴
臨床検査情報センター URL <http://www.hamt.or.jp>

CONTENTS

《各部局報告》	1～3
令和2年度兵庫県臨床検査技師会 精度管理報告会	3
瑞宝双光章を授章して・求人情報	4
会員グルメ情報	5

各部局報告

組織

第15回丹但地区学術組織合同研修会を開催して

井関 進也会員（丹但地区理事）

●開催日時

令和3年2月27日(土) 13:30～15:40

●プログラム

Ⅰ部	「新型コロナウイルス感染症の現状」
	講師 坂井 礼 先生(シスメックス株式会社 大阪支店 学術サポート課)
Ⅱ部	「不整脈を中心に一から心電図を学ぶ」
	講師 山本 義徳 先生(北播磨総合医療センター 中央検査室)



今回の研修会はCOVID-19の感染状況を鑑み、丹但地区では初めてのZoomを用いた完全WEB開催となりました。55名と多くの方にご参加頂きました。

内容としては、Ⅰ部でシスメックス株式会社の酒井先生に、検査技師として知っておくべき新型コロナウイルス感染症の現状について最新の話題を含めご講演して頂きました。Ⅱ部では北播磨総合医療センターの山本先生に、心電図における不整脈の読み方・考え方を分かりやすくご講演して頂きました。

後日、参加者より大変ためになる研修会であった旨のメッセージも頂き、また大きなトラブルもなく会を終えられた事にホッと胸を撫で下ろしています。

会員の皆様と直接お会いできない寂しさは拭いきれませんが、コロナ禍でWEB開催が主流になったことにより研修会参加への距離的・時間的ハードルが下がり、以前に比べ参加しやすい環境になったと感じています。

まだまだ改善の余地はありますが、今後も会員の皆様に参加しやすく、かつ有意義な研修会を企画していこうと思います。

兵庫県臨床検査技師会

第15回
丹但地区学術組織合同研修会



第15回丹但地区学術組織合同研修会を受講して

岡坂 理沙会員（公立朝来医療センター）

先日開催された丹但地区学術組織合同研修会にWEB参加しました。

Ⅰ部ではシスメックス株式会社の坂井先生に「新型コロナウイルス感染症の現状」と題してご講演していただき、新型コロナウイルスの感染拡大のポイントとして、感染力のピークが発症前であることから社会的距離を保つことの重要性を、2003年に流行したSARSとの比較で示されていました。

また、サイトカインストームによる血栓形成や炎症の重症化、抗原検査の現状、ワクチンの効果と副反応についての解説など、医療従事者へのワクチン接種が目前となっている私たちにとって、非常に興味深いお話を拝聴することができました。

Ⅱ部では、北播磨総合医療センターの山本先生より不整脈を中心とした心電図についてのご講演を詳しくいただきました。

山本先生の解説と画面に映し出されるスライドは大変分かりやすく、心電図に苦手意識のある私にとってとても勉強になりました。

また、“副収縮”という聞きなれない言葉を耳にし、日頃の勉強不足を痛感させられました。

今回の丹但地区の研修会はZoomによる受講でしたが、2題とも学ぶことの多い有意義な講演を聞くことができました。今まで但馬地区では距離的に様々な研修会へ参加し難い環境にありましたが、日常的にWEB研修会などが開催されるようになり学ぶ機会が格段に増えたと感じます。これからは日臨技や兵臨技のホームページも頻繁にチェックし、もっとWEB研修会を活用していきたいと思う良い機会になりました。

先生方をはじめ運営スタッフの方々、大変ありがとうございました。

学術

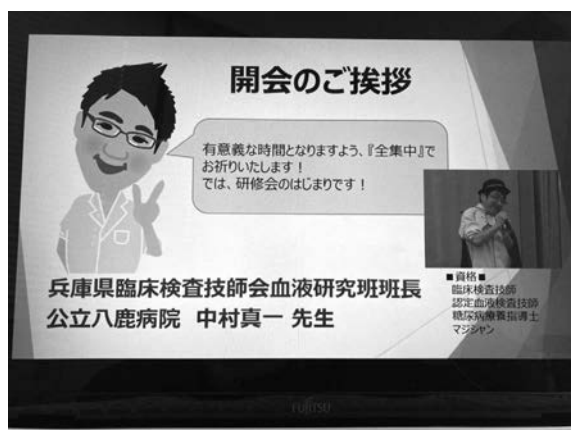
血液検査・遺伝子検査合同研修会を開催して

中村 真一会員（血液検査研究班 班長）／丸岡 隼人会員（遺伝子検査研究班 班長）

2月7日（日）、血液検査・遺伝子検査合同研修会をシスメックス(株)との共催にて開催しました。今年度はWEB開催としましたが、兵庫県内外から約150名もの申し込みを頂きました。血液、遺伝子部門とも初めてのWEB開催であったため、開催に際しては不安もあり準備に余念がない日々でしたが、シスメックス(株)に研修会におけるTeamsの活用経験があることから様々なサポートを頂き、無事に開催する事が出来ました。

血液部門では京都第二赤十字病院の田辺祐也先生に、骨髄像報告書を作成するにあたってのポイントを症例を踏まえて分かりやすくご講演いただきました。また遺伝子部門からは兵庫県立尼崎医療センターの山根範子先生に様々な疾患におけるフローサイトメトリーの活用についてお話いただき、神戸大学医学部附属病院の野口依子先生には遺伝子検査の基礎について御自身の学んできた中での経験も踏まえながらお話いただきました。

血液・遺伝子部門としては初のWEB開催でしたが多数の参加を頂き、今後も学術部として研修会を積極的に企画しなくてはと実感しました。



血液検査・遺伝子検査合同研修会を受講して

物部 真恵会員（神戸市立医療センター中央市民病院）

今年初めての兵臨技血液・遺伝子合同研修会はWEB開催となり、研修会URLから入場しましたがチャットでの質問方法が表示されており安心して研修会に臨むことができました。参加登録用URLに施設名や会員番号、氏名の登録が必要でしたが当日に知ったこともあり、開催時間内に登録が必要なのは忙しかったです。また発表スライドの余白に合わせて、講師の先生方の表示位置が変わって、スライドが見やすく配慮されていました。一部、画面のフリーズや上部に灰色画面が現れ画像が声に追いついていない場面もありましたが、声は聞き取りやすかったです。休憩中のシスメッ

クスの宣伝や「ホシノの世界」がとても興味深く見入ってしまいました。講師の先生方には、骨髓像の報告書作成に関する詳細情報、FCMで役立つ解析方法、遺伝子検査の基本から応用まで幅広くご教授いただき、日頃の検査に役立つ知識を与えて頂きました。コロナが収束したら、次回は現地で受講したいです。



令和2年度第40回精度管理調査合同報告会を開催して

狩野 春艶会員（精度管理事業部 部長）

令和2年度精度管理調査合同報告会は学術研究班の協力の下、令和3年2月28日（日）14:00～17:00にWEB形式で開催し、計42名が参加しました。一般・免疫血清・化学・輸血・微生物・病理・血液・生理の各研究班は精度管理調査の結果報告およびフォトサーベイの判読ポイントについて解説が行われました。報告会の資料は後日兵庫県臨床検査技師会ホームページに掲載し開示する予定です。

兵臨技ではC評価の撲滅を目指しています。兵臨技精度管理調査の特徴の一つとして、C評価に対するサポートを行っています。令和2年度の精度管理調査の結果、72施設について【実施状況調査報告書】を送付しました。各施設において、精度管理実施時の内部精度管理状況、フォトサーベイ回答に至った経緯を振り返り、原因究明、是正処置の実施を通じて、検査室の改善に貢献できました。

兵臨技は精度管理報告会の開催、解析集の発行は精度管理調査に参加した全施設に対し精度管理調査について振り返る機会を提供することで、各施設が検査室の品質維持向上に繋がることを願っております。

●タイムスケジュール

1	14:00～	一般検査部門
2	14:20～	免疫検査部門
3	14:40～	化学検査部門
4	15:00～	輸血検査部門
5	15:20～	微生物検査部門
6	15:40～	病理検査部門
7	16:00～	血液検査部門
8	16:30～	生理検査部門

精度管理報告会を受講して

陰山 友希会員（姫路市医師会）

令和3年2月28日（日）にWEB開催されました、令和2年度兵庫県臨床検査技師会精度管理報告会に参加しました。全8部門の研究班の先生方から令和2年度兵庫県臨床検査技師会サーベイについての解説をしていただきました。

内容は、設問に対する回答について、基礎的なことやよくある誤答、また使用機器等条件の違いによる結果への影響、回答に対する評価方法についての解説等を丁寧に行っていただきました。報告会といえば反省会のようにイメージしがちですが、設問に対する理解、特に間違いやすいポイントへの理解が深まり、また自施設で何をちゃんとできているのかを知ることができました。使用する試料や評価方法についても、サーベイの集計・評価をしてくださる方々は常に評価が妥当なのかを考えながら毎年工夫されているのが伝わりました。

14時から17時までという時間の制限はありましたが、各研究班の方々のサーベイに対する工夫やご苦労がよくわかり、大変勉強になりました。サーベイに対してのみではなく、日頃の業務の中に不安がある方にも広く参加をお勧めしたい内容だと思いました。



Hyogo news

2021年6月

HYOGO
ニュース
No.371

公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会 651-0085 神戸市中央区八幡通4-1-38 TEL 078-271-0255 FAX 078-271-0256 E-mail info@hamt.or.jp
編集委員 住ノ江 功夫 / 中村 光希 / 湊 宏美 / 渡邊 優子 / 矢野 美由紀 / 小松 敏也
臨床検査情報センター URL <http://www.hamt.or.jp>

CONTENTS

《各部局報告》	1～3
タスク・シフティング業務啓発事業について	3
兵庫県自治賞を受賞して・行事予定案内、求人情報についてのお知らせ	4
会員グルメ情報	5

各部局報告

学 術

4月24日(土)生理研修会(WEB)を開催して

山本 義徳会員 (生理研究班 班長)

4月24日「これだけは覚えて欲しい危険な心電図」「ホルター心電図の見方」という内容で生理研修会を開催しました。前回2月の生理研修会では定員60名で募集したところ、150名近くの会員の皆様からの申し込みがあり、WEB開催の運営上多くの方にお断りをする事になりました。そこで再度同じ内容で開催させていただいたわけですが、今回も100名近くの申し込みがあり、数名の方にはお断りさせていただきました。講義後にはたくさんの質問があり、参加者の熱意を感じ、あらためて心電図検査の研修会の必要性を感じました。また、講師の二人の先生方には2度にわたり同じ講義をしていただき、厚く御礼を申し上げます。

昨年度からWEBによる研修会となり、メリット、デメリットの両方を感じながら手探り状態で開催しています。早く対面での研修会を開催したいと願いながらも、今後もWEBによる研修会が続きそうな現状です。定員と申し込み人数との調整が今後の課題となりそうです。



4月24日(土)生理研修会(WEB)を受講して

清名 陽子会員 (明和病院)

4月24日、Zoomによる兵庫県臨床検査技師会生理研修会に参加しました。

第一部は姫路赤十字病院の松崎俊樹先生による“これだけは覚えてほしい危険な心電図”でした。

超緊急、緊急、準緊急に分けて心電図波形の特徴、症状、背景疾患までわかりやすい画像と丁寧な説明で解説していただきました。特に印象に残ったことは、患者の症状や兆候を加味して臨床に報告する、ということでした。

実際の現場では、心電図波形と患者の症状に乖離がある場合もあり、心電図波形のみでは診断に至らないケースもあります。心電図波形に捉われすぎず、患者の状態をよく観察し、訴えに対して傾聴することが、臨床側にもより説得力のある報告ができると改めて感じました。

第二部は神戸大学付属病院の沖都麦先生による“ホルター心電図の見方”でした。緊急度の高い不整脈のとらえ方からトレンドグラムの見方、各種波形の特徴、患者の症状まで丁寧に解説していただきました。

私も含めて心電図に対しては漠然とした苦手意識がある方が多いと思います。この勉強会をきっかけに定期的な

カンファレンスの開催や、コードブルートレーニングの場を設けて、緊急時に対応できる力をつけていきたいです。

今回Zoomによる勉強会でしたが、講師の先生方のわかりやすい講義を受講でき、大変満足しています。この場をお借りして講師の先生方、準備に携わった先生方に感謝申し上げます。

組織

第12回西播地区研修会 (WEB) を開催して

菊口 圭介会員 (西播地区理事)

4月25日(日)に第12回西播地区研修会をWEB形式にて開催しました。年度初めてお忙しい時期にもかかわらず、55名という多くの方々にご参加いただき、大変感謝しております。

内容に関しましては、まず日臨技の宮島会長よりご挨拶(ビデオ)をいただきました。そして、1演題目は兵臨技の真田会長より、タイトルの通りタスク・シフティングの概念・必要性についてとても分かりやすくご講演いただきました。2演題目は三田市民病院の中務先生より、ご施設で実際にやっているタスク・シフティングへの取り組みについてご講演いただきました。タスク・シフティングを行うにあたり、どのような準備をすれば良いのかを明示してい

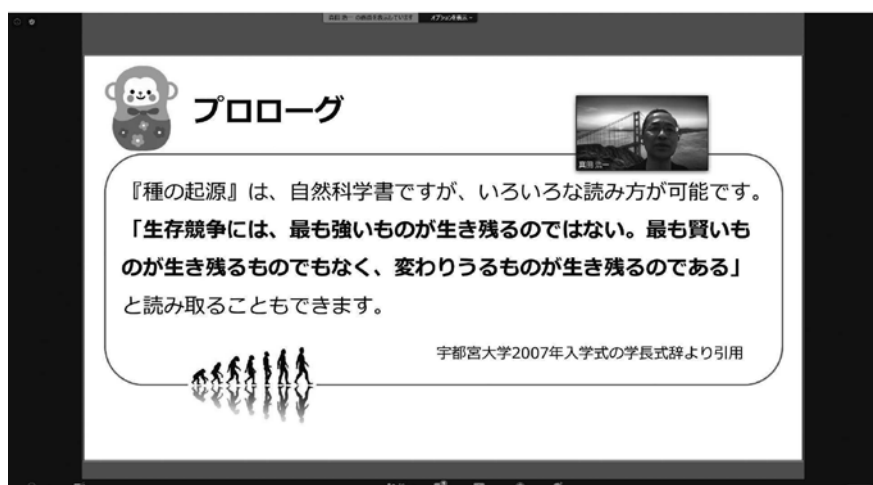


宮島会長

いただき、大変有意義な研修会であったと思います。

最初の宮島会長のご挨拶(ビデオ)で音声がかえらないというトラブルがありましたが、地区役員との連携により早急に対応することができ、大きなトラブルも無く終えることが出来ました。

今後もWEB開催の必要性は高いと思われるので、よりスムーズに有意義な研修会を行えるよう努力してまいります。



第12回西播地区研修会 (WEB) を受講して

平松 克己会員 (兵庫県臨床検査研究所)

今回WEB研修会に参加させていただきました。

臨床検査は医療にとって必須であり重要性は益々高まっていますが臨床検査技師は30年以上業務独占がなく医療法に名前がありません。これを打破して行くには宮島先生にご尽力頂くしかありませんが私たちも少しでも出来る事をやらなくてははいけません。

コロナ禍でPCR検査を実施している人と言う意味で臨床検査技師への世間からの注目も集まっています。今が良い機会なので医療スタッフの手助けとなるような事を、たとえば病院ではPOCTなど臨床検査技師が積極

中核 三田市民間施設を会場と見込んでいます オペレーション画面

法令改正を行いタスク・シフト/シェアを推進するもの

- ◆ 法令改正が必要なもののうち、検討会で合意が得られたもの
 - ✓ 法律事項については、医師の働き方改革関連法案としての提出を目指す
 - ✓ 政省令事項については、順次改正

中核 三田市民間施設

静脈路の確保とそれに関連する業務<診療放射線技師・臨床検査技師・臨床工学技士>		
診療放射線技師	造影剤を使用した検査やR1検査のために、静脈路を確保する行為 R1検査薬品を注入するための装置を接続し、当該装置を操作する行為 R1検査薬品の投与が終了した後に抜針及び止血する行為	政令事項・法律事項 法律事項
臨床検査技師	採血に伴い静脈路を確保し、電解質輸液（ヘリン加生食塩水を含む。）に接続する行為	法律事項
臨床工学技士	手術室等で生命維持管理装置を使用して行う治療において、当該装置や輸液ポンプ・シリンジポンプに接続するために静脈路を確保し、それらに接続する行為 輸液ポンプやシリンジポンプを用いて薬剤（手術室等で使用する薬剤に限る。）を投与する行為 当該装置や輸液ポンプ・シリンジポンプに接続された静脈路を抜針及び止血する行為	法律事項 法律事項 法律事項

診療放射線技師	
動脈路に造影剤注入装置を接続する行為（動脈路確保のためのものを除く。）、動脈に造影剤を投与するために当該造影剤注入装置を操作する行為 下部消化管検査（CTコログラフィ検査を含む。）のため、注入した造影剤及び空気を吸引する行為 上部消化管検査のために挿入した鼻腔カテーテルから造影剤を注入する行為、当該造影剤の投与が終了した後に鼻腔カテーテルを抜去する行為 医師又は歯科医師が診療した患者について、その医師又は歯科医師の指示を受け、病院又は診療所以外の場所に出張して行う超音波検査	省令事項 省令事項 省令事項 省令事項 法律事項

臨床検査技師	
直腸肛門機能検査（バルーン及びトランスデューサーの挿入（バルーンへの空気の注入を含む。）並びに抜去を含む。） 持続皮下グルコース検査（当該検査を行うための機器の設置及び脱着を含む。） 運動誘発電位検査・体性感覚誘発電位検査に係る電極（針電極を含む。）の装着及び脱着 検査のために、経口、経鼻又は気管カニューレ内部から痰液を吸引して採取する行為 消化管内視鏡検査・治療において、医師の立会いの下、生検鉗子を用いて消化管から組織検体を採取する行為 静脈路を確保し、成分採血のための装置を接続する行為、成分採血装置を操作する行為、終了後に抜針及び止血する行為 超音波検査に関連する行為として、静脈路を確保して、造影剤を接続し、注入する行為、当該造影剤の投与が終了した後に抜針及び止血する行為	省令事項 省令事項 省令事項 省令事項 政令事項 政令事項 法律事項

臨床工学技士	
血液浄化装置の穿刺針その他の先端部の動脈表在化及び静脈への接続又は動脈表在化及び静脈からの除去 心・血管カテーテル治療において、生命維持管理装置を使用して行う治療に関連する業務として、身体に電氣的負荷を与えるために、当該負荷装置を操作する行為 手術室で行う鏡視下手術において、体内に挿入されている内視鏡用ビデオカメラを保持する行為、視野視野を確保するために内視鏡用ビデオカメラを操作する行為	政令事項 法律事項 法律事項

救急救命士	
現行法上、医療機関に搬送されるまでの間（病院前）に重度傷病者に対して実施可能な救急救命処置について、救急外※において実施可能とする。	法律事項

※救急外※とは、救急診療を受ける傷病者が入院してから入院（病棟）に移行するまで（入院しない場合は、帰宅するまで）に必要な診療・検査・処置等を提供される場合のことを指す。

的にナースの変わりにやっていったらいいと思います。また検査センターなどではアドバイスサービスをどんどん発信してドクターの信頼を得られるようにしていけばと思います。一人一人が少しだけ前向きに変われば臨床検査技師の未来も明るくなって行くと思います。

臨床検査技師に対するタスク・シフティング業務啓発事業

（日本臨床衛生検査技師会）

働き方改革実行計画（平成29年3月28日働き方改革実現会議決定）に基づき設置された医師の働き改革に関する検討会議において、平成30年2月「医師の働き改革に関する検討会」では医師の労働時間短縮に向けた緊急的な取り組みがまとめられ、タスク・シフティング（業務の移管）の業務については、医師以外の関係職種で可能な限り業務分担が図られるよう検討するとされ、現在まで7回の「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト／シェアの推進に関する検討会」において検討がなされました。今後、厚生労働省内で報告書として取りまとめられ発出される方向です。

厚生労働省からの事業は終了しましたが、引き続き「臨床検査技師に対するタスク・シフティング業務啓発事業」として、視聴ビデオを日本臨床衛生検査技師会HPの会員サイトに掲載いたしますので多くの会員の皆様のご視聴をお願いいたします。（日本臨床衛生検査技師会HP抜粋）

視聴は今月末（6月30日）までになっております。今後の臨床検査技師の在り方を含め、重要な内容になりますので、是非ともご視聴下さい。



Hyogo news

2021年8月

HYOGO
ニュース
No.372

公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会 651-0085 神戸市中央区八幡通4-1-38 TEL 078-271-0255 FAX 078-271-0256 E-mail info@hamt.or.jp
編集委員 住ノ江 功夫 / 中村 光希 / 湊 宏美 / 渡邊 優子 / 矢野 美由紀 / 小松 敏也
臨床検査情報センター URL http://www.hamt.or.jp

CONTENTS

令和3年度(2021年度) 定時総会開催・《各部局報告》	1～3
令和3年春の叙勲 瑞宝双光章を受賞して	4
令和3年度 公益財団法人兵庫県健康財団会長表彰結核予防功労者賞を受賞して・行事予定・求人情報	4
会員グルメ情報	5

令和3年度(2021年度) 定時総会開催

—令和2年度事業・決算が承認されました—

令和3年6月12日兵臨技研修センターに於いて定時総会が開催されました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、少数の総会関係者で行いWEBも含めたハイブリッドでの開催となりました。

〈審議経過〉

総会議長に山中陽子会員(高砂市民病院)、書記に湊宏美会員(兵庫医科大学病院)が選出され、総会の資格審査では、当日出席者25名、委任状出席者540名、議決権行使者数1,098名、合計1,663名(出席率71%)で会員の過半数の出席を得て、定款第4章第17条より総会が成立し、議案審議が開始され、第1号～2号議案の全てが承認されました。

コロナ禍においても、臨床検査技師の業務の重要性は増しています。今後も活動を進めていくためには、会員、賛助会員の皆さま及び兵庫県をはじめ、兵庫県の医療職団体各位の協力がないと成り立ちません。技師会活動にご理解頂き、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願いします。

各部局報告

組 第41回丹但地区研究発表会を開催して

織

井関 進也会員 (丹但地区理事)

●開催日時

令和3年6月27日(日) 10:00～12:00

●開催方法

会場+WEBのハイブリッド開催

●プログラム

10:00～11:30 一般演題 | 11:30～12:00 特別演題

兵庫県臨床検査技師会

第41回
丹但地区研究発表会



COVID-19感染拡大が続く中、昨年度からWEBでの学会や研修会が主流となっていました。今回、兵臨技初の試みとして会場とWEBのハイブリッド研究発表会を開催いたしました。

座長、一般演題演者、共同演者の代表者、スタッフのみ会場へ参集し、特別演題演者と一般参加者はWEBでの参加という形を取り、合わせて70名の方にご参加いただきました。会場では参加者にマスク等の感染予防対策を徹底した上でアクリル板を設置し、座長と演者のみマスクを外した状態で、従来の口演形式と同様に進行いたしました。

またWEBではZoomを使用し、座長と演者をカメラで映しながら発表画面を共有するという形で進行いたしました。

た。質疑応答時間には、会場参加者からの発言はもちろんのこと、WEB参加者からも発言があり、会場の演者と画面上の参加者とで受け答えをするという、ハイブリッド開催ならではの場面もありました。ただ、初めての試みということもありトラブルも多く、参加者の皆様には多大なご迷惑をおかけしました事を、この場をお借りしてお詫びいたします。

さて今回の研究発表会で、限定的ではありますが会員の皆様と直接お会いでき大変嬉しく思っています。また、久しぶりに直接会場で口演形式の演題を拝見しましたが、やはりWEB画面で拝見するのとでは臨場感が違います。気軽に参加できるWEB開催のメリット、従来通りの会場開催のメリットを考慮しつつ、今後も状況に応じた研究発表会や研修会を開催していこうと思います。



WEB参加者からの質疑



座長と演者のWEB配信画面

第41回丹但地区研究発表会を受講して

中原 佳佑会員（兵庫県立丹波医療センター）



令和3年6月27日（日）に開催された第41回丹但地区研究発表会に参加させていただきました。内容は症例報告などの一般演題と、兵臨技真田会長によるタスク・シフティングについての特別講演でした。特別講演では「日本は少子高齢化や技術革新、感染症により、今までの常識や経験が通用しないニューノーマル時代へパラダイムシフトが起きている。固定概念に縛られず、自分たちのすべきことにチャレンジしてください。」とのお話が印象に残りました。私は病理検査に従事していますが、病理医不足が言われて久しく、丹波へ転動してからは特にそのことを

感じるようになりました。タスク・シフティングでは、手術検体の切り出しや生検の病理診断所見の下書き作成などが、現行制度上実施可能な業務として挙げられています。今後は真田会長の言葉を心に留めて、病理医の負担軽減に貢献できるようチャレンジしていきたいです。

最後に研究発表会開催にあたり、御尽力いただいた井関理事をはじめとした実行委員、朝来医療センターの皆様にご改めて感謝申し上げます。



本部席（WEB特別演題前）



スタッフ

学術

病理細胞研修会を開催して

小林 真会員（病理・細胞検査研究班長）

現在、新型コロナウイルス感染予防として、昨年度末から兵庫県臨床検査技師会としてもWEB研修会が行われるようになりました。

2021年度は病理細胞班でも細胞検査士を目指している技師向けの講習会である細胞検査士定期研修会はWEBで復活し行っております。配信は兵庫技センターからメインで発信しており、現場も最小限の人数で準備を行っております。

WEBになった事により普段参加できない近畿圏の技師会の参加もあり、また兵庫県内でも参加のし易さからか、今までよりも参加者が多くなりました。しかしデメリットもあり、参加者の管理の難しさや、研修会の参加URLの配信管理など今までなかった問題もあり悪戦苦闘もありました。WEB研修会になり参加者の顔が見えないので、講師の先生方も反応が一つもない事もあり、「一方的に話してる感！すごい」とお声を頂きました。研修会最後に参加者から何かしら反応して頂けると嬉しいですね。拍手マークでもいいので！



化学免疫検査研修会を開催して

渡邊 勇気会員（化学免疫研究班長）

6月24日（木）に、「新人さん若手技師必見！化学免疫検査の基本」というテーマで研修会を開催しました。1演題目は「生化学検査の基本」というタイトルで、検査結果の見方などを実際の測定データをふまえて、兵庫医科大学病院の佐藤元哉先生に講演していただきました。2演題目は「免疫検査の基礎」というタイトルで、免疫測定法の基本から今話題でもある免疫検査項目の標準化について、関西労災病院の久富大樹先生に講演していただきました。当日は60名ほどの参加でしたが、大きなトラブルもなく無事に開催することができ、また、兵庫県下の様々な地区からの参加が確認でき、WEB研修会の有用性を実感しました。今後の研修会について、アンケートを実施させていただいたところ、精度管理やデータトラブルといった項目に関心が強く、今後こういったテーマを企画していこうと思います。



微生物検査研修会を開催して

竹川 啓史会員（微生物研究班長）

6月18日（金）、微生物検査研修会をWEBで開催しました。昨年度途中より、Zoomを利用したWEB開催をしていますが、今回も多く参加申し込みを頂きました。

住友病院の幸福知己先生に「いまさら聞けない微生物検査」という演題名でご講演頂きました。微生物検査には検査技術はもちろんのこと感染症や治療、感染制御など多くの知識が求められます。近年では質量分析装置や遺伝子検査など新しい技術も身近に利用できるようになり、微生物検査は大きく変わりつつあります。一方で、業務内容は施設によって様々であり、相談できる人材が施設にいないというようなケースもあると思います。今回の講演会では、そういった事例を踏まえた内容で微生物検査について広くご講演して頂きました。微生物検査を始めて経験が浅い方から、ベテランの方まで多くの方に役立つ内容になったと思います。今後もWEBでの研修会を続けていきますので、皆様の参加をお待ちしております。



公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会 651-0085 神戸市中央区八幡通4-1-38 TEL 078-271-0255 FAX 078-271-0256 E-mail info@hamt.or.jp
編集委員 住ノ江 功夫 / 中村 光希 / 湊 宏美 / 渡邊 優子 / 矢野 美由紀 / 小松 敏也
臨床検査情報センター URL http://www.hamt.or.jp

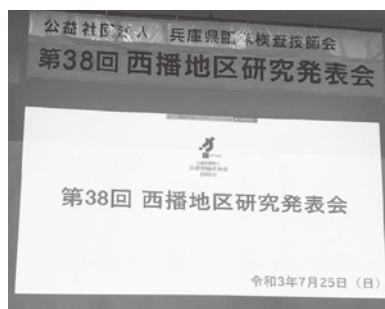
CONTENTS

《各部局報告》第38回西播地区研究発表会を開催して・第38回西播地区研究発表会を受講して …	1～2
第1回 東播地区ナイトセミナーを開催して・血液検査研修会を開催して・一般検査研修会を開催して …	2～3
令和2年度兵臨技功労賞を受賞して・令和2年度兵臨技学術奨励賞を受賞して・行事予定・求人情報 …	4
会員グルメ情報 …	5

各部局報告

組織 第38回西播地区研究発表会を開催して

菊口 圭介 会員 (西播地区理事)



7月25日(日)に第38回西播地区研究発表会を西播地区では初の試みとなる、会場とWEBのハイブリッド形式で開催しました。感染状況を鑑みて例年同日に行われている医療公開講座は中止とし、内容は一般演題のみとしました。

参加者数は、会場43名、WEB71名の合計114名で、例年の参加者数には及びませんが、多くの方にご参加いただきました。

会場参加者は発表者・共同演者含む同施設数名・座長・当番病院数名・西播地区役員・兵臨技会長に限定し、手指消毒・検温の実施、マイクの消

毒、イスの間隔を十分に確保して配置し、感染防止対策を徹底して行いました。

当日は、事前に会場で接続テストを行っていたにもかかわらず、WEB接続がうまくいかなかったり、音声乱了れたりトラブルが多く、参加された皆様にはご迷惑をおかけしたことお詫び申し上げます。

しかし、終了後には会場参加者から、久しぶりに他施設の方とお会いすることができて良かった、WEB参加者からは遠方で現地参加しにくいので助かるなど、感謝のお言葉を多数いただきました。初めての試みで不安もありましたが、開催して良かったと心底思いました。

今回の反省点を今後に活かし、より皆様に満足していただける研修会を開催していきたいと思います。

最後に、参加して下さった皆様、運営にご協力いただいたご施設の皆様に心より感謝申し上げます。



第38回西播地区研究発表会を受講して

太田 理恵 会員 (公立神崎総合病院)

2年ぶりの西播地区研究発表会は、ハイブリッド開催となり、私はWEBで参加させて頂きました。演題は10演題中の前半5演題がコロナ関連で、残りの5演題が生理検査関連、あと4演題が病理検査関連で演題の内容としては偏りがみられました。

コロナ関連の演題では、実際の検査室や対応する医療従事者の装備などが写真で提示され、とても分かりやすかったです。アンケートの集計では、他施設と比べ当検査室のコロナ患者の採血検体に対する意識の低さを認識し改善する必要性を感じました。当院はこれまで試行錯誤しながら新型コロナウイルスに対応してきました



が、今回の発表を参考にして、当院にあった検査体制を今後更に整えていきたいと思いました。また、コロナ禍であっても、医療・サービスの質を向上させるために取り組まれていることは見習うべきことであり、希少な症例を報告いただいた施設にも感謝いたします。今回はWEB参加だったので、会場からそれなりに遠方に住んでいる私にとっては、ありがたかったです。質問が会場からや座長のみでWEBからは無かったのが、少し活気に欠けていたように思われ残念な気がしました。WEB開催では難しいかもしれませんが、来年はより良い状態で活気のある発表会になることを祈っています。今回の発表会開催にあたりご尽力頂いた全ての皆様、有意義な発表会をありがとうございました。



東播地区ナイトセミナーを開催して

森 雅彦 会員（東播地区理事）



昨年に引き続きコロナウイルス関連の話題を中心として開催いたしました。様々な情報があふれる中で、事実として分かっていることを整理し会員の皆さんとおさらいすることに加え、この度はアップデートされた情報を共有することを目的としました。ちょうど開催日は第5波に入ったところであり、昨年の秋のナイトセミナーより多く92名の参加者があり、より関心も高かったことがうかがえます。また、WEB開催となっていることも大きく影響しており、東播地区の会員のみならず、他地域からや他府県からの参加もありました。

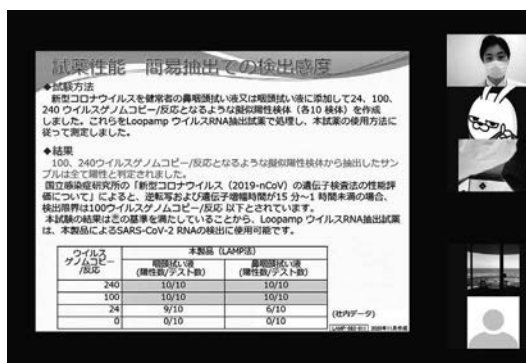
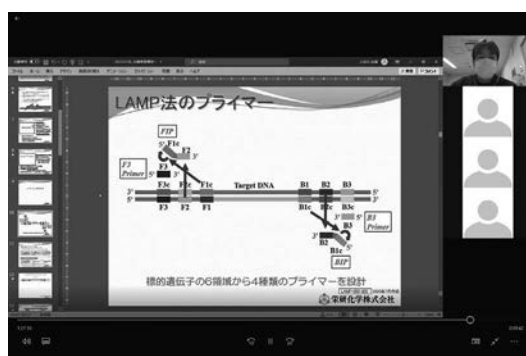
たくさんの方々に参加いただき、ありがとうございました。

また、この度は2本立て企画として栄研化学のLAMP法について学びました。意外と使用されている施設が多かったため、この企画に至ったわけですが、核酸増幅の原理や日ごろの検査結果の解釈で抱いている疑問を解消することが出来たのではないかと思います。

今後ともニーズに応じた研修会を企画していきたいと考えています。今後とも宜しくお願いいたします。

さて、この度の開催についてチケット配信サービス『Peatix』を試用しました。（ご協力いただいた会員の皆様、ありがとうございました。）

昨年、初めてWEBにて開催してみたところ、参加者の把握がし辛く、ご本人であるかの確認がネックでありました。原因の一つとして、参加URLやパスコードを配布したことによります。しかし、このサービスを利用することにより参加者にのみURLやパスコードをお知らせすることができ、今後、有料研修会を開催するにあたって参加費徴収も可能となることなどもメリットとなります。今後も他の兵臨技研修会などで使用することも増えてくると思いますので、会員の皆さんには近いうちにアカウント作成などの準備をしていただければ幸いです。



学
術

血液検査研修会を開催して

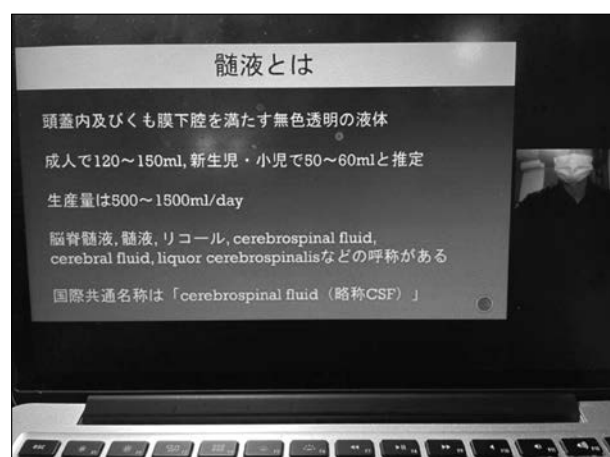
神原 雅巳 会員（血液検査研究班 班長）

はじめまして。今年度から血液研究班の班長を務めさせていただく事となりました、尼崎中央病院の神原と申します。7月30日と8月20日に血液検査研修会を開催いたしました。私が班長になって初めての研修会はWEB開催する事になり、わからない事だらけでしたが、他の研究班班長のお力添えのおかげで無事に開催する事ができました。研修センターで行っていた時は参加者が40名を超えれば、多いなと感じていましたが、WEB開催にあたり両日ともに70名を超える参加者でしたので、県土の広い兵庫県においてはWEB開催のメリットを感じました。しかしZoomの機能を使いこなせていないがゆえに、集合形式で行っていたディスカッションを含めた症例検討会を再開するには時間がかかりそうです。今回の研修会で形式は違うけれど久しぶりに症例検討会は楽しかったなど肯定的な意見を多数いただきましたが、メーカーによる勉強会の内容は聞いた事あるような内容だったので、技師会独自の工夫があったらよかったといった厳しい意見もいただきました。今までシニアコースとして隔月で開催してきた回覧標本による症例検討会は一時的に中断中ですが必ず再開させようと計画中ですので、今後も血液検査研修会へ是非ともご参加ください。

一般検査研修会を開催して

中島 和希 会員（一般検査研究班 班員）

8月18日(水)に一般検査研修会をWEBで開催しました。今年度は毎月研修会を開催しており、どの月も多くの会員の皆様にご参加いただいています。この場を借りて感謝申し上げます。WEB研修会のメリットは従来までの現地開催と比べ、多くの方が参加しやすいことだと考えています。実際、WEB研修会では、毎回90名近くの会員に参加いただいています。今後も多くの皆様に、より良い研修会を提供できるよう、実技による研修会の開催も考えていきたいと思えます。5月～8月までは、ジュニアコースとして、新人・若手を対象として実施してきましたが、10月以降は、中堅・ベテラン技師の方々を対象に研修会を開催していく予定です。今回私は初めてWEB研修会の司会を務めさせていただきました。途中、参加者のログインやチャットによる質問の確認なども忙しく、また、画面共有のタイミングなど事前によくシミュレーションしておく事が大事だと実感しました。これからも研究会運営側としても、スムーズな進行ができるよう精進していきたいと思えます。まだまだ、コロナ禍でお忙しいと思いますが、一般検査研修会へのご参加のほど、よろしくお願い申し上げます。





公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会 651-0085 神戸市中央区八幡通4-1-38 TEL 078-271-0255 FAX 078-271-0256 E-mail info@hamt.or.jp
編集委員 住ノ江 功夫 / 中村 光希 / 湊 宏美 / 渡邊 優子 / 矢野 美由紀 / 小松 敏也
臨床検査情報センター URL <http://www.hamt.or.jp>

CONTENTS	令和3年度兵庫県医学検査学会(第26回)の開催について	1~2
	タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会について	2
	令和3年「認定病理検査技師による研修会」を開催して	3
	令和3年「認定病理検査技師による研修会」を受講して	3~4
	休業日のお知らせ・行事予定および求人情報・会員グルメ情報	4~5

令和3年度兵庫県医学検査学会(第26回)の開催について

学 会 長：真田 浩一（兵庫県立姫路循環器病センター）

実行委員長：大沼 健一郎（神戸大学医学部附属病院）

事務局 長：藤原 美樹（ツカザキ病院）

平素より技師会活動にご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。

さてこの度、令和3年度兵庫県医学検査学会（第26回）を下記のとおり開催いたします。

今回のテーマは「啓 HIRAKU ～気になる検査にZoom in～」です。「啓」は3つに分解すると、「戸」は神棚の扉、「攴」は手、「口」は神様のお祈りに使う器であり、3つ合わせて「神棚に向かってお祈りする」様子を表しており、「ひらく、開放する、導く」などの意味を持つことから、「啓」一文字で「HIRAKU」と読ませ、臨床検査の未来がひらかれるようにとの願いを込めています。

新型コロナウイルス感染者数は落ち着いてきておりますが、アフターコロナ、ウィズコロナにおける学会のあり方および兵庫県の抱える地理的な問題（遠方の方々の参加）などを見据えてWEB開催（オンデマンド配信あり）を選択しました。また、WEB開催は一方通行になりがちなので、参加者の皆様に少しでも参加した実感を味わってもらうため、特別企画は「リアルタイムアンケートによる参加型セッション」形式で行います。

一人でも多くの皆様のご参加および演題投稿をお待ちしております。

【会期】令和4年2月27日（日）13:00～17:30 WEB開催（Zoom Webinar）

（オンデマンド配信 令和4年2月28日～令和4年3月28日）

【学会テーマ】啓 HIRAKU ～気になる検査にZoom in～

【生涯教育点数】専門 20点

【参加費】1000円

【参加人数】先着500人

【申し込み期間】令和3年11月10日から

【演題募集期間】令和3年10月20日～令和3年11月30日

【内容】

1. 一般演題発表（予定 6題）

* 一般演題に6題以上の応募があった場合には、発表形式を「リアルタイム配信6題」と「音声入りスライドによるオンデマンド配信」に振り分けさせていただきます。発表形式については、実行委員に一任させていただきますのでご了承ください。

2. リアルタイムアンケートによる参加型セッション

特別企画Ⅰ：「新型コロナウイルスと臨床検査 ～COVID-19を学び、攬む～」

特別企画Ⅱ：「悩みを解決！精度管理と標準化～当院はこうしている～」

学会HPも作成しておりますので、<https://hamt2021.com/> より詳細はご確認ください。

タスク・シフト／シェアに関する 厚生労働大臣指定講習会について

来年より実技研修の開催に向けて当会で準備を進めています。実技研修には、基礎講習を終えた方のみ申込みが出来るようになっていきます。来年からの開催に向けて、基礎講習の受講を済ませて頂くよう宜しくお願いします。

日臨技HPの会員ページより、タスク・シフトの講習会申込みが可能ですので、ご確認をお願いします。

The screenshot shows the member site of the Japan Association of Medical Technologists. The header includes the organization's name and logo. A navigation menu on the right lists various services, with '厚生労働省関連講習会' (Ministry of Health, Labour and Welfare Related Training Course) circled in red. The main content area displays news and regulations, including information about the 2021 annual meeting and the 2022 training course.

学術

令和3年「認定病理検査技師による研修会」を開催して

小林 真 会員（病理・細胞検査研究班 班長）

令和3年10月17日に、令和3年「認定病理検査技師による研修会」を開催しました。今年度より兵臨技としてZoom Webinarの契約、またピーティックスというチケット購入サイトとの連携が始まって初めての開催となりました。今年度はWEBでの研修会がメインで、病理・細胞研究班も講義はZoom-Meetingにて行ってきましたが、ピーティックスは初めての試みとなり、大変使いやすいチケット購入システムでした。参加者から入室の仕方についての問い合わせは少しありましたが、皆さんスムーズに研修会に入ってくられ、ほぼトラブルなく開催することができました。WEBのメリットは、全国から参加者が集まる事です。今回も北は青森、南は鹿児島まで他府県からの参加者が約半数を占めていました。これを機に、兵庫県の研修会に他府県からも多数参加者が集まればと思っています。

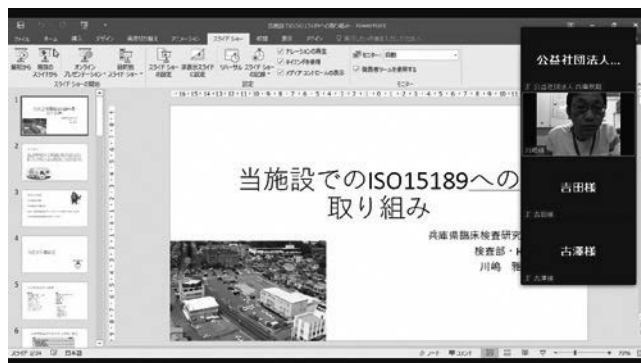
兵臨技のWEB研修会事業体制が整いましたので、これからもっと活用出来ればと思います。



令和3年『認定病理検査技師による研修会』を受講して

掘井 吉人 会員（西脇市立西脇病院）

10月17日（日）に開催された『認定病理検査技師による研修会』に参加させていただきました。5名の先生方の講演を拝見し、検体取り違い等の医療事故を防ぐための工夫や、問題発生時にトレースできるような運用、WSI：Whole Slide Imagingを活用した遠隔診断時の注意事項や、将来のAI技術の展望、文書管理の重要性、関連学会での外部精度管理が困難な項目に関して、どのように精度を担保しているのか、NGS法の特長や遺伝子検査出検時の注意点について詳しく学ぶことができました。認定試験対策では、実際に受験された石田先生（兵庫医科大学病院）のご経験を伺うことができ、受験時の参考にしたいと思いました。WSIや遺伝子解析等、新しい技術が次々と臨床応用されていますが、それらを適切に実施するためには、適切な検体処理と高品質な病理標本作製技術が必須であることを再認識しました。集合型の研修会実施が困難な中、このような貴重な研修会を開催していただいた小林班長（病理・細胞研究班）をはじめ、兵庫県臨床検査技師会の先生方、今回ご講演頂いた5名の先生方に深く感謝致します。



事務所の年末年始の休業日のお知らせ

令和3年12月29日～令和4年1月3日の期間は、
事務所の休業日とさせていただきます。

行事予定案内および求人情報は、ホームページに
掲載しております。
右のQRコードから最新情報をご確認下さい。

行事予定表



求人情報



会誌「HYOGO JOURNAL」投稿規定

投稿資格

筆頭執筆者は、兵庫県臨床検査技師会の会員に限る。連名執筆者は、原則として兵庫県臨床検査技師会の会員とする。

論文内容

- 1) 医学検査に関するもので、社会通念上の道義を遵守して行われた研究で、他関連学会等関連出版物に未発表のものに限る。
- 2) 他誌への重複投稿をしていないこと。

研究倫理に関して

ヒトを対象とした臨床研究に関する論文はヘルシンキ宣言に沿ったものであること。また、疫学研究に関する倫理指針(文部科学省、厚生労働省)、臨床研究に関する倫理指針(厚生労働省)を遵守すること。臨床検査を終了した検体を用いた研究に関しては、「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用についてー日本臨床検査医学会の見解ー」に従うこと。遺伝学的検査に関しては、「ヒトゲノム遺伝子解析研究に関する倫理指針」(文部科学省、厚生労働省、経済産業省)に従うこと。動物実験については、「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン」(日本学術会議)に従うこと。必要な際、当該研究が各施設内の倫理委員会等の承認のもとに行われたことを明記する。

論文分類

• 依頼による原稿

《総説》刷上り10頁以内(16,000字以内)

• 投稿による原稿

《原著》刷上り7頁以内(11,200字以内)オリジナリティがある内容のもの。

本文(図表、文献を含む)、和文要旨(400字以内)、英文Summary(200word以内)、
Key words(5word以内)

《研究》刷上り6頁以内(9,600字以内) 追試、改良等に関するもの。

本文(図表、文献を含む)、和文要旨(400字以内)、英文Summary(200word以内)、
Key words(5word以内)

《症例》刷上り5頁以内(8,000字以内) 臨床検査に有用な情報を与える稀な症例等に関するもの。

本文(図表、文献を含む)、和文要旨(400字以内)、英文Summary(200word以内)、
Key words(5word以内)

《試薬と機器》刷上り4頁以内(6,400字以内) 試薬、機器の検討等。

本文(図表、文献を含む)、Key words(5word以内)

《資料》刷上り4頁以内(6,400字以内) 管理運営、調査等に関するもの。

本文(図表、文献を含む)、Key words(5word以内)

《検査室ノート》機器等のアイデアや工夫をまとめたもの。本文1,200文字以内。

《外国文献紹介》表題を含め、本文800文字以内。

《海外広場》教育、資格等の制度、留学生活、施設等の紹介。本文1,200文字以内。

《読者のページ》建設的な意見、見聞、感想等。本文1,200文字以内。

《書評》本文1,200文字以内。

論文の作成

原稿は全てA4版横書きとし、原則としてWordテンプレートで作成する。英文原稿はダブルスペースとする。

論文の取り扱い

- 1) 論文の採否、分類、掲載順序等は査読終了後に決定する。編集方針に従って、原稿の加筆、削除、書き直しをお願いすることがある。
- 2) 投稿論文は原則として返却しない。
- 3) 写真は原則として白黒掲載とする。カラー写真は編集委員会の承認したものに限る。実費は著者の負担とする。

原稿送付先

〒651-0085 兵庫県神戸市中央区八幡通4-1-38

(公社)兵庫県臨床検査技師会

TEL：078-271-0255 FAX：078-271-0256 メール送信先：info@hamt.or.jp

著作権および引用・転載について

- 1) 本誌に掲載された論文、抄録、記事等の著作権は(公社)兵庫県臨床検査技師会に帰属する。
- 2) 投稿論文執筆に際して他著作物等から引用・転載する場合は、著作権保護のため、原著者および出版社の許諾を受け、原稿に出典を明示すること(転載許可願いの見本を希望する場合は当会事務所に申し出ること)

別刷

総説、原著、研究、試薬と機器に対し、30部贈呈する。

改正 平成16年11月27日



第 30 回東播地区研究発表会

抄 録 集

日 時：令和3年12月18日（土）
10時00分～12時00分
会 場：WEB開催



公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会

当院で経験した異常反応と対処

地方独立行政法人 加古川市民病院機構 加古川中央市民病院 臨床検査室
○伊原佑香、池本颯太、沖田愛子、蓑田小百合、西澤真菜、森雅彦、横山千佳子

【はじめに】

日常の検査において、様々な異常反応に遭遇することがある。患者の病態を反映したもの、採血時の輸液の混入や M 蛋白による混濁形成など患者試料に由来するもの、プローブの分注不良など自動分析装置によるものと様々な要因によって起きる。そこで今回、当院で経験した数々の異常反応とその対処について報告する。

【使用機器】

JCA-BM6070(日本電子)

【事例 1】

試薬補充・日常メンテナンス後から測定した Mg の精度管理試料の値が 0.3mg/dL 高値となった。他の項目と共に測定した値と単独で測定した値にばらつきがあることより、原因として試薬のコンタミの影響が考えられた。対処として試薬ビペットのコンタミ回避に使用していたコンタミクリーン濃度の再調整後キャリブレーションを行ったところ、測定値の再現性が安定した。

【事例 2】

反応エラーが早朝検体約 140 件中 5 件程度と多発した。また、反応エラーが起きていない項目においても前回値との乖離がみられた。そこで反応過程を確認したところ、同じポイントでの反応曲線のゆがみが見られたことから原因が試薬プローブ(R2)

と攪拌棒の汚染・飛び散りにあると考えられたため、対処として部品交換を行うと、同等のトラブルはみられなくなった。後日メーカーに相談したところ、原因に WUD の吸引不良の可能性も考えられるため、念のため WUD 洗浄・動作確認も行った。

【事例 3】

Cl の測定において、初検値と再検値にばらつきがみられた。そこで CV チェックを実施すると、0.92、1.17 とばらつきが大きいことが確認された。他の測定値に影響がなかったことから電解質ユニットに原因があると考えられた。対処として電極交換やセルポット排水を連続して行ったが改善がみられず、メーカーに対応を依頼した。すると、スターラーの回転不良が原因であったことが発覚し、スターラーの交換後安定した結果が得られるようになった。

【まとめ】

臨床検査では、分析装置や測定試薬の進展に伴い正確な結果を迅速に報告することが可能となっており、それは迅速な診断・治療に繋がっている。一方、装置のトラブルや検体に起因する異常反応による誤報告は誤診に直結する。異常反応に遭遇した際、その意味を的確に理解し、迅速に対処を行い、根拠のある検査結果を報告出来るよう今後も努めていきたい。

連絡先 (079) 451-5500

静脈血ガス分析データの扱いに関する基礎的検討

～K(カリウム濃度), HCO₃(重炭酸濃度)について～

北播磨総合医療センター 中央検査室

○長尾飛優 富田孝子 黒田安代 南雅仁 梶井恵里 藤本ひろみ 久保田義則 森本和秀

【はじめに】

血液ガス分析とは、血中に溶けている気体（酸素や二酸化炭素など）の量を調べる検査で、通常は動脈血で測定される。腎臓に関係する K(カリウム濃度)と HCO₃(重炭酸濃度)の評価は静脈血ガスでもできるとされているが、採取容器についての検討はない。

【目的と検討項目】

静脈血ガス測定については、動脈血同様専用シリンジでの採血が原則であるが、採血管でも測定できれば、外来の測定依頼に対して、容易に採取が可能となる。検討項目は K 及び HCO₃ で、以下の 2 つの検討を行った。

- ・専用シリンジと採血管の測定データの差。
- ・採取直後と採取 30 分後の測定データの差。

【測定機器】

血液ガス分析装置 ABL800FLEX システム（ラジオメーター社）

【対象および検討方法】

対象:健常ボランティア(N=20)の静脈血。

方法:以下の 3 つの方法で静脈からそれぞれ 2 本ずつ採血を行った。

- ①血液ガス専用プラスチックシリンジ(safePICO:ラジオメーター社)に 1～1.5mL。
 - ②ヘパリン Na 入り 5mL 用採血管(テルモ社)に規定量(5mL)。
 - ③ヘパリン Na 入り 5mL 用採血管(テルモ社)に少量(2～3mL)。
- ①～③それぞれの検体について、1 本は検体採取後すぐに、もう 1 本は採取 30 分後(室温放置)によく混和して測定を行った。

本研究は、「静脈血ガス分析データの扱いに関する基礎的

検討」と題して、当院の倫理委員会の承認を得た。

【結果】

K について、採取直後の①と②のデータを比較すると、相関が $y=0.9039x+0.3837$ 、 $R^2=0.6767$ であり、平均誤差は 0.02 ± 0.36 meq/L であった。一方、採取直後の①と③のデータを比較すると、相関が $y=0.9677x+0.1387$ 、 $R^2=0.6575$ であり、平均誤差は 0.02 ± 0.39 meq/L であった。平均誤差外になった人が 2 名 3 検体あった。同様に、HCO₃ について、採取直後の①と②のデータを比較すると、相関が $y=0.763x+7.3712$ 、 $R^2=0.7623$ であり、平均誤差は 0.62 ± 2.25 mmol/L であった。一方、採取直後の①と③のデータを比較すると、相関が $y=0.7412x+6.4873$ 、 $R^2=0.7658$ であり、平均誤差は -0.89 ± 2.19 mmol/L であった。平均誤差外になった人はいなかった。

K、HCO₃ ともに採取直後と採取 30 分後の②、③のデータの差は、①と比べてほぼ同様の誤差であった。

【考察】

K において平均誤差外になった人が 2 名 3 検体あったがこれは偶発的な誤差と考えた。K と HCO₃ について、専用シリンジに採取した静脈血と採血管に採取した静脈血のデータには相関があったこと、採取直後と採取 30 分後の採血管のデータの差は専用シリンジと比べてほぼ同様の誤差であったことから、静脈血については採血管を使用した採血も可能と考えた。

【まとめ】

K と HCO₃ の評価を目的とした静脈血ガスの依頼については、他の依頼項目と同時に採血できることから、採血管での運用を開始した。

連絡先 0794-88-8800（内線 3398）

超音波検査により偶然発見されたランゲルハンス細胞組織球症の一症例

地方独立行政法人 加古川市民病院機構 加古川中央市民病院 臨床検査室

○酒井美玖 桃井裕亮 金石雅世 井上香瑞江 横山千佳子

【はじめに】

ランゲルハンス細胞組織球症(Langerhans Cell Histiocytosis: 以後 LCH)は、ランゲルハンス細胞が皮膚や骨、内臓などさまざまな部位で異常に増殖し、組織の障害と破壊をおこす疾患である。今回、超音波検査を契機に頭蓋骨に発生した LCH の一症例を経験したため報告する。

【症例】

24 歳、男性

【主訴】

前頭部痛

【現病歴】

2 週間ほど続く前頭部痛を主訴に前医脳神経外科受診。前額部に腫脹を認め触ると疼痛があったが、神経学的には特に異常所見を認めなかった。頭部 CT では頭蓋内や骨に明らかな異常所見を認めなかったが、皮下の腫脹を認めたため、精査目的で当院紹介となった。

【既往歴】 特記事項なし

【初診時所見】 前頭部中央に軽度の隆起部を認めた。皮膚表面に異常は認めなかった。隆起部は少し硬めだが骨様の硬さほどではなく、境界はやや不明瞭であった。

【前医 CT 所見】

皮膚直下から頭蓋骨直上に周囲と比較して等～ごくわずかに高吸収域を認めた。

【超音波所見】

前額面、疼痛部位に一致して頭蓋骨に沿うように 17.7×2.7mm の低エコー像を認めた。内部に血流信号あり。一部頭蓋骨が途絶して描出される箇所を認め、同部位で可動性を有する高輝度エコー像と、途絶した箇所の深部側にも他の部位とは異なる淡い低エコー像を認めた。

【造影 MRI 所見】

前頭骨から皮膚・皮下脂肪を押し上げるように進展している腫瘤

を認めた。前医 CT では骨皮質は割と保たれていたが、頭蓋内にも若干進展していた。今回の画像では中心部に軽度の溶骨性変化を認めた。多発病変はなく、その他頭蓋内には異常を認めなかった。

【頭部 CT 所見(当院)】

前頭骨から皮膚・皮下脂肪を押し上げるように進展する腫瘤を MRI と同様に認めた。18 日前に施行された前医 CT と比較し、急速な軟部腫瘍の増大と溶骨性変化の進行を認めた。画像所見より LCH が最も疑われた。

【手術所見および経過】

腫瘍摘出術を施行した。硬膜面に広がる腫瘍組織は黄緑灰色ゼリー状で黄土色透明な液体を伴っていた。術中迅速病理診断の結果は、組織球、好酸球、好中球、リンパ球などが混在し、組織球の核には切れ込みがあるものも散見され、LCH として矛盾はないという所見であった。術後経過は良好で 9 日目に退院。術後 9 か月経過した現在も検査上再燃を疑う所見はなく、今後も定期的なフォローアップがなされる予定である。

【考察】

LCH は従来、histiocytosisX と呼ばれていた疾患である。ランゲルハンス細胞があらゆる臓器にて異常に増殖する非常にまれな疾患である。皮膚、骨、リンパ節、軟部組織、胸腺、中枢神経、甲状腺などあらゆる臓器に発症し、中でも骨病変の頻度が最も多い。超音波検査で描出されていた低エコー像は、異常増殖したランゲルハンス細胞のほか、好酸球、好中球、リンパ球が混在して炎症が起きている様子を反映した所見であったと考えられる。また腫瘤部位で一部骨が途切れて描出された所見は骨破壊を反映しており CT、MRI の所見と一致していた。病態と超音波所見を理解し、腫瘍性病変が骨に存在する場合は LCH も念頭に置いて検査を進めていくことが重要であり、本症例の診断には CT、MRI のみではなく超音波検査も有用であったと考えられる。

男性乳腺の粘液瘤様腫瘍に非浸潤性乳管癌を併存した一症例

北播磨総合医療センター 中央検査室¹, 乳腺外科², 病理診断科³

○足立波奈¹, 岡成光², 山本侑毅³, 蓬萊安佐子¹, 荻野貴子¹

友藤春奈¹, 中西鮎美¹, 森本和秀¹

【はじめに】乳腺の粘液瘤様腫瘍(Mucocele-like tumor: MLT)は稀な良性疾患である。嚢胞状に拡張した乳管内に貯留していた粘液様物質が間質組織へ漏出した状態であり、異型乳管過形成(ADH)や非浸潤性乳管癌(DCIS)、早期の粘液癌が併存することがあると報告されている。

また、男性乳癌は乳癌全体の1%程度と稀な症例である。今回我々は男性のMLTにDCISを併存した一例を経験したので報告する。

【症例】80歳代男性。

【現病歴】他病で当院脳神経外科入院中に撮影したCTで右乳頭直下に分葉状腫瘍を認め、当院乳腺外科紹介となった。

【乳房診】右ECD領域に平滑な腫瘍を触知。

【超音波所見】右乳腺ECD領域に19.0×13.0×8.9 mmの腫瘍像を認めた。境界明瞭平滑で、内部は無エコーの液成分が主体、一部不明瞭な充実成分または隔壁様構造を認めた。充実部分には少量の血流を認め、エラストグラフィーでやや硬く描出された。後方エコーは増強し、嚢胞内腫瘍を考えた。医師が穿刺吸引を行った際の超音波検査では、嚢胞内に不均一な輝度のエコーが見られ、内部に無エコー部分は少なく嚢胞内腫瘍の印象はなかった。吸引されたのはごく少量の無色透明なゼリー状物質で、嚢胞は虚脱も変形もしなかった。

画像所見および穿刺の所見からMLTを疑った。

【細胞診所見】粘液と共に腺上皮細胞の集塊を認めた。シート状で二相性が確認できる集塊も見られ、集塊のN/C比は低く、悪性を疑う所見は明

らかではなかったためMLTも考えられた。

【診断と治療】男性の乳腺に発生したMLTと診断した。男性乳腺に粘液貯留をきたすことは極めて稀であり、またMLTには悪性病変を併存することがあるため手術を推奨し乳頭合併腫瘍切除術が行われた。

【病理組織所見】腫瘍径は19×10×11 mmで、粘液を容れた嚢胞性病変を認めた。組織学的には、嚢胞状に拡張した乳管の集簇が見られ、内腔に粘液を認めた。嚢胞壁が破綻し粘液が間質に漏出して見える領域もあるが浸潤像は認めなかった。上皮の増殖が見られ、低乳頭状構造やroman bridge様の構造、篩状構造を呈し、核がやや腫大し緊満感を認め、DCISを伴った病変と診断された。

【考察】乳腺に発生した嚢胞性病変で、内部に不明瞭、不均一な輝度のエコーを認めた場合、内部エコーをよく観察し、粘液の貯留を疑う必要がある。MLTが疑われる所見であるが、他に粘液癌が考えられる。

腺葉を認めず乳管のみ存在する男性乳腺において、粘液を貯留することはほとんどないためMLTは極めて稀である。そのため、男性では純粋なMLTではなく、悪性病変を念頭に何らかの病変の存在を疑う必要がある。本症例ではDCISが認められた。

【結語】男性乳腺のMLTにDCISを併存した一例を経験した。

肝炎院内連携に対する当院での取り組み

明石市立市民病院 臨床検査課

○三宅紗由美 濱英雄 梶山彩乃 杉尾嘉文

【背景】

慢性肝疾患は自覚症状を認めないことが多く、認識されないまま進行し肝硬変や肝癌になって発見されることがある。兵庫県は他の地域と比べ依然として肝癌の死亡率が高く、2019年3月には兵庫県健康福祉部健康局疾病対策課より医療機関における肝炎ウイルス陽性者の対応についての通達があり、肝炎対策について更なる取り組みの強化が求められている。ウイルス性肝炎については近年、B型・C型肝炎に対する抗ウイルス療法の進歩に伴ってウイルス排除や病勢コントロールが可能となり、未受診者の拾い上げが重要となっている。また近年はNASH（non-alcoholic steatohepatitis）からの肝硬変の増加も注目されており、自覚症状のない線維化の進行した患者の拾い上げも重要である。

今回、病院全体でウイルス性肝炎やその他の慢性肝疾患を早期発見して治療につなげるため、臨床検査課がサポート役として行っている当院での様々な取り組みについて報告する。

【活動内容】

2016年7月より線維化の指標とされるFIB-4 index (fibrosis index based on the four factors)とAPRI (aspartate aminotransferase to platelet ratio index)の算出を全入院・外来患者に対して導入を開始した。これは一般的な血液検査である血小板数とAST、ALTから算出できるため、これらの検査依頼のある患者の検査結果に医師の依頼なしに自動的に算出して報告する体制を整えた。また2019年5月からは、HBs抗原あるいはHCV抗体が初回陽性であった患者の電子カルテ掲示板に、検査結果と併せて、消化器内科への受診勧奨アラートを表示させた。さらに毎月末にそれぞれの陽性者リストを作成し、消化器内科医師に報告している。

【対象と方法】

受診勧奨導入前（2018年10月1日～2019年3月31日）と受診勧奨導入後（2019年6月1日～2020年5月31日）のHBs抗原とHCV抗体の陽性率及び消化器内科への紹介率を、HBs抗原

陽性者とHCV抗体陽性者について比較検討した。

【結果】

当院での上記期間内のHBs抗原の陽性率は、受診勧奨導入前6.9%、受診勧奨導入後は5.7%であった。またHCV抗体の陽性率は受診勧奨導入前2.5%、受診勧奨導入後は3.3%と勧奨導入前後で大きな差は認められなかった。HBs抗原陽性者の紹介率は、受診勧奨導入前22.2%であったのに対し、受診勧奨導入後は69.2%と格段に上昇した。一方、HCV抗体陽性者の紹介率は受診勧奨導入前が26.3%、受診勧奨導入後が24.2%と低率に留まっていた。

【考察】

消化器内科以外では、HBs抗原あるいはHCV抗体検査は術前検査として行われることが多く、陽性であった場合でも担当医師は感染症の有無として確認するのみで、肝疾患の可能性については意識されていなかったと思われた。しかし各種検査項目の増加や、掲示板への書き込みによる消化器内科への受診勧奨活動の結果、担当医師がウイルス性肝炎の可能性を意識し、必要に応じて消化器内科へ紹介したため紹介率の上昇につながったと考えられた。一方C型肝炎の紹介率が受診勧奨導入後も低率にとどまった理由の一つとして、HCV抗体が陽性であってもDAA治療などによりウイルスが排除された結果、担当医師が紹介不要と判断している例があったと考えられた。

【結語】

病院全体でウイルス性肝炎やその他の慢性肝疾患を早期発見して治療につなげるため、臨床検査課がサポート役となり様々な取り組みを行ってきた。消化器内科への受診率は上昇してきているが、受診勧奨アラートに気づかないまま当該科の受診が終了となっている例もまだ多く認められた。そのような例において、受診勧奨のお知らせを該当患者へ郵送するなどの対応を含め、さらに検討を進める必要がある。

気管支鏡検査検体における細胞診偽陰性となった症例の組織像比較と検討

北播磨総合医療センター

○四ッ谷麻代、藤木寿乃、山口千鶴、大森みゆき、津村佳美、山本侑毅

【目的】

細胞診断では陽性の症例であっても標本不良により偽陰性の診断となる可能性がある。気管支鏡検査検体では多くで生検採取と擦過細胞診、洗浄細胞診が同時に施行されるため診断の比較がしやすい。2020年の気管支鏡検査検体において組織診断と細胞診断が不一致だった症例が何例あったのか、また細胞診偽陰性と誤診した症例はなかったか検討した。

【統計結果】

2020年の気管支鏡検査の症例数は133例だった。133例のうち悪性腫瘍疑いとして施行されたのは125例、その中で生検が採取され組織診と結果比較ができたのは118例だった。そのうちの22例が組織診断と細胞診断不一致となり、内訳は細胞診偽陰性が17例、組織診偽陰性が5例だった。細胞診偽陰性17例のうち14例で乾燥変性、細胞少数、強血性などの標本不良がみられた。組織診と細胞診の結果が不一致になった一番の要因として標本不良が考えられた。標本不良がみられなかった3例について悪性細胞の見落としがなかったか再度鏡検した。

【細胞像結果】

症例①配列不整、核大小不同、クロマチン増量を認め核小体がやや目立つ集塊を散見した。乳頭状増生や辺縁のほつれをみる重積集塊も認めたが変性しており核は小型で異型性に乏しかった。組織診断は腺癌でHE像と比較すると腫瘍部に乳頭状増生や柵状配列を認め、細胞像でみられた集塊と同一であると思われた。結果細胞異型には乏しいが集塊が複数みられ構造異型を認めたことから鑑別困難の判定が可能であったと考えられた。

症例②核密度の高い重積集塊をごく少数認めた。核は小型で濃染しており変性が強く詳細不明瞭だった。組織診断は非小細胞癌で免疫染色の結果CK 5/6(+), p40(+), TTF-1(-), Napsin A(-)で扁平上皮癌だった。核密度の高い重積集塊が扁平上皮癌細胞だったと考えられるが細胞少数であったこと、変性が強く核所見の詳

細が不明瞭だったことから、鑑別困難と判定するのは過剰評価であり良性の判定が妥当であったと考えられた。

症例③豊富な粘液を有する大型集塊を多数認め乳頭状増生もみられた。細胞は高円柱状、核は小型で核密度が高く変性していた。核異型は軽度だった。組織診断は腺癌で浸潤性粘液癌の診断だった。浸潤性粘液癌は細胞異型が比較的軽度なものでは杯細胞の集塊や過形成と認識してしまう等スクリーニングでの見落としに注意が必要となる。本症例でも細胞量は十分であり粘液を有する高円柱状細胞を多数認めたが、核異型が目立たず異型細胞と認識しなかったこと、浸潤性粘液癌の可能性を挙げられなかったことが誤診の原因であったと思われた。結果として鑑別困難または悪性疑いの診断が可能であったと考えられた。

【結論】

組織診断と細胞診断不一致例が22例と多く感じたがほとんどが標本不良によるものだった。当院では擦過細胞診は臨床で95%アルコール固定後提出され洗浄細胞診は病理検査室で検体処理しているが、検出感度を上げるため検体処理をより適切に行う必要があると考えられた。標本不良がみられなかった症例を組織像と比較した結果、鑑別困難以上の判定になった症例もあれば良性の診断にとどまる症例もあった。今後スクリーニングの精度をあげるために、標本不良でなかった検体で診断が不一致となった場合は結果の確認だけではなく組織像と比較し悪性細胞の見落としがないか再度鏡検することも検討が必要と感じた。また組織診は陰性だったが細胞診が陽性であり治療が進んだ症例もあった。悪性細胞を確実にスクリーニングするとともに過剰診断にも注意が必要であると考えられた。

グラム染色所見が菌種同定の一助となった *Schizophyllum commune* (スエヒロタケ)による アレルギー性気管支肺真菌症(ABPM)の一例

地方独立行政法人 加古川市民病院機構 加古川中央市民病院 臨床検査室
○森下理紗子、水阪隆、宇都宮加奈、丸山望美、横山千佳子

【はじめに】

Schizophyllum commune は真正担子菌に属する真菌で、アレルギー性気管支肺真菌症（以下、ABPM）の原因菌であり、*Aspergillus* 属菌に次いで頻度は多いとされている。今回、我々は喀痰のグラム染色所見が菌種同定の一助となった *S. commune* による ABPM の一例を経験したので報告する。

【症例】

50 歳女性。基礎疾患に気管支喘息、*Aspergillus fumigatus* による ABPM があり、2021 年 1 月に肺炎像が出現し ABPM の再燃と診断された。ステロイド剤の短期内服で一時的に改善したが、7 月に再度咳嗽症状が悪化し、当院呼吸器内科を受診。来院時の血液検査は、白血球数：7490 / μ L、好酸球分画：15.4 %、非特異的 IgE：4107 IU/mL、CRP：0.502 mg/dL であり、胸部レントゲンでは肺野に浸潤影の悪化を認めた。臨床所見から ABPM の再燃が疑われ、喀痰培養検査が依頼された。微生物学的検査と血清学的検査により、*S. commune* による ABPM と診断され、ステロイド剤のみの処方経過観察となった。

【微生物学的検査】提出された喀痰の性状は、Miller & Jones 分類にて P3、Geckler 分類にて G5 であった。グラム染色（BM 法）では、低染色性の菌糸と多数の Charcot-Leyden 結晶を認めた。培養はサブロー寒天培地（極東）を用いて、好気条件下 25°C で行ったところ、培養 4 日目で白色綿毛状のコロニーの発育を認めた。そのコロニーをラクトフェノールコットンブルー（セロハンテプ法）にて染色を行ったところ、孢子形成は認められず、菌糸のみであったため、同定が困難であった。しかし、患者背景、グラム染色所見およびコロニー形態から *S. commune* を疑い、千葉大学真菌医学研

究センターに菌株の遺伝子解析と血清学的検査を依頼したところ *S. commune* と同定され、抗 *S. commune* 抗体（ELISA 法）は IgG と IgE 抗体ともに強陽性、抗 *Aspergillus* 抗体（ID 法）は陰性であった。なお、*S. commune* と同定後、再度白色綿毛状のコロニーをラクトフェノールコットンブルーにて染色を行ったところ、棘状突起を認めた。

【考察】

S. commune は ABPM の主な原因菌の一種であるが、*Aspergillus* 属菌と異なり形態学的特徴に乏しいことが多く、本菌を意識して検査を進めなければ誤同定につながるものが報告されている。本症例においても、同定が確定してから再培養後のコロニーでは棘状突起を認めたものの、初回は *S. commune* に特徴的なかすがい連結や棘状突起、および子実体の形成は認められず、同定に苦慮した。最終的な同定は専門機関に遺伝子解析を依頼したが、患者背景とグラム染色所見から早期の段階で *S. commune* を疑ったことで、確定診断へつなげることができた。ABPM が疑われる症例において、グラム染色での *Aspergillus* 属菌とは異なる菌糸と Charcot-Leyden 結晶の確認、およびサブロー寒天培地での白色綿毛状のコロニーの発育は *S. commune* を疑うポイントになるのではないかと考える。

【まとめ】

S. commune による ABPM の症例を経験した。形態学的な同定が困難な株であっても、患者情報やグラム染色所見が同定の一助となることを再認識した症例であった。

【謝辞】

今回の発表に際し、菌株の精査をして頂いた千葉大学真菌医学研究センターの亀井克彦先生、また、ご指導頂いた当院呼吸器内科の西馬照明先生に深謝致します。

第 41 回 丹但地区研究発表会

抄 録 集



令和 3 年 6 月 27 日(日)

公立朝来医療センター 4F 会議室

WEB 開催併設(Zoom 使用)

公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会

丹 但 地 区

当院における新型コロナウイルス核酸抽出検査に対する取り組み

公立豊岡病院 検査技術科

○松井絢太郎 鳥井睦美 河本崇志 竹中博昭 久下栄弘 平手和浩

【背景】

2019年12月に中国湖北省武漢市で新型コロナウイルス(以下SARS-CoV-2)の最初の感染者が確認されてから1年以上が経過した。2020年1月には日本国内で、3月には兵庫県内で陽性者が確認され、但馬地域の基幹病院としてSARS-CoV-2感染症の流行を防ぐべくSARS-CoV-2核酸抽出検査が開始された。8月には但馬地域に陽性者が確認され、核酸増幅検査の需要はますます増加した。今回は当院のSARS-CoV-2核酸抽出検査の導入から現在に至るまでの経緯を報告する。

【使用機器・試薬】

(1) LAMP法

(Loop-mediated Isothermal Amplification法)

使用機器: LoopampEXIA®

使用試薬: Loopamp®新型コロナウイルス

2019(SARS-CoV-2)検出試薬キット

ウイルスRNA抽出試薬

(全て栄研化学株式会社)

(2) RT-PCR法

(1step RT-PCR/加水分解プローブ法)

使用機器: CFX96リアルタイム解析システム

(BIO-RAD社)

使用試薬: nCoV 2019 新型コロナウイルス検出試薬キット

(島津製作所)

検査を活用することを可能とする」と報告され、鼻咽頭での検体採取による感染リスクを軽減するため、当院でも患者自身で採取できる唾液での核酸抽出検査の実施が求められた。それに応じるべく検討を重ね、試薬は安定供給が確保されていること、機器においては他施設の導入状況を参考に、汎用機である事、短期間で導入可能である事を条件に準備して10月よりPCR法検査を開始した。RT-PCR法はLAMP法と異なり1度に多数の検体を処理できるため、当初は全身麻酔下手術の患者のみを対象にしていたが、12月より予定入院患者の入院前検査や妊婦検診時にもRT-PCR法を行っている。これに伴い検査対象患者が増加したため、唾液採取に臨床検査技師も参加している。

一方LAMP法はRT-PCR法と比較して短時間で検査できる点を活かし、夜間を含め緊急対応を行っている。

2021年5月末現在LAMP法とRT-PCR法を合わせた総検査数は5630件にのぼる。また当院の発熱外来ではスクリーニング的に抗原定性検査も実施しており、検査数は337件となっている。抗原定性検査で陰性の患者が核酸抽出検査では陽性となった症例も経験したことにより、偽陰性の存在も念頭に置いて検査を行う必要がある。

【まとめ】

SARS-CoV-2感染症の検査には多くの種類があるが、緊急性や検体の種類によって検査法を併用することが有用である。

【経緯】

2020年1月に日本国内でSARS-CoV-2陽性者が確認され、次第に全国へ広がり3月には兵庫県内でも確認されるようになった。これに伴い、当院でも流行地域への移動歴がある患者に対して感染の有無を調べるため、鼻咽頭拭い液でのLAMP法を開始した。開始直後は、院内でのLAMP法と並行して外部委託でRT-PCR法を行い確認していたが、結果の相関は良好だった。

9月に新型コロナウイルス感染症診療の手引き第3版で「無症状者を対象に行った検査で、唾液を用いたPCR検査と鼻咽頭拭い液PCR検査を比較し、高い陽性者一致率、陰性者一致率を確認することができ、無症状者に対して唾液を用いたPCR

連絡先: 0796-22-6111 (内線: 2508)

骨髓液 WT1 mRNA 定量検査の院内導入について

兵庫県立丹波医療センター検査・放射線部¹⁾

兵庫県立丹波医療センター血液内科²⁾、兵庫県立丹波医療センター病理診断科³⁾

○田中竣¹⁾ 三輪詩佳¹⁾ 高柳光佑¹⁾ 中原佳佑¹⁾ 大鷲和由¹⁾ 山本七生美¹⁾
谷後美鈴¹⁾ 上霜剛¹⁾ 北尾章人²⁾ 鷹巣晃昌³⁾

【背景】

ウィルムス腫瘍遺伝子(WT1)は小児ウィルムス腫瘍の原因遺伝子として単離された遺伝子であり、急性骨髄性白血病(AML)や骨髄異形成症候群(MDS)などの造血器腫瘍において発現量が増加することが知られている。臨床的に、WT1 mRNA の発現量は造血器腫瘍の診断補助や微小残存病変(MRD)モニタリングの指標として用いられ、再発診断および治療効果判定に有用である。

当院はこれまでWT1 mRNA 定量検査を外部委託していたが、血液内科医の要望があり、院内導入の検討を開始した。

WT1 mRNA の測定には体外診断用医薬品として承認されているWT1 mRNA 測定キット II「オーツカ」が一般的に使用されているが、機器の指定があり当院所有の機器には対応していないことや試薬のコストが高いことなど院内導入には多くの障壁がある。そこで、同県立病院の複数施設が実施しているインハウス法を採用し、院内実施に向けた基礎的検討を行ったので一部、報告する。

【方法】

対象は、R1年7月からR2年6月までに初診で骨髓検査を実施し、WT1検査のオーダーがあったAML患者6名、MDS患者12名、それ以外の患者19名である。それ以外の患者は標本上、細胞の形態異常や芽球の増加を認めない患者とした。上記患者の骨髓液からRNAを抽出し、逆転写によりcDNAを作成後、リアルタイムPCRによりWT1 mRNA量を測定した。尚、測定値はABL mRNA量で補正し、その値に105乗じた。

① 基準値の設定

AML、MDS以外の患者19名のWT1 mRNA量の平均値+2SDから基準値を設定した。その値を用いてWT1検査の特異度、AML、MDS患者における検査の感度を算出した。

② 外部委託および尼崎総合医療センターとの相関性

全対象患者のうち外注検査を実施した21名の患者を対象に院内で測定したデータと相関係数、回帰式をもとに比較した。また、尼崎総合医療センターで測定した検体20件を当院で測定したデータと相関係数、回帰式をもとに比較した。

【結果】

① AML、MDS以外の患者19名のWT1 mRNA量の平均値+2SDは180.7+314.8となり、基準値を<500と設定した。このとき、基準値を上回った検体は1件あり、特異度が94.7%であった。また、AML、MDS患者におけるWT1検査の感度はそれぞれ100%(5/5)、66.6%(8/12)となった。

② 院内検査と外注検査とのWT1 mRNA量の相関係数は0.8807、回帰式は $y=0.9598x+0.5425$ となり良好な相関が得られた。また、尼崎総合医療センターと当院のWT1 mRNA量の相関係数は0.9874、回帰式は $y=1.0152x+0.0611$ となり良好な相関が得られた。

【まとめ】

基礎的検討を経て、R2年7月からWT1検査の院内実施を開始した。院内導入したWT1検査はAML、MDSとそれ以外の疾患との鑑別に有用であり、設定した基準値をもとに結果を評価することで病勢把握の一助となることが示された。今後は、MRDモニタリングの指標としてWT1検査の有用性について検討していきたい。

また、院内導入により、依頼件数やTAT、コスト面への効果を認めた。依頼件数は前年比200%と大幅に増加し、平均報告日数は導入前よりおよそ5日間短縮して、依頼当日もしくは翌日には結果報告できている。また一件当たりの検査費用は外部委託した場合より約3000円削減した。特にTATが短縮したことにより、依頼医が患者の病勢を素早く把握し、治療方針の決定に貢献できたのではないかと考える。

当院ではR3年7月から血液内科医が常勤となり、血液疾患患者の入院治療が開始される。より一層、WT1検査の需要が高まり、検査件数の増加が予想される。今後もWT1検査の厳密な精度管理と迅速な結果報告を心がけて検査していく。

連絡先：0795-88-5200（内線：1225）

自己免疫性肝炎に合併した肝細胞癌の1例

公立豊岡病院組合立朝来医療センター 検査技術科¹⁾

公立豊岡病院組合立豊岡病院 検査技術科²⁾

○岡坂理沙¹⁾ 井関進也¹⁾ 中地弥生¹⁾ 船田朋子²⁾

【はじめに】

従来、自己免疫性肝炎（autoimmune hepatitis：AIH）は慢性に経過し早期に肝硬変に移行するものの、肝細胞癌（hepatocellular carcinoma：HCC）の合併はウイルス性肝炎患者に比べ稀とされてきたが、近年 AIH の長期治療例が増えるにつれ HCC の合併例も増加傾向にあると報告されている。今回、肝硬変像を伴わない AIH に合併した HCC の症例を経験したので報告する。

【症例】

80代 男性

既往歴：高血圧、高脂血症、前立腺肥大、早期胃癌、大腸ポリープ、ヘリコバクター・ピロリ胃炎、脳梗塞

主訴：倦怠感

現病歴：2015年2月、高脂血症や脳梗塞後のフォローで通院中、ALPと γ -GTPの軽度上昇を認めたため自己抗体検査と腹部エコー検査が施行された。腹部エコーでは肝実質の粗雑化なく、ごく軽度脂肪肝といった所見であったが、血中 IgG 3454mg/dl、抗核抗体 320 倍、抗ミトコンドリア抗体（－）であり、自己免疫性肝炎と診断され、ステロイド治療が開始されていた。

2020年2月、AIH精査目的で腹部エコー検査を施行したところ、肝腫瘤性病変を認めたため、精査となった。

ステロイド治療開始から5年間画像検査及び腫瘍マーカー検査は実施していなかった。

血液検査データ（2020年2月）：AST 39IU/L、ALT 33IU/L、LDH(JSCC) 249IU/L、ALP(JSCC) 412IU/L、 γ -GTP 121IU/L、CRP 2.79mg/dl、AFP 83.9ng/ml、PIVKA II 650mAU/ml

腹部エコー所見（2020年2月）：肝実質やや粗雑、右葉後区域に75×45mmの腫瘤性病変を認め、辺縁低エコー帯は認めないが境界明瞭で内部は高エコーと低エコーが混在し、わずかに血流シグナルを認めた。その他、肝嚢胞、両腎嚢胞を認めた。

CT所見（2020年2月）：肝後区域に径7cmの腫瘤を認め、動脈相で濃染し、平衡相でwash outしており、HCCが疑われた。

肝嚢胞、両腎嚢胞を認め、リンパ節腫脹は認めなかった。

【経過】

HCCの診断にて他院紹介となり、TACE（選択的動脈化学塞栓術）治療を行ったが、再発の疑いがあり現在も加療中である。

【考察】

AIHを背景としたHCCの発現機序として、肝硬変やステロイド長期投与による免疫抑制の関与、またウイルス性肝炎の合併などが示唆されているが未だ不明である。

文献上のデータではAIH患者のHCC合併率は5.1%、そのうち肝硬変を伴う症例は77.9%であったと報告されており、多くはAIHから肝硬変、肝硬変からHCCと進行していくことが示唆されている。

今回我々が経験したAIH症例においては、肝硬変への進行はなく、肝炎ウイルス感染の可能性もないままHCCを合併しており、比較的稀な症例であったと考える。

しかしAIH診断後の5年間、経過観察として肝酵素などの血液検査のみしか行われておらず、HCC発見遅延の要因だったとも考えざるを得ない。

以上のことから、AIH診断後においては肝硬変の所見がなくともHCC合併の可能性を念頭に置き、各種画像検査や腫瘍マーカーの経時的観察が重要であると考えられた。

【結語】

自己免疫性肝炎のステロイド治療中に、肝硬変に移行せず肝細胞癌を合併した症例を経験した。

連絡先：079-672-3999（内線：190）

下肢静脈超音波検査を契機に大腿遠位部に発見された悪性リンパ腫の一例

公立八鹿病院 医療技術部検査科

○田村美歩 田村由理絵 林靖子 中島正之

【はじめに】

悪性リンパ腫は成熟リンパ球から形成される悪性腫瘍であり、身体のあるあらゆる場所で病変の発生が見られるが、特に頸部、腋窩、鼠径が好発部位とされている。今回我々は下肢静脈超音波検査時に大腿遠位部に発見された悪性リンパ腫を経験したので報告する。

【症例】

80 代 女性 既往歴：虫垂切除 左アキレス腱切 虚血性大腸炎 左鼠径ヘルニア 家族歴：特記事項なし

現病歴：右変形性股関節症に対し人工股関節置換術を施行。術後 1 週の下肢静脈超音波検査にて左腓骨静脈と左ひらめ静脈に血栓を認めた。翌週の検査では血栓縮小傾向、その後 1 週毎に超音波検査を行い著変なく経過していた。術後 6 週の検査にて右後脛骨静脈に約 10cm の新規血栓を認め、ワーファリンが開始された。翌週の検査では著変認めなかったものの、さらに翌週には血栓縮小しワーファリン継続で退院となった。退院 2 週後の受診時に左足の腫脹を自覚、下肢静脈超音波検査にて大腿遠位部後方に 24×19 mm の充実性腫瘍陰影を認めた。腫瘍は大腿動脈からの血流流入所見を伴い、腫瘍内部に拍動性の血流信号を認めた。同日施行された MRI では、T1W 低、T2W 中程度の信号を有する腫瘍病変を認めたが、明らかな血流信号はみられず血腫が疑われた。1 ヶ月後の超音波検査では腫瘍は 49×28 mm に増大しており、左膝窩静脈に新規血栓を認めた。さらに 2 週後に腫瘍は 64×52 mm に増大し、同日施行された dynamic CT の結果と併せ、腫瘍に対し外科的処置が必要と判断されたため仮性動脈瘤疑いで他院の心臓血管外科へ紹介となった。また、左膝窩静脈の血栓は残存、ひらめ静脈に新規血栓を認めた。

【経過】

紹介先にて施行された CTA（頸部～下肢動脈）および造影 MRI（左大腿～膝窩）にて腫瘍性病変が疑われたため、左膝窩部軟部腫瘍疑いで大学病院へ紹介となった。また左胸部皮下および乳腺外側に結節影を認めた。大学病院にて針生検の結果、びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫（diffuse large B-cell lymphoma : DLBCL）と診断が確定され、放射線治療が開始された。

病理所見：N/C 比の高い大型の細胞が個細胞性に増殖。免疫染

色にて CD20 はびまん性に陽性、CD3 は背景のリンパ球に散在性に陽性、MIB-1 は 80 %程度陽性。CD10 陰性、BCL 陽性、MUM1 陽性。

【考察】

悪性リンパ腫の典型的な超音波所見は、①形状不整、②内部エコーレベル極めて低、③後方エコー増強とされている。本症例における超音波所見は、形状ほぼ整、内部エコーレベル低～等で不均一、後方エコーは腫瘍直下に大腿動脈が位置していたため観察困難であり、悪性リンパ腫を積極的に疑うエコー所見に乏しかった。大腿動脈から腫瘍内部へ流入する血流信号を認め、腫瘍内部にも拍動性の血流信号を認めた。血管と交通のある出血巣として仮性動脈瘤が挙げられるが、交通部分のパルス波形は仮性動脈瘤に特徴的な to and fro を示さず、原因となるような外傷等の既往もなかった。

本症例では術後 1 週毎の下肢静脈超音波検査にて血栓の再発が繰り返し指摘された。血栓発生の原因として、Virchow の 3 徴（血流うっ滞、血管内障害、血液凝固能亢進）が挙げられるが、担癌状態では血栓を生じやすく約 3 割が静脈血栓塞栓症を発症するとされ。発症リスクは非癌患者と比較し約 7 倍、再発リスクも 3～4 倍高いとの報告がある。

今回は抗リン脂質抗体やプロテイン S 活性等は未精査であるが、血栓再発の要因として腫瘍性病変が発見される以前より既に担癌状態にあり、凝固系に異常を来したことが一因となった可能性が推察される。また、DLBCL は週～月単位で進行する中悪性度リンパ腫に分類されるが、本例も初回 2.5cm 大→6 週後 6.5cm 大と腫瘍が急速に増大する経過をたどった。

以上より、腫瘍性病変を発見した際には血流シグナルを観察したうえで、血栓再発例および腫瘍の急速な増大を認める場合は悪性腫瘍の鑑別も念頭に置き検査に臨むことが重要であると考えられる。

【結語】

超音波所見で典型像を呈さず、血管との交通を認め仮性動脈瘤との鑑別が困難であった悪性リンパ腫の症例を経験した。腫瘍性病変は血流シグナルを観察し、血栓再発や急速に増大する例においては悪性腫瘍の可能性も念頭に置き検査に臨むことが重要である。

連絡先：079-662-5555（内線：1420）

当院における Clostridioides difficile (CD) 培養の検討

公立豊岡病院 検査技術科

○久保侑也 長谷川香織 後藤孝文 辻村菜津美 平手和浩

【はじめに】

2019 年 2 月上旬～6 月下旬の間に当院の A 病棟において Clostridioides difficile 感染症 (CDI) アウトブレイクが起きた。CDI のアウトブレイクをきっかけに当院での CD 培養を開始し、下記の 3 点について検討した。

- ・ 便の採取容器。
- ・ 費用や時間を考慮したうえで CD 培養の実施が有用であるかどうか。
- ・ CD 検査における当院のフローチャートの作成。

【方法】

2019 年 3 月～2020 年 5 月末までの便 475 検体を直接 C. DIFF QUIK CHEK コンプリート (アボットメディカルジャパン合同会社) で CD 検査をした結果と、便検体から CD を純培養し菌液を作り C. DIFF QUIK CHEK コンプリートで CD 検査をした結果 (培養法) で TOX の陽性数を比較する。

【結果】

- ・ 便の採取容器の検討

検体の出し入れのしやすさと、量および質 (ブリストルスケール) を確認できることを考慮し、SK 検便容器 (ケーエム化学株式会社) から容器 4 号 (アジア器材株式会社) に変更した。

- ・ CD 培養の結果

GDH(-), TOX(-) の 409 検体を培養法で再検査し GDH(+), TOX(+) となった検体数は 16 検体、TOX 陽性率は 4% で、培養法にかかった費用は約 83 万円であった。

GDH(+), TOX(-) の 38 検体を培養法で再検査し GDH(+), TOX(+) となった検体数は 23 検体、TOX の陽性率は 60% で、培養法にかかった費用は約 12 万円であった。

GDH(+), TOX(+) の 28 検体を培養法で再検査し GDH(+), TOX(+) となった検体数は 27 検体、TOX の陽性率は 96% で、培養法にかかった費用は約 9 万円であった。

- ・ これらの結果より CD 検査フローチャートを作成した。

【考察】

GDH(+), TOX(-) の検体で培養法とイムノクロマト法を比較すると、培養法を実施することで TOX の感度が大幅に上がったことから、臨床的判断を行う上で GDH(+), TOX(-) の検体では培養法を実施する意義が高いことが分かった。

そして、GDH(-), TOX(-) の検体は培養することで GDH および TOX の感度を上げることはできたが、費用の面から積極的に培養する必要はないと判断した。

日本感染症学会などで CDI の細菌学的検査に関するフローチャートがいくつか示されているが、当院で作成した CD 検査フローチャートはそれらのものと大きな相違はなく有用であると考えた。

【結語】

CD 培養を行った結果、費用と時間、TOX の陽性率より当院では GDH(+), TOX(-) を培養し、それ以外は原則培養しないこととした。

連絡先 : 0796-22-6111 (内線 2509)

直接抗原検査が早期診断に有用であった G 群溶血性連鎖球菌による敗血症の 1 例

兵庫県立丹波医療センター¹⁾、済生会兵庫県病院²⁾

○高柳光佑¹⁾ 井元明美¹⁾ 前田郁子¹⁾ 上霜剛¹⁾ 石橋万亀朗²⁾

【はじめに】

G 群溶血性連鎖球菌 (group G streptococcus:以下 GGS) は、ヒトの皮膚、鼻腔、咽頭、生殖器などに生息しており、A 群溶血性連鎖球菌 (group A streptococcus:以下 GAS) や B 群溶血性連鎖球菌 (group B streptococcus:以下 GBS) に比べ病原性が低い事が知られているが、基礎疾患を有する高齢者に重篤な感染症を起こすことが報告されている。GGS 感染症は GAS 感染症と類似した侵襲性の病変を示すため、早期の診断が患者の予後に大きく影響するため重要となる。今回、我々は血液培養陽性検体を用いて直接抗原検査を実施し、GGS による敗血症と早期診断され、抗菌薬を適正に投与する事が出来た 1 例を経験したので報告する。

【症例】

患者：70 歳代、女性

主訴：発熱、嘔吐、下痢

既往歴：2 型糖尿病、2 年前に子宮頸がんの手術

現病歴：左下肢に紅斑を伴う水疱と限局した浮腫、発赤、圧痛を認め、また左第 1・2 趾間、右肘にも同様に発赤があり蜂窩織炎を認めた。

血液検査結果：WBC； $3.5 \times 10^9/L$ 、PLT； $124 \times 10^9/L$ 、CRP； $49.09 \times 10^3 \mu g/L$ 、PCT 定量；195.24ng/ml、CK；2800IU/L

微生物検査結果：来院時に提出された右肘関節液、右肘皮膚創部液、左足関節血疱穿刺液からグラム染色で連鎖状のグラム陽性球菌 (GPC) を認め、主治医に報告した。2 日目、血液培養が陽性となりグラム染色で他の検体と同様の連鎖球菌を認めた。血液培養液が溶血していたことや蜂窩織炎を認めたことから溶血性連鎖球菌と推定し、血液培養陽性検体の上清を用いて直接抗原検査 (セロアイデンストレプトキット 栄研化学) を行い、GGS と判定した。また、連鎖状の GPC を認めた他の検体からも、 β 溶血を示すコロニーが発育し菌株による抗原検査で血液培養と同様に GGS と判定した。以上の結果から当初抗菌薬は MEPM、DAPT、CLDM が投与されていたが、ABPC、CLDM に変更された。分離菌の同定検査は PC3.1J パネル、薬剤感受性検査は MF7J パネルを使用し、WalkAway (ともにベックマンコールター) にて行った。

その結果、Streptococcus dysgalactiae と同定され、薬剤感受性結果は表 1 の通りであった。また、精査のために 16SrRNA 解析を実施したところ、Streptococcus dysgalactiae subsp. equismilis (以下 SDSE) と同定された。

表 1 薬剤感受性結果

antibiotics	MIC($\mu g/mL$)	antibiotics	MIC($\mu g/mL$)
ABPC	≤ 0.06	MEPM	≤ 0.12
PCG	≤ 0.03	AZM	≤ 0.25
CFPM	≤ 0.5	EM	≤ 0.12
CTX	≤ 0.12	CLDM	≤ 0.12
LVFX	0.5	MINO	4
CZOP	≤ 0.12	CP	≤ 4
CTRX	≤ 0.12	VCM	0.5

【考察】

今回の症例では、血液培養陽性検体の上清を用いた直接抗原検査により、GGS による敗血症の可能性を迅速に報告できた。関節液の直接抗原検査により起因菌を同定できたとの報告もあり、血液培養陽性の上清も同様に早期の診断、起因菌の同定に有用であると考えられる。また、GGS は高齢者で感染のピークを示し、糖尿病や悪性腫瘍などの基礎疾患を有する成人から多く検出される傾向もあるとされている。このことは本症例の患者背景と一致しており、検査結果のみならず患者背景も起因菌同定の一助になると考えられる。

【結語】

グラム染色や直接抗原検査から GGS の可能性を迅速に報告したことで適切な抗菌薬に変更でき、後遺症を残すことなく患者の救命に貢献できた。また、当院のある丹波地域は他地域と比較して高齢化が進んでおり、本症例のような重症感染症の増加に備える必要があると考える。

連絡先：0795-88-5200 (内線 1223)

染色体異常 inv(16)を認めるが急性骨髄性白血病様の所見を呈さない骨髄増殖性腫瘍の一例

公立八鹿病院 医療技術部検査科¹⁾ 田原医院²⁾

○中村真一¹⁾ 中島正之¹⁾ 田原徹²⁾

【はじめに】

AML with inv(16) (p13.1q22):CBFB-MYH11 は WHO 分類における「反復する遺伝子異常を伴う急性骨髄性白血病」に含まれる病型のひとつである。本病型は芽球の比率が 20%未満であつても AML と診断すべきとされているため、細胞形態に加えて、遺伝子・染色体検査の結果から診断へつなげることが重要な疾患といえる。

今回、白血球及び血小板増多の原因精査にて施行された骨髄穿刺にて染色体異常 inv(16) (p13.1q22)が報告されたが、FISH 法にて CBFβ 変異が検出されず、その他検査所見や臨床像も急性骨髄性白血病様の所見を呈さなかった骨髄増殖性腫瘍の一例を経験したので報告する。

【症例】

70歳代男性 高血圧にて近医通院中に白血球および血小板増多が認められ当院血液内科紹介となった。

【検査所見】

初診時

〔末梢血〕

○生化学：TP 6.7g/dL Alb 4.1g/dL CRP 0.06mg/dL

AST 74IU/L ALT93 IU/L LDH 273IU/L

○血液：WBC $9.4 \times 10^9/L$ RBC $4.38 \times 10^{12}/L$ Hb 13.8g/dL

Ht 40.6% PLT $775 \times 10^9/L$ 白血球分類 Meta 3% Stab 3%

Seg 61% Eosin 4% Baso 2% Lym 18% Mono 9%

JAK2V617F 変異あり (コピー数 4.6×10^3 copy 21.4%)

〔骨髄〕 採取部位：胸骨

有核細胞数 $710 \times 10^3/\mu L$ 巨核球数 $578.1/\mu L$ 過形成

骨髄像 Blast4.8% 骨髄系細胞 55.4% 赤芽球系 39.6%

盛んな血小板産生を認める巨核球が増加しており骨髄増殖性腫瘍が疑われる骨髄像である。

○染色体検査 (G-band 法) 46, XY, inv(16) (p13.1q22)

(20/20 細胞) →追加依頼した FISH CBFβ スプリットシグナルは 0.0%

初診時+42 日後

○血液：WBC $12.3 \times 10^9/L$ RBC $4.33 \times 10^{12}/L$ Hb 13.9g/dL

Ht 39.7% PLT $930 \times 10^9/L$ 白血球分類 Myelo 1% Meta 2%

Stab 1% Seg 67% Eosin 3% Baso 3% Lym 18% Mono 5%

〔骨髄〕 採取部位：腸骨

有核細胞数 $536.5 \times 10^3/\mu L$ 巨核球数 $593.8/\mu L$ 過形成

骨髄像 Blast3.0% 骨髄系細胞 57.4% 赤芽球系 39.2%

前回の骨髄像と同様に、盛んな血小板産生を認める巨核球が増加しており骨髄増殖性腫瘍が疑われる骨髄像である。

○染色体検査 (G-band 法) 46, XY, ?inv(16) (p13.1q22)

(20/20 細胞) →追加依頼した FISH CBFβ スプリットシグナルは 0.0%

初診時+1 年 6 ヶ月後

○血液：WBC $5.3 \times 10^9/L$ RBC $3.44 \times 10^{12}/L$ Hb 13.5g/dL

Ht 38.9% PLT $404 \times 10^9/L$ 白血球分類 Stab 1% Seg 77%

Eosin 0% Baso 1% Lym 19% Mono 2%

【考察】

WHO 分類では、特定の染色体異常についてはその異常の確認が診断にまで到るものがある。本症例では、骨髄液にて染色体異常 inv(16) (p13.1q22)を認めたが急性骨髄性白血病とするには他の所見からは否定的と考えられた。染色体解析は専門性に富み、我々のような中規模病院ではその結果の判定は検査センターに委ねるのが現状である。染色体異常が確認された際は、他の検査所見を踏まえて FISH などによる遺伝子レベルでの変異の確認を臨床医に提案する必要性を感じた一例であった。

【まとめ】

本症例は、骨髄染色体検査では G-band 法にて inv(16)が認められたが骨髄像からは AML FAB 分類 M4Eo を疑わせる芽球や単球系細胞の増加、異常好酸球の出現はなく追加した FISH 法では CBFβ 変異は認められなかった。よって総合的に判断され AML との診断には至らず、16 番染色体で認められた染色体異常は現時点では疾患との関連性は低いものとされたが、本染色体異常の詳細ははっきりせず今後引き続き AML への進展を含め慎重な経過観察が必要と考えられる。

連絡先：079-662-5555 (内線：1421)

サルでもわかるタスク・シフティング入門

公益法人 兵庫県臨床検査技師会 会長

真田 浩一

【はじめに】

2040 年は日本の高齢者人口（65 歳以上）がピークになり、65 歳以上が約 4000 万人に達すると推定されています。加えて出生数の低下により生産年齢人口が減少し、1 人の高齢者を 1.5 人の現役世代で支えることになると言われてい

ます。この状況に対する国策の柱が「働き方改革」で、医療業界においては 2024 年から医師の時間外労働の上限規制が適用されます。厚生労働省は、この目標を達成するための手段として「タスク・シフティングの推進」を挙げており、臨床検査技師については、厚生労働省の指定講習会を受講することで新たに 8 つの業務が実施可能となります。

タスク・シフティングへの貢献が臨床検査技師の将来を決定する鍵になると言っても過言ではないでしょう。

当日はタスク・シフティングに関してできるだけわかりやすくお話ししたいと思います。

参考にタスク・シフティングとして臨床検査技師が関係する業務を列記しますので、各施設のニーズに合わせた取り組みを積極的に進めて下さい。

【現行制度上実施可能とした業務（17 項目）】

1. 心臓・血管カテーテル検査、治療における直接侵襲を伴わない検査装置の操作
2. 所見の下書きの作成（生検材料標本、特殊染色標本、免疫染色標本等）
3. 細胞診や超音波検査等の検査所見を報告書に記載し、担当医に交付
4. 医師の説明等の前後に輸血に関する定型的な事項や補足的な説明と同意
5. 救急救命処置の場において、医行為に含まれない補助行為の実施
6. 超音波検査
7. 生理学的検査実施の際の口腔内からの喀痰等の吸引
8. 血液製剤の洗浄・分割、血液細胞（幹細胞等）・胚細胞に関する操作
9. 手術検体等に対する病理診断における切り出し
10. 画像解析システムの操作、デジタル病理画像のスクリーナー取り込み、取り込んだ画像データの管理、デジタル病理画像管理機器装置の調整
11. 病理診断書のダブルチェック

12. 病理解剖

13. 検査にかかる薬剤を準備して、患者に服用してもらう（糖負荷試験にかかるブドウ糖液、呼吸機能検査にかかる気管支拡張剤、脳波検査にかかる睡眠導入剤、尿素呼吸試験の尿素錠）

14. 負荷心電図検査等の生理学的検査実施前に患者に装着されている生体情報モニターの血圧や酸素飽和度などのバイタルサインを確認し、医師等と事前に取り決められた範囲の値になっているかどうかを確認し、検査を実施が可能かどうかを確認する

15. 輸血実施後、副作用出現の有無の観察、異変出現時、医師等への状況報告

16. 健診等で行う接触を伴わない簡易な視力測定・眼圧測定

17. 持続陽圧呼吸療法導入の際に行う陽圧の適正域を測定する検査

【法令改正が必要な業務（8 項目）】

1. 採血に伴い静脈路を確保し、電解質輸液（ヘパリン加生理食塩水を含む）に接続する行為
2. 肛門にバルーンを挿入し、バルーンに空気を注入して圧を測定する直腸肛門検査
3. 持続自己血糖測定検査（皮下の間質液で測定する測定器を装着する行為を含む）
4. 運動誘発電位・体性感覚誘発電位に係る電極装着（針電極含む）・脱着
5. 経口、経鼻又は気管カニューレ内部から喀痰を吸引して採取する行為
6. 消化管内視鏡検査・治療において、医師の立会いの下、生検鉗子を用いて消化管から組織検体を採取する行為
7. 静脈路に成分採血のための装置を接続する行為、成分採血装置を操作する行為
8. 超音波検査に関連する行為として、静脈路に造影剤を注入するための装置を接続する行為（静脈路確保を除く）、造影剤を投与するために造影剤を注入するための装置を操作する行為

連絡先：079-293-3131（内線：5873）



第 38 回西播地区研究発表会

抄 録 集

日 時：令和3年7月25日（日）

10時00分～12時40分

会 場：太子町文化会館 丸尾建築あすかホール
（ 現地開催および WEB 開催の併用 ）



公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会

演題1

姫路市医師会における新型コロナ遺伝子検査の取り組み

姫路市医師会

○宮田 瑞規 衣笠 愛二 陰山 友希 川畑 文那 清水 咲姫 内川 昭文

【取り組み】

姫路市医師会では2020年7月より新型コロナウイルス専用の遺伝子検査室を設置し、新型コロナウイルス遺伝子検査（以下遺伝子検査と表記する。）を開始しました。現在本会では下記の3つを事業として実施しています。

- ①姫路市から委託された地域外来検査センターでの検査
- ②集合契約による会員医療機関からの検査
- ③介護老人保健施設の入所前検査

検査開始以前より様々な感染対策を取り、入念な準備をしたうえで検査を開始し、日々の中でより一層新型コロナウイルスに対する危機意識を持って取り組みました。本会の職員一人一人が意識することで今日まで1人の感染者も出すことなく運営することができました。今回は本会の新型コロナウイルスに対する取り組みについてご紹介します。

【地域外来検査センターの検体採取】

地域外来検査センターでの検体採取方法は、完全予約制のドライブスルー方式を採用しています。採取した検体は直ちに遺伝子検査室に持ち運び、検査を開始します。検体採取は下記の感染対策を徹底して実施しています。

- ・被検者は採取時以外車両の窓を決して開けさせないようにする
- ・医療従事者は国立感染症研究所より指定された装備（サージカルマスク、防護服、フェイスシールド、手袋）を着用する
- ・装備を身に着けた医療従事者の移動は決められた区画内のみとする
- ・採取場では常に医療従事者が風上になるような状況を作り採取を行うようにする
- ・次の被検者に感染させないよう毎回手指消毒及び手袋を交換する
- ・装備の脱衣は指定のエリアで決められた順序に沿って行う
- ・採取終了後は採取室や脱衣場及びその周辺の消毒を行う

【集合契約や介護老人保健施設の検体収集】

本会では会員医療機関や介護老人保健施設からの検査依頼を受けています。遺伝子検査及び検体収集は完全予約制で行っています。通常検体の集荷担当者とは別に集荷担当者が決まっており、担当者は遺伝子検査用検体のみを集荷しています。事前に各医療機関にて採取済み容器をアルコール消毒してバイオパウチで封入し、再びアルコール消毒して提出していただいています。検体受け取りは必ず対面にて行いますが、原則担当者は検体に触れず、各医療機関の方に輸送用ボックスへ入れていただきます。検体は姫路市医師会館内に持ち込まず、遺伝子検査室に直接持ち込みます。集荷で使った手袋、マスク等は専用の感染性廃棄BOXに廃棄します。

【遺伝子検査室における感染対策】

遺伝子検査室ではまず検査者と非検査者の区域分けを行い、移動制限をかけています。検査者は原則姫路市医師会館への立ち入りは禁止し、逆に非検査者は検査室への立ち入りを禁止しています。検査室内ではHEPAフィルター、安全キャビネットを設置し、検査室を陰圧に保ちながら外気にウイルスを排出しない措置をとっています。検査時は防護服と手袋、マスクを着用します。作業後は安全キャビネット及び使用器具は次亜塩素酸とアルコールにて清拭します。検体や手袋、マスクなどは高圧蒸気滅菌器で滅菌して廃棄しています。検査者がいない夜間及び早朝は検査室内全体のUV照射を行っています。

【本会での検査状況】

当日、ご紹介します。

【最後に】

猛威を振るっている新型コロナウイルスではありますが、適切な対処を行うことで職員の中から感染者を出すことなく業務を行うことができています。今後さらなる変異型の流行や全く新しい感染症がでてくる可能性はありますが、今回のようにその都度得られる情報を可能な限り集め、精査して情報共有し、迅速かつ適切な対策を取れるようにしていきたいと思っています。

演題2

SARS-CoV 2/PCR 検査の出検状況と陽性率について

株式会社 兵庫県臨床検査研究所

○井川瑛美、吉田弘之、橘美希、松本朋子、榎本健、寺尾ちえみ、森川友里加、
松本京佳、篠宮成香、松本春菜、藤江茂人、八木考洋、島田一彦

【はじめに】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は 2019 年 12 月以降中国湖北省武漢市を中心に発生し、瞬く間に世界中に感染が拡大し、人類を震撼させた。国内でも 2020 年当初から感染が確認され、県内では 3 月に初発症例が確認された。

COVID-19 を診断するためには、原因ウイルス（SARS-CoV2）を PCR 検査や抗原定量検査、抗原定性検査などで検出する方法がある。

当社では、顧客のニーズに応えるべく、BDマックス™全自動核酸抽出増幅検査システムを導入し、2020 年 4 月から SARS-CoV2/PCR 検査を稼働した。

この度、2020 年 6 月から 1 年間の検査状況を県内の感染状況と比較し、検討を行ったので報告する。

【対象および方法】

当社遺伝子検査室に 2020 年 6 月 1 日から 2021 年 5 月 31 日までの期間に臨床検体として提出された鼻咽頭ぬぐい液および唾液 29800 件を材料として用い、リアルタイム RT-PCR を実施した。比較対象として同一時期の兵庫県下の PCR 検査 448561 件を抽出し、月毎に検査件数、陽性数、陽性率を計算し、COVID-19 の状況を比較した。

【結果】

表 1：陽性率（％）

	兵庫県	兵庫臨床
6月	0.23	0.00
7月	4.40	1.76
8月	5.85	2.90
9月	3.66	1.66
10月	4.37	1.88
11月	8.52	5.00
12月	10.00	5.82
1月	10.29	5.16
2月	3.33	1.49
3月	4.26	3.38
4月	13.64	7.88
5月	10.38	4.81

兵庫県下での陽性率は 2021 年 4 月が最も高く、13.64% となり、当社も同じ傾向で 7.88%と調査期間中最も高かった。

検査数および陽性数の推移は、緊急事態宣言発令によって変化し、発令後に減少していき、解除後に増加する傾向が見られた。

【考察】

今回の比較検討では、検査数の増減の傾向、陽性率の変動ともに当社と兵庫県で平行な経過をたどった。この傾向は国内ともほぼ同様で、COVID-19 が日本中に蔓延していることを示唆している。当社の陽性率が兵庫県よりも若干低い理由として、当社は姫路市内を営業拠点としており、県下で感染者が多い阪神地区との地域差があったものと考えられる。

【まとめ】

SARS-CoV 2/PCR 検査は感度特異度ともに優れており、COVID-19 の診断には他の検査法に比べて信頼度の高いものと思われる。しかし、SARS-CoV 2 の取り扱いおよび PCR 検査実施に関しては設備の構築や技術習得にハードルが高いものがある。実施困難な医療機関の支援として、今後も信頼性の高い PCR 検査を継続していき、COVID-19 の診断に寄与していきたいと思う。

演題3

新型コロナウイルス抗体検査について

一般社団法人 姫路市医師会

〇不二 健太、溝上 妃都美、城谷 忠伸、陰山 友希、内川 昭文

【背景・目的】

現在、新型コロナウイルスのワクチン接種が進む中で、抗体検査は治療経過の指標、大規模な疫学調査、ワクチン接種後の抗体産生の有無の検査として役立つことが期待されている。今回我々は SARS-CoV-2 抗体を検出する自動分析装置を用いて、いくつか検討を行ったので報告する。

【検査方法】

今回の検討で使用した測定機器はオーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社の「VITROS ECiQ」である。試薬は IgG・IgM・IgA を検出する「ビトロス SARS-CoV-2 Total 抗体試薬」(以下 Total 試薬)、IgG のみを検出する「ビトロス SARS-CoV-2 IgG 抗体試薬」(以下 IgG 試薬)で SARS-CoV-2 ウイルスの重要な抗原であるスパイク S1 タンパクを標的としている。

検討内容としては、測定機器の基礎的検討(①共存物質の影響、②同時再現性、③日差再現性)と④本会職員 21 名のワクチン接種前後での抗体価の推移である。



【結果】

- ①共存物質の影響：溶血、乳び、抱合型ビリルビンおよび遊離ビリルビンの普段業務に関係する濃度範囲では測定値への影響は見られなかった。
- ②同時再現性：陽性濃度域で CV は 2.4～3.9%
- ③日差再現性：陽性濃度域で CV は 3.1～5.7%
- ④抗体価の推移：当日スライドにて紹介する。

【考察・まとめ】

新型コロナウイルス抗体検査に関して、現状として未だに明確なエビデンスが得られていない。

今後、抗体検査に関してのエビデンスが確立し、より有用な検査となることを期待する。

演題4

当院におけるコロナ感染対策

医療法人公仁会 姫路中央病院 検査部¹⁾ 看護部²⁾○森 隆¹⁾ 菊口 圭介¹⁾ 中野幸子²⁾ 中藤恵美²⁾

【はじめに】

2020年1月15日国内最初の症例が発生してから、感染は増加拡大し、水際対策だったものが市中感染して爆発的感染状況に陥り、第1波から現在第4派まで到来している。

今回、院内クラスターを経験してから現在に至るまでの感染対策について紹介する。

【感染対策の変遷】

当院では、2020年2月28日より発熱者の導線を分けて診察を行う発熱者外来を開始した。当初は病院内で行っていたが、その後完全に導線を分け院内に発熱者を入れないよう敷地内にテントを建て野外で行った。しかし、テントでの環境整備などに問題があるため、現在ではコンテナ型の診察室で発熱外来を行っている。発熱外来は携わるスタッフを絞って対応を行ってきた。また発熱外来を開始したと同時に、週一回以上感染対策チームでミーティングをし、情報共有・対策方針を話し合っている。

入院患者の面会を原則禁止とし、出来るだけ一般人を病院内に入館させない事を心かけた。このような水際対策を行ってきたが、院内クラスターが発生してしまった。

クラスター発生後、院内に発熱者を入れないことを徹底して、2つあった病院入口を正面玄関のみとした。来院者全員に検温と手指消毒を義務化した。徹底を図るため職員を入口に配置し来院者への声掛けを行っている。引き続き入院患者の面会は原則禁止とし、入退院時の病棟への付き添いも禁止、入院中の荷物の受け渡しを1Fロビーで行い、患者家族への説明などは電話や1F面談室など病棟以外で行っている。面会希望者には、院内Wi-Fiを整備しすべてリモートでの面会を実施している。入院時には、全患者に対してCOVID-19抗原定性検査にてスクリーニングを実施している。

外来では診察待ちの密を避けるため再来受付機や椅子などのレイアウトを変えた。椅子の間隔を開け、その間にアクリル板のシールドを立てて感染対策を徹底した。また付き添いの方を1名に限定して入館者数を減らし、密を避ける対策を実施している。

職員への感染対策としては、基本的にマスク・シールド等PPE装着の徹底、手指消毒の徹底、食事や休憩中の密を避けて、黙食の徹底を呼び掛けた。院内クラスター以前からプライベートの行動自粛や体調管理シートの記録を行っている。

検査室では、日頃から実施している標準予防策の再確認と徹底を行った。様々な感染対策を行っていく中、抗原検査・PCR検査数が激増し検査室の業務が増えたため、当初からCOVID-19に対応するスタッフは制限していたが、現在ではすべての臨床検査技師で対応している。

当院はPCR検査を外部委託しており、院内で実施していない。COVID-19のスクリーニングには抗原定性検査を実施している。当初からPCRと抗原定性検査の乖離について多く意見が出ている。当院でPCR検査と抗原検査を同時に行った160件についてデータを示す。

全体一致率：151/160=94.4%

陰性一致率：120/121=99.2%

陽性一致率：31/39=79.5%

陽性一致率は79.5%となっており、その点をよく認識した上で、抗原検査にてスクリーニングを行っている。

【おわりに】

当院は院内クラスターが発生し、病院閉鎖を経験した。その時、保健所をはじめ近隣の医療施設の方々に多大なる援助をして頂いた。

また院内では業種の垣根を越えて、連絡や話し合いなど行い、協力することで病院を1ヶ月で再開する事が出来た。その後も近隣の医療機関や院内内部署間と引き続き協力し合い、感染対策を構築することが出来た。

今後も変異ウイルスが増加して状況が変化していく中で、最新情報を多業種間でアップデートしながら協力し合っていきたい。

演題5

新型コロナウイルス感染対策に関するアンケート調査報告

兵庫県臨床検査技師会 西播地区 地区委員¹⁾ 連絡員²⁾ 理事³⁾
姫路赤十字病院 検査技術部⁴⁾

○佐竹 郁哉¹⁾ 大石 博一⁴⁾ 青木 里奈¹⁾ 土手 綾子¹⁾ 藤田 宜子¹⁾
竹内 一馬²⁾ 住ノ江 功夫²⁾ 坂本 慎一²⁾ 菊口 圭介³⁾

【はじめに】

2020（令和2）年春から発生した新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が未だ継続しており、本邦においても医療体制の逼迫が危惧されている。臨床検査技師の日常業務でも、PCR検査の導入・感染対策による影響はとても大きなものかと思われる。新型コロナウイルス感染症における各施設の現状と課題の集約、情報等の共有を目的にアンケート調査を実施したので報告する。

【調査方法】

調査対象は西播地区連絡者会議に参加している施設とした。回答期間を2021年5/25～6/6とし、Googleフォームを使用しWEB上でアンケートを実施した。主な調査内容として、施設対応・細菌検査関連・検体検査関連・生体検査関連に分類し、全45問（選択式または記述式）とした。

【結果】

回答数は18施設（質問により回答数は異なる）。

- ① 施設対応：施設規模（病床数）は、100～299床（8施設：44%）、300床以上（6施設：33%）、1～99床（2施設：11%）、0床（1施設：6%）、検査センター（1施設：6%）であった。そのうち新型コロナウイルス患者を受け入れている施設は10施設（59%）であった。検体採取に関しては、医師・看護師・検査技師が中心となって実施していた。対象者については、多数の施設が全入院患者・救急患者・術前患者など幅広い範囲の患者に対して実施しており、一部の施設では一般職員（体調不良時）・希望者・陰性証明を必要とする者などへも検査対応をしていた。「流行前と比較して検査全体のパフォーマンスの変化はありましたか」の質問に対して、多くの施設では緊急事態宣言や感染拡大の影響が検査実施数が減少しており、一部の施設では結果報告の遅延や患者サービスの低下も見受けられた。
- ② 細菌検査関連：新型コロナウイルスの検査体制として、PCR法による遺伝子検査を実施している施設は11施設（65%）、その他の遺伝子検査は6施設（35%）と多くの施設で遺伝子検査を実施していた。また抗原検査（簡易キット）を採用している施設は8施設（47%）あり、遺伝子検査・抗原検査の両方実施施設では、「スクリーニングとして抗原検査を使用する」「臨床側の判断に委ねる」「時間内はPCR検査を実施し、時間外は抗原検査をする」など使い分けは様々であった。検体を採取する部位に関しては、鼻咽頭ぬぐい液・唾液を主に採取し検査を実施しており、使い分けとして、外部委託・術前や入院前スクリーニングでは唾液で検査を実施し、有症者や救急外来患者などは鼻咽頭ぬぐい液で実施していた。検査体制としては、土日・休日・夜間ともに12施設（67%）で検査対応しており、その

うち9施設（56%）では当直者が当直業務をしながら対応していた。また感染対策・PCR検査導入など日常業務にも負担の増加が想像されるが、15施設（83%）ではスタッフの補充はなく現状の人員で検査を行っていた。

- ③ 検体検査関連：検体検査に関しては新型コロナウイルス陽性患者であれ、通常患者同様検査をしているが、半数程度の施設では配慮して検査を行っていた。内容としては、「採血管をアルコール消毒する」「新型コロナウイルス陽性または疑い患者の検体は区別できるようにシールを貼り、検査後はビニール袋に包装し通常検体とは別で保管している」などであった。また血液塗抹標本作成時は、ほとんどの施設が通常同様に作成しており、特別な配慮をしていない現状であった。
- ④ 生体検査関連：生体検査での个人防护としては、マスク・フェイスシールドまたはゴーグル（メガネなども含む）・手袋を使用しており、肺機能検査など感染リスクの高い検査では、簡易陰圧テント・サーキュレーターなどを導入している施設も見受けられた。心電図検査の電極に関しては、9施設（60%）でリユーズブル電極（吸盤タイプ）を使用しており、その内4施設（27%）で装着部または電極のアルコール消毒を実施していた。生理検査で使用するベッドの衛生管理では、7施設（44%）では極力患者ごとに消毒する努力していたが、9施設（56%）では患者ごとに衛生はされていなかった。新型コロナウイルス陽性患者への生理検査対応として、陽性患者を受け入れている10施設中4施設（40%）で検査技師がポータブルで対応しており、検査項目として多かったのは心臓超音波検査・血管超音波検査・心電図検査・腹部超音波検査の順であった。他の回答は発表時に報告する。

【考察および結語】

新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、陽性患者との接触をゼロにすることは難しくなっており、濃厚接触者をいかに減らすか・クラスター発生をいかに防ぐかが重要になってきている。また日常業務に加え、PCR検査導入・感染対策により負担が増大している現状もある。西播地区施設の現状を把握・共有することで地域における感染者・クラスターの減少また検査技師の負担・感染リスクの軽減にも貢献できれば幸いである。最後に本調査にご協力いただいた多くの施設の皆様に心より感謝いたします。

演題6

当院における TQM 活動について～エコー室の患者待ち時間減少を目指して～

姫路赤十字病院 検査技術部

○大西 由希子、簗田 直樹、水田 裕一、丸田 穂、岩佐 恵梨花、佐竹 郁哉、高原 美樹
田渕 裕子、佐藤 寛子、左古田 悦子、松崎 俊樹、住ノ江 功夫、山本 繁秀

【はじめに】

TQM (Total Quality Management) とは、全員・全体で医療・サービスの質を継続的に向上させることを意味する。当院では毎年度、各病棟や部署から TQM 活動を募集し、中間発表や最終報告会を行っている。生体検査課では 2020 年度の TQM 活動として、エコー室の患者待ち時間減少を目的とした活動を行った。

【目的】

当院のエコー室では、待ち時間が長いことに対する苦情がしばしばある。今回の活動ではこの現状を改善し、患者満足度の向上と業務の効率化に繋げることを目的とした。

【活動内容】

(1) 要因分析

待ち時間減少を目指した活動を行うにあたって、生体検査課スタッフから意見を集め、「待ち時間増加・苦情発生」に関する特性要因図を作成した。図の中で重要な要因を絞り込んだ結果、以下の要因が挙げられた。

- ① 予約外オーダー数に上限がない
- ② 予約外検査の患者が同じ時間帯に集中する
- ③ 予約枠が少ない
- ④ エコー技師の不足
- ⑤ 症例の難易度によって時間がかかる

我々は上記の中で、TQM 活動で着手可能であるものは①～③の予約関連の要因と考え、さらに分析を行った。

当院の生体検査課における予約外検査とは、「当日緊急」としてオーダーされる検査であり、以下のような場合にオーダーされる。

- ・緊急検査：症状がある等、至急検査をする必要がある場合
- ・紹介初診：他院から紹介され、当日診察時に検査の必要があると判断された場合
- ・再診：定期フォロー患者の希望日に予約枠が空いておらず、当日緊急で入れる場合

緊急検査以外は予約検査の合間に施行しており、数に上限がないことも加わり、患者の待ち時間は非常に長くなる傾向があった。特に再診のオーダーが大半を占めており、予約枠数が足りないことが推察された。そこで我々は、予約枠の見直し待ち時間減少に繋がると考えた。

(2) 現状把握

現状の検査オーダー数は、診療科ごとの外来日により曜日の偏りがあった。我々はこの曜日ごとの偏りを均等化できれば業務効率が上がると思った。そこで、実際の検査数を把握するため、1日の平均件数と時間帯ごとの実施数、患者待ち時間について調査した。

新型コロナウイルス感染症流行による影響を避けるため、調査には 2019 年度のデータを用いた。

- ・1年間における検査部位ごとの1日平均件数：腹部 39.8 件、体表 18.5 件、静脈 11.6 件、胎児 3.3 件、成人心臓 29.0 件、小児心臓 9.5 件、動脈 5.0 件であった。

- ・時間帯ごとの実施数：混雑しやすい（予約外患者が集中して受付することの多い）時間帯は午前 10 時～12 時頃であった。

- ・現状の患者待ち時間：検査受付～検査開始までの時間を 2 週間調査した。第 1 超音波室（腹部・体表・静脈）では 30 分未満：66%、30 分～1 時間：15%、1～2 時間：16%、2 時間以上：3%、第 2 超音波室（心臓・動脈）では 30 分未満：73%、30 分～1 時間：19%、1～2 時間：8%であった。

(3) 予約枠の見直し・新予約枠の設定

(2)で調査した1日平均件数をもとに、その8割程度の数を目安とし、腹部：32 枠、体表：15 枠、静脈：9 枠、胎児：4 枠、成人心臓：25 枠、小児心臓：7 枠、動脈：3 枠として予約枠の設定を行った。

残りの2割の枠として、「準緊急枠」という新しい枠を設定した。準緊急枠は前週の初め～当日までオーダーすることが可能であり、当日追加検査や、近日中に治療前、手術前等の検査を行う必要がある時に利用するための枠である。時間指定枠ではないため予約の合間に施行することになるが、枠数に上限を設け、(2)で調査した混雑時間帯の予約枠数を少なくすることで、待ち時間を短縮できると考えた。この枠は腹部：8 件、体表：4 件、静脈：3 件、成人心臓：4 件、小児心臓：3 件とした。

これまでの予約外検査は廃止とし、症状等の緊急性がある場合のみ、緊急検査として対応することとした。

以上より、予約枠数やシステムの調整を行った。そして予約枠変更時期は、すでにオーダーされている月毎の件数を調査し、2021 年 10 月に決定した。

(4) 臨床への周知

今回の予約枠変更には臨床側の協力が必須であり、我々は三役会（院長・副院長）、病院管理会議、業務連絡会議、その他関係部署に説明を行った。2021 年 10 月より予約枠を変更する旨と準緊急枠についての説明を行い、可能な限り時間指定の予約枠を利用して当日緊急を減らしてもらうことを依頼した。

【今後の課題】

現時点で 2021 年 10 月以降の予約枠は新予約枠に変更されている。説明時に医師らには周知を依頼しているが、新システムが完全に浸透されるかは未知数である。検査室側で予測や予防をすることは難しいため、その都度説明を行い、理解を得ることが必要である。

2021 年 10 月の予約枠変更後、運用が安定した頃（2022 年 1 月を予定）に再度 2 週間の待ち時間調査を行う予定である。検査室をはじめ病院全体で協力し、患者・スタッフ両者にとってより良い検査環境を作っていきたい。

演題 7

胸水中に出現した LE 細胞が SLE 診断の一助となった症例

公立宍粟総合病院

○長井美和 岸本衣里 阪本哲生

【はじめに】

LE 細胞は、一般的には生体外で起こる現象で、ごくまれに SLE 患者の胸水・腹水・心嚢液中などで見られることがある。

LE 細胞の検出は SLE の診断に有力な指標となるが、他に RA・強皮症・混合性結合組織病などの膠原病や、ルポイド肝炎、シェーグレン症候群などでも陽性となる。また、SLE は 20～40 代の女性に好発し、多彩な臨床症状を示すため、診断には適切な検査が必要となる。

今回、胸水中の LE 細胞を確認したことが SLE の診断に繋がり、専門医へ紹介となった症例を経験したので報告する。

【症例】

患者：70 代女性

主訴：微熱，右胸水貯留

現病歴：関節リウマチ

整形外科にて関節リウマチでフォロー中。胸部 X 線撮影で右胸水貯留、CRP 上昇があり、精査加療目的で当院に紹介となる。

【経過及び検査所見】

胸膜炎疑いで抗生剤投与後、炎症の改善が見られたが、入院 11 日目の CT で胸水が増加し、炎症再悪化。悪性の可能性も考慮し、翌日胸水穿刺施行となった。

塗抹標本の May-Giemsa 染色の鏡検で、多数の好中球やリンパ球などの炎症細胞と一緒に、均質構造物を貪食した好中球が多数見られ、この貪食細胞は、LE 細胞であることが判明し、臨床へ報告した。

さらに 1 週間後、胸水の貯留が見られ、胸水穿刺が再度施行された。数は減少していたが、この時も LE 細胞を認めた。胸水穿刺と同時に自己抗体検査も行われ、抗核抗体 1280 倍 (Homogeneous, Speckled)、抗 DNA 抗体 24.0IU/mL、抗 ds-DNA 抗体 291IU/mL の結果より、SLE の診断となった。

【まとめ】

自己免疫疾患において、現在では種々の自己抗体の測定が、高感度で比較的容易に実施できるが、疾患を疑い検査を選択しなければ、診断には至らない。

今回、胸水中の LE 細胞の確認が SLE を疑う一助となった症例を経験した。

また、穿刺液検査において、細胞数や細胞分類を自動分析装置で測定できるようになってきたが、鏡検による確認の必要性を再認識する症例となった。

演題8

超音波内視鏡ガイド下穿刺吸引（EUS-FNA）検体で膵腺扁平上皮癌が疑われた一例

独立行政法人 国立病院機構 姫路医療センター

○吉見 舞子、山田 寛、森宗 奈都姫、田原 奈々子、李 尚根、福田 美智子、
若林 和彦、芥川 和彦、山中 清史、安松 良子、河合 潤

【はじめに】

膵腺扁平上皮癌は、膵癌取り扱い規約（第7版）において、腺癌成分と扁平上皮癌成分が隣接あるいは混在してみられ、扁平上皮癌成分が腫瘍全体の30%以上見られるものと定義されている。また、扁平上皮癌成分のみ認められる場合も腺扁平上皮癌として分類される。その頻度は、膵臓の悪性外分泌腫瘍の1~4%と報告されており、稀な組織型である。今回、我々は超音波内視鏡下穿刺吸引（以下、EUS-FNA）検体で腺扁平上皮癌が疑われた症例を経験したので報告する。

【症例】60歳代女性。2ヶ月続く食欲不振と、急激な体重減少が見られたため近医を受診したところ、上部内視鏡にて胃体中部後壁に粘膜下腫瘍様隆起を伴う潰瘍性病変を指摘され、当院紹介となった。近医での上部内視鏡生検では、扁平上皮癌が否定できないとの結果であったが、確定診断には至らなかった。当院CTでは膵尾部に不整形腫瘍を認め、精査の為EUS-FNAが施行された。

【細胞所見】奇怪な形状の異型細胞が散在性~小集塊状で多数見られ、二核や多核細胞も散見された。異型細胞の大部分は、核中心性でオレンジGやライトグリーン好性の細胞質を有しており、扁平上皮癌が疑われる所見であった。しかし、一部に核が偏在し明瞭な核小体を有する異型細胞を認め、腺癌が疑われる所見も混在していた。

【組織所見】異型を伴う上皮細胞が小集塊を形成し、一部には細胞間橋様構造が見られた。背景には、血液に混じって多角形の無構造物を多数認める。免疫染色では、異型細胞の一部はCK7、CEA、CA19-9、p40、p63、CK5/6、348E12に陽性を示し、腺上皮と扁平上皮の両方の性質をもつ細胞であることが示唆された。また一部には、CK7、CEA、CA19-9陽性、p40、p63、CK5/6、348E12陰性の腺上皮へ分化した異型細胞や、p40、p63、CK5/6、348E12陽性、CK7、CEA、CA19-9陰性の扁平上皮へ分化した異型細胞を認め、種々の性質を示す細胞が混在していると考えられた。また、無構造物は扁平上皮由来で角化物に相当すると考えられた。

【まとめ】

今回のEUS-FNA検体では、細胞の大部分が扁平上皮癌成分であったため、診断に苦慮することはなかったが、扁平上皮癌成分が少ない場合には見落としに注意が必要である。また、膵腺扁平上皮癌は通常型の浸潤性膵管癌よりも予後不良とされているため、扁平上皮癌成分が認められる場合には所見に付記することが重要であると考ええる。

演題9

複数要員で行う病理業務での意識向上
—兵庫県臨床検査研究所病理（HPL）での取り組み—

（株）兵庫県臨床検査研究所

○大塚もも 山口樹生 稲田真帆 清水春香 森井雅敏 森川智未 榎唯 後藤真希
廣尾真奈 田中ひとみ 三浦香奈 岩崎さや香 岩崎美和子 小林真 川嶋雅也

【はじめに】

2019年、第25回兵庫県医学検査学会・第37回西播地区研究発表会で当検査室・岩崎が「検体取り違えをどう防ぐか—兵庫県臨床検査研究所病理（HPL）での取り組み—」を報告した。今回は、大量のブロックを多数の検査技師で薄切することで起きる問題点の改善を行った。

また、当検査室は多数の検体を複数の要員で処理を行っている。日本臨床検査技師会が推奨しているタスクシフティングを取り入れ、医師の業務負担軽減を行い、ヒューマンエラーを防ぐことに努めているので報告する。

【病理組織検査の流れ】

1. 検体採取・固定
2. 検体受付、組織番号付け
3. 検体処理・切り出し
4. 包埋
5. 薄切
6. 染色・封入
7. 診断・報告書作成

HPLでは2～7の過程を行っている。5の薄切時は7名の検査技師が薄切を行っている。

【薄切時の問題点】

- 1 日平均 250 ブロックを 7 名の検査技師が薄切し、これ以外に免疫染色・特殊染色、陽性対照の薄切などが 30 ブロック程度ある。

当検査室内で、このブロックを誰が薄切したか、特定することが出来ていなかった。

【改善】

市販のデジタルカメラを購入し、薄切を行った検査技師の名札とブロックを並べ撮影することにした。

【デジタルカメラの効果】

1. 検査員の意識が高まった
撮影されることにより、意識して安全な薄切処理を行うようになった。
2. 「価格」「画質」「使いやすさ」
検体処理の適正を保証する手段として、コストも安く、手技も簡便で有用である。
3. 事故処理に役立つ
万が一の時には原因究明の一助となると考える。

【当検査室に置けるタスクシフティングの取組】

1. 病理組織検査報告書及び細胞診検査報告書を検査技師が W チェックを実施。
2. 細胞診での疑陽性以上の症例について検査技師(CT)が所見の下書きを実施。
3. 分子標的薬時の検査、画像報告書の下書き及び報告書の確認。

【当検査室におけるタスクシフティング効果】

1. 報告書の誤字・脱字以外に、臨床所見と病理所見との不一致を確認。
2. 細胞診での疑陽性以上は、医師・検査技師（CT）での W チェックによる精度向上。
3. 病理専門医の業務負担軽減。

【まとめ】

大量の病理検体処理を行う施設においては、1 名完結型検査体制を作るのは不可能である。医師・検査技師を含めた数名の要員で業務にあたるので、ヒューマンエラーが出来る要素が多く潜んでいる。今回、デジタルカメラを導入することで新たな改善効果が見られた。また、タスクシフティングを取組むことで、医師の業務軽減だけではなく、検査技師の技量向上が必要になると考える。そうする事でヒューマンエラーを防ぐ効果がより高くなる。

患者様のために、信頼される先生の検査室としての責任を果たしていく所存である。

演題 10

EUS・B-FNAにて診断されたhCG産生縦隔型肺癌の一例

独立行政法人 国立病院機構 姫路医療センター 臨床検査科1) 同 呼吸器内科2)

○山田 寛1)、森宗 奈都姫1)、吉見 舞子1)、李 尚根1)、若林 和彦1)、
芥川 和彦1)、山中 清史1)、安松 良子1)、河合 潤1)、平岡 亮太2)

【はじめに】

ヒト絨毛性ゴナドトロピン (human chorionic gonadotropin:hCG) は、本来絨毛性組織で産生、分泌されるため、絨毛性疾患では血中や尿中 hCG の高値を認めることが多い。しかし、一部の癌腫においても hCG が産生され、血中や尿中濃度が上昇することが知られている。今回、我々は超音波内視鏡下経食道針吸引生検 (EUS・B-FNA) にて hCG 産生縦隔型肺癌と診断された症例を経験したので報告する。

【考察】

hCG 産生縦隔型肺癌は非常に稀な予後不良の腫瘍で、早期発見が困難なため進行癌として発見されることが多い。また、末梢肺の縦隔側に存在するため組織診断が困難であり、様々な癌腫や肉腫との鑑別が必要である。血中や尿中 hCG 上昇が見られた場合、異所性 hCG 産生腫瘍を念頭に置き、多種類の免疫組織化学染色を実施し、総合的に判断することが重要である。

【症例】

50 歳代女性。2021 年 3 月上旬より嚥下困難、労作時喘鳴が出現し、近医を受診。胸部 X 線にて右肺門部異常影が認められ、検査治療目的に本院紹介となった。胸部 CT にて気管分岐部に気管支と食道を圧排する腫瘤影が認められ、悪性腫瘍が疑われたため、2021 年 3 月下旬に EUS・B-FNA を施行、同時に迅速細胞診 (rapid on-site cytologic evaluation:ROSE) も実施した。また、2021 年 4 月中旬、食道切歯 31~35cm に中央に潰瘍を伴う隆起性病変が認められたため、上部消化管内視鏡検査が施行された。

【細胞所見】

多数の赤血球を背景に核の腫大、増量したクロマチン、明瞭な核小体を有する異型細胞が散在性や集塊で多数認められ、大型で、二核や多核細胞も散見された。核は中心からやや偏在、顆粒状から粗顆粒状のクロマチンを有しており悪性が疑われたが、非常に低分化で紡錘形の細胞も見られたことから組織型の断定は困難であった。

【組織所見】

大型異型核を持つ多形性や紡錘形細胞が増殖し、多核細胞も混在していた。免疫組織化学染色において、CytokeratinAE1/AE3、CAM5.2、Vimentin、hCG 陽性、TTF-1、NapsinA、p40、LCA、AFP、PLAP、SALL4、Oct3/4、HPL、Glypican3 陰性であることから hCG 産生縦隔型肺癌と診断された。PD-L1 (22C3) は 95%であり、高発現であった。また、食道生検の組織検体においても、同様の所見が見られたことから、hCG 産生縦隔型肺癌の浸潤が示唆された。

第7回理事会議事録

開催日：令和3年1月9日（土）

時 間：10：00～12：08

場 所：ZoomによるWeb会議

出 席：真田、松田、佐藤、竹川、狩野、大崎、
安部、藤原、井関、藤田、湊、森、菊口、
千田、矢野、南、中町参与、東塚監事、
笠舞監事

欠席者：綿貫、澁谷、池本、住ノ江

- ・理事16名の出席により会議は有効裡に開催された（現在の理事数20名）。
- ・なお、開催前に出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることを確認している。
- ・議事録署名人の選出：
真田浩一、東塚監事、笠舞監事を選出した。

議事録作成：南

議題

I 会長報告（報告者：真田会長）

【報告事項】

1. 日臨技近畿支部関連
なし。
2. 兵庫技関連
 - 1) 12月12日（土）糖尿病療養指導士兵庫県連合会Web理事会出席
 - 2) 12月20日（日）兵庫県プライマリ・ケア協議会令和2年度総会出席
 - 3) 12月29日（火）税理士法人 鳩合同会計事務所
代表社員税理士 飯塚敏勝先生と顔合わせ
 - 4) 1月7日（木）学術部会（Web）出席

【審議事項】

1. 経理顧問の変更について

今よりも幅広く法律や税金に関して相談に応じてくれる、鳩合同会計事務所に経理顧問を変更したいがどうか

→ 承認。次年度の予算編成も控えているので、出来るだけ早期に変更手続きを行う。

II 日臨技報告

【報告事項】

なし。

【審議事項】

なし。

III 業務執行報告

（報告者：松田副会長、佐藤副会長、

南事務局長、竹川経理部長）

業務執行理事による業務執行状況報告を行った。綿貫副会長は職務のため欠席。

IV. 部局報告と審議

＜事務局＞（報告者：南事務局長）

【報告事項】

1. 兵庫県放射線技師会より賀詞交歓会開催中止のお知らせ
2. 日臨技より都道府県技師会の理事会開催時における宮島議員の招聘について
3. 第7回医療と介護の総合展【大阪】についてのお知らせ
4. 兵庫県健康財団より令和3年度兵庫県健康財団がん研究奨励賞及び腎研究奨励賞に係る研究課題の募集について
5. 兵庫県健康財団より令和3年度兵庫県健康財団結核対策・研究奨励賞に係る課題の募集について
6. 4月9日「子宮頸がんを予防する日」集中キャンペーン寄附のお願いについて
→ 寄附は見送る
7. 日臨技より臨床検査技師の卒然教育の見直しに関する省令改正案のパブリックコメン

ト意見募集について

【参考URL】

「臨床検査技師学校養成所カリキュラム等
改善検討会」報告書

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_10734.html

8. 厚生労働省医政局医事課より、押印を求め
る手続きの見直し等のための厚生労働省関
係省令の一部を改正する省令の施行等につ
いて

9. 日臨技より、11月締め分の会費の送金につ
いて

【審議事項】

1. 公益法人検査の結果に対する改善状況報告
書について

→ 報告書の内容について承認。公文書と
して兵庫県の公益認定等委員会に送付
する。

2. 兵庫県に緊急事態宣言が発出した場合の事
務所の勤務体制について

→ 感染対策を徹底し通常勤務を続ける。
感染状況が変われば再度検討する。

＜総務部＞（報告者：池本総務部長）

【報告事項】

1. 会員数（月末集計）

令和2年度（2021）							
	会員数	会員数内訳			年会費入金内訳		
		継続	新規	兵臨技のみ	入金済 (うち送金待)	免除	未入金
令和元年度	2296						
10月	2346	2190	156	177	2293 (2)	25	28
11月	2350	2190	160	176	2298 (2)	25	27
12月	2350	2185	165	176	2295 (0)	28	27

	施設数			会員数		
	10月	11月	12月	10月	11月	12月
神戸地区	128	127	127	914	915	912 ↓
阪神地区	65	66	66	489	491	492 ↑
丹担地区	14	14	14	98	98	99 ↑
東播地区	50	50	50	438	438	439 ↑
西播地区	46	46	46	391	391	392 ↑
その他	0	0	0	16	17	16 ↓
合計	303	303	303	2346	2350	2350

【審議事項】

1. 入会、退会

1) 賛助会員入会：なし

2) 賛助会員退会：(株)堀場製作所

3) 会員入会：10月5名、11月4名、12月5名

4) 会員退会：10月7名、11月1名、12月4名

→ 承認

＜経理部＞（報告者：竹川経理部長）

【報告事項】

1. 予算管理月報について 12月末日

2. G表について 12月末日

3. 広告状況について 12月末日

【審議事項】

1. 令和3年度予算編成会議について

（Web開催）

臨時総会を3月20日（土）に開催する方向で
調整。2月13日に理事会を開催して議案書
と予算案の決をとり、総会の1か月前の2月
20日までにHPにUP出来るようにする。そ
のためには1月25日～29日の間で予算編成
会議を開催する必要がある。

→ 事前に資料を準備しWebで開催する。

日程は後日調整する。

＜渉外部＞（報告者：安部渉外部長）

【報告事項】

1. コロナウイルス禍、会員施設状況把握アン
ケートについて

令和3年2月に実施予定。2次元バーコード
のドット欠けを考慮して同期間兵臨技HP
にも掲載する（URLも掲載）。

2. 災害医療関係の研修について

（1/25申込締切）

主催：兵庫県災害医療センター、神戸大学

共催：兵庫県医務課

【審議事項】

なし。

<組織部>

(報告者：大崎組織部長、森理事、
井関理事、菊口理事)

【報告事項】

1. 令和2年度 第2回西播地区 地区会議
(Zoom)
令和2年12月23日(水) 18:30～20:00
会議録(資料07-01①、資料07-01②)

【審議事項】

1. 令和2年度 東播地区施設責任者・連絡者
会議(Zoom)
令和3年2月20日(土) 10:00～11:30
・事前に各施設から質問事項を募集しておく。
→ 承認
2. 令和2年度 第2回丹但地区 地区会議
(Zoom)
令和3年2月27日(土) 16:00～
(丹但地区研修会終了後)
→ 承認

<広報部>(報告者：住ノ江広報部長)

【報告事項】

1. ホームページ(HP)への新規および更新掲載
・行事予定表の修正・承認の連絡
・他
2. 広報会議
・開催なし(2月合併号・HYOGOジャーナルのため1月頃を予定)
3. HP作業時間
住ノ江：1時間
新田： 1時間
渡邊： 0.5時間
4. HYOGO ジャーナル執筆依頼

【審議事項】

1. HYOGO ニュース1、2月合併号のカラー印刷開始について
→ 承認

<学術部>(報告者：藤原学術部長、真田会長)

【報告事項】

1. 第7回学術部会報告(Web形式)

【審議事項】

1. 精度管理報告会の開催について
(ZoomによるWeb開催)
令和3年2月28日(日) 14:00～17:00
・現状のZoom契約だと参加者の上限が100名なので、タイムスケジュールで部門を2つずつくらいに区切って参加者を募集し、出来るだけ多くの一般会員が参加できるように調整してはどうか。(松田副会長)
→ Zoomの契約で100名以上参加できるプランへの変更や、スポットでの契約が可能か検討する。(真田会長)
2. 資料作成費について
→ 新任の顧問に相談して今後の対応を決める。方向性が決まるまでの研修会については、内規に沿って運用する。
(真田会長)
3. 小林病理研究班長より、兵臨技サーベイで使用した写真の転用許可について
依頼者：兵庫細胞検査士会(鳥居会長)
転用先：細胞検査士会のカンファレンス
→ 承認

<精度管理事業部>

(報告者：狩野精度管理事業部長)

【報告事項】

1. 令和2年度(第40回)兵臨技精度管理調査について
 - 1) 精度管理費用の納金状況
(R2/10/31期限)
現在：参加138施設うち3施設未納。メールにて複数回催促に加え、電話にて催促も実施。
 - 2) C評価施設への通知開知
各研究班長を中心に、中町参与の全面的バックアップで実施中。

2. 令和2年度精度管理調査検討会

期日：令和3年3月13日（土）

15：00～17：00

会場：兵庫県医師会館 6階会議室

開催形式については、Web開催も提案したが、感染対策を実施した上で300人収容できる会場にて最大100人の制限を設けて現地開催することに決定した。人数制限をかけるため兵臨技からは案内しない。

3. 令和2年度精度管理調査検討会打合せ会におけるその他の協議内容

- 1) 精度管理調査のあり方について協議する
県医師会の窓口を依頼
- 2) 今後の検討課題として以下について提示された。
 - ① 衛生検査所を対象にブラインドサーベイの実施
 - ② JCCLSの共有基準範囲使用の推進
 - ③ ALP-IFCC、LD-IFCC、ALB-BCP改良法への変更推進但し、会議に参加している臨床検査技師としての提案であるので県医師会の意向かを確認（①については西宮市医師会理事からの提案）
- 3) 兵臨技はクリニックなどへの精度管理調査の拡大を検討中

【審議事項】

1. ブラインドサーベイの実施について
県医師会で協議中。今後、要請があれば兵臨技として前向きに対応していく方向性で良いか。
→ 正式に要請が来たら再度審議する。
2. 兵臨技としてALPとLDはIFCC法、ALBはBCP改良法への変更を強く推奨してはどうか。
→ 承認。兵臨技としても推奨すべき案件なので、文面を作成し2月の理事会で承認後、会員に向けてアナウンスする。

<公益事業部>（報告者：澁谷公益事業部長）

【報告事項】

1. 令和2年度 検査セミナー

開催日：令和2年12月5日（土）

14：00～16：00

開催場所：兵庫県民会館 パルテホール

内 容：“がん診療における循環器合併症”
～より長期の生存のために～
事業報告書（資料11-01①、資料11-01②）

【審議事項】

なし。

●次回理事会

第8回理事会（Web開催）

令和3年2月13日（土）10：00～

第9回理事会（Web開催）

令和3年3月13日（土）10：00～

●令和2年度臨時総会

令和3年3月20日（土）13：00～

第8回理事会議事録

開催日：令和3年2月13日（土）

時 間：10：00～11：45

場 所：ZoomによるWeb会議

出 席：真田、松田、佐藤、綿貫、大崎、竹川、
池本、狩野、住ノ江、安部、藤原、矢野、
井関、藤田、森、菊口、千田、南、湊、
中町参与、東塚監事、笠舞監事

欠席者：澁谷

- ・理事19名の出席により会議は有効裡に開催された（現在の理事数20名）。
- ・なお、開催前に出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることを確認している。

・議事録署名人の選出：

真田浩一、東塚監事、笠舞監事を選出した。

議事録作成：湊

議題

I 会長報告（報告者：真田会長）

【報告事項】

1. 日臨技近畿支部関連
なし。
2. 兵臨技関連
 - 1) 12月20日（日）兵庫県プライマリ・ケア協議会令和2年度総会
 - 2) 1月13日（水）子宮の日実行委員会（Web）出席
 - 3) 1月15日（金）第3回兵庫県合同輸血療法委員会（Web）出席
 - 4) 2月4日（木）学術部会（Web）出席

【審議事項】

1. 兵庫県合同輸血療法委員会関連
「輸血療法の実施に関する指針」一部改正等への対応としてリーフレットを作成し、血液センターホームページに掲載するため、当会ホームページにてリンクを貼り、啓蒙に協力を行いたい。
→ 輸血用血液製剤の温度管理について、参考資料の内容は、指針には明示されていないため、学術（輸血研究班）を中心にコンセンサスを図った上で啓蒙活動を進めていく。

II 日臨技報告（報告者：綿貫副会長）

【報告事項】

1. タスクシフティング業務啓発事業を各県で2月中に開催。
2. タスクシフティングに関する厚生労働省指定講習会（仮称）6月頃から各県で開催予定。座学はWeb研修会、講習会は実技中心で行う。実習時間は約7時間程度、1回開催人数

は30～50人程度、5年間で終了予定。全検査技師対象となる。詳細は後日発表。

3. 第70回日本医学検査学会、福岡開催の件、現地開催からWeb開催に変更。Web参加人数、前回69回では3,500人だったが、70回は5,000人目標とする。Web参加費用、会員は5,000円。会員に周知していただく。
4. 日臨技認定研修会、去年は全て中止となったが、今年度は日臨技Webシステムを用いたWeb研修会とする。

【審議事項】

なし。

III 業務執行報告

（報告者：松田副会長、佐藤副会長、綿貫副会長、南事務局長、竹川経理部長）

業務執行理事による業務執行状況報告を行った。

IV 部局報告と審議

＜事務局＞（報告者：南事務局長）

【報告事項】

1. 厚労省より、社会保障に係る国家資格の資格管理におけるマイナンバー制度の利活用について
2. 厚労省より、再生医療等提供計画等の記載要領等の改訂について
3. 厚労省より、「医療法の一部改正（臨床研究中核病院関係）の施行等について」の改正について
4. 厚労省より、緊急事態宣言に伴う感染予防の徹底について
5. 県医師会より、令和2年度精度管理調査検討会の開催について
→ 真田会長出席予定（3/13）
6. 笠舞監事の所属先変更について
→ 4月より、現在の大阪暁明館病院から

神戸大学医学部附属病院栄養管理部に
変更

7. タスクシフティング等医療勤務環境改善推進事業の開催について

→ 2/13の理事会終了後に開催予定
(12:00～12:30)

8. 事務員の北川さんの退職について

→ 今年度契約終了時に退職を希望

9. 日臨技より、12月締め分の会費の送金について

10. 兵庫県プライマリ・ケア協議会より負担金
のお願い

→ 今年度も昨年同様30,000円の負担金を
送金する。

11. 日臨技より、令和3年度各賞受賞者決定に
ついて

12. 第70回日本医学検査学会のWeb開催への
変更の案内

→ 5/15(土)～6/14(月)
オンデマンド配信

13. 令和2年度健康ひょうご21県民運動に係る
参画団体取り組み状況の報告

14. 厚労省より、テレワーク等の徹底に係る周
知依頼について

15. 滋慶医療科学大学院大学より、2020年度学
位記授与式におけるメッセージの依頼につ
いて

→ 昨年同様に真田会長よりメッセージを
送る方向

16. 神戸市立医療センター中央市民病院の佐々
木さんより、超音波検査オープンカンファ
レンスの広報依頼について

→ 私的な研修会等の広報依頼は以前から
受けていないので、今回も兵臨技から
は広報しない。

【審議事項】

1. 令和2年度臨時総会議案書(案)について

→ 学術の事業内容にタスクシフティング

事業について追記 → 承認

2. 令和3年度公益財団法人兵庫県健康財団会
長表彰候補者の推薦について

→ 学術部に推薦依頼。昨年度は病理細胞
班長の山下展弘会員が受賞。

→ 学術部と事務局に一任する。決定した
のち次回理事会で報告する。

3. 令和2年度兵臨技功労賞・学術奨励賞選考
委員会開催日時について

→ 選考委員会の日程は調整する。候補者
の締め切りは2月末とする。

4. 自民党兵庫県連より、令和3年度兵庫県予
算編成に対する要望の回答と意見交換会の
案内について

→ 参加者は会長、副会長で調整の上Web
での参加とする。

<総務部>(報告者:池本総務部長)

【報告事項】

1. 会員数(月末集計)

令和2年度(2021)							
	会員数	会員数内訳			年会費入金内訳		
		継続	新規	兵臨技のみ	入金済(うち送金待)	免除	未入金
令和元年度	2296						
11月	2350	2190	160	176	2298(2)	25	27
12月	2350	2185	165	176	2295(0)	28	27
R3年1月	2345	2173	172	177	2285(0)	34	26

	施設数			会員数		
	11月	12月	R3年1月	11月	12月	R3年1月
神戸地区	127	127	128	915	912	907 ↓
阪神地区	66	66	66	491	492	491 ↓
丹波地区	14	14	14	98	99	98 ↓
東播地区	50	50	50	438	439	438 ↓
西播地区	46	46	46	391	392	393 ↑
その他	0	0	0	17	16	18 ↑
合計	303	303	304	2350	2350	2345 ↓

【審議事項】

1. 令和2年度臨時総会について

1) 令和2年度臨時総会案内(案)

案内発行日、議事録HP掲載日、「表彰式」
削除について

- 表彰式については削除し、表彰者は広報誌等を用いて掲示する。
- 議案書のHP掲載は2/19を期限として、決まり次第、案内発行日を調整する。

2) 令和2年度臨時総会タイムスケジュール(案)

担当者について

- 議長は東塚監事をお願いする。
 - 承認
- 現状を踏まえて最少人数で開催する。今後の課題としてはWebでの総会の開催が可能かどうか検討していく。

3) 令和2年度臨時総会議決権行使書及び出席表・委任状(案)

提出期限について

- 3/15を提出期限とする。

2. 入会、退会

- 1) 賛助会員入会：なし
- 2) 賛助会員退会：なし
- 3) 会員入会：11月4名、12月5名、1月9名
- 4) 会員退会：11月1名、12月4名、1月14名

<経理部> (報告者：竹川経理部長)

【報告事項】

1. 予算管理月報について 1月末日
2. G表について 1月末日
3. 広告状況について 1月末日

【審議事項】

1. 令和3年度予算案について
 - 差し替え資料にて承認

<渉外部> (報告者：安部渉外部長)

【報告事項】

1. 「災害関連等を防ぐための医療系の支援活動のあり方を考える研究」に伴う検査結果について
2. コロナウイルス禍、会員施設状況把握アンケート

中間報告 2021/2/11 午前0時現在

検査室長(検査室責任者)宛アンケート
(38施設)

臨床検査技師個人向けアンケート
(回答数242名 男性1：3女性)

【審議事項】

なし。

<組織部> (報告者：大崎組織部長、菊口理事)

【報告事項】

1. 東播地区施設責任者・連絡者会議の質問募集の経過について
- 2/12(金)まで質問事項は上がっていない。

【審議事項】

1. 令和2年度 阪神・神戸地区合同施設責任者・連絡者会議 (Zoom)
令和3年3月10日(水) 18：00～19：00
事業計画書(資料07-01)、予算案(資料07-02) 承認
2. 令和2年度 第1回西播地区施設責任者・連絡者会議 (Zoom)
令和3年3月17日(水) 18：30～20：00
事業計画案(資料07-03)、予算案(資料07-04) 承認
3. 令和3年度 第12回西播地区研修会 (Zoom)
令和3年4月25日(日) 10：00～12：30
事業計画案(資料07-05)、予算案(資料07-06) 承認

<広報部> (報告者：住ノ江広報部長)

【報告事項】

1. ホームページ(HP)への新規および更新掲載
 - 1) 求人情報のページ修正
 - 2) 行事予定表の調整
 - 3) お知らせの掲載
2. 広報会議
開催なし。
3. HP作業時間
住ノ江：3時間
新田： 3時間
渡邊： 2時間

4. HYOGO JOURNALの進捗

1) 2月3日(水)校了

2月12日(金)納品(2,400部+20部おまけ)、事務所にて発送作業

2月19日(金)事務所から発送予定(遅れる予定)

2) 支払い金額(税抜き)

720,000円

→ 当初予定金額は816,000円(減額理由は昨年号に比してページ数134から94に減少し、単価が340円から300円に減額したため)

【審議事項】

なし。

<学術部>(報告者:藤原学術部長)

【報告事項】

1. 第8回 学術部会(Web形式)開催した。

2月に一般・生理・微生物・遺伝子血液合同研修会を開催して今年度の事業は全て終了。

2. 精度管理報告会の申し込み状況(2/12 13時現在で30名):締め切り20日

【審議事項】

1. 血液研究班の中村班長が任期途中であるが班長辞退の申し出があった。

班長の後継者:尼崎中央病院の神原雅巳氏
班長代行として神原氏に引継ぎ、中村氏は班員としてフォローは可能。

任期途中の交代について。

→ 承認

<精度管理事業部>

(報告者:狩野精度管理事業部長)

【報告事項】

1. 令和2年度(第40回)兵臨技精度管理調査について

1) 精度管理費用の納金状況

(2020/10/31期限)

2021/1/31現在:参加138施設納付完了

確認した。

2) C評価施設への通知開始

各研究班長を中心に、中町参与の全面的バックアップで実施中。

2. 令和2年度(第40回)兵臨技精度管理調査の解析、解析集の完了予定日は3月5日で、そこから参加施設へ送付予定。

3. JAMTQCの結果開示は3月1日の予定。

4. 令和2年度精度管理調査 医師会経費について。

【審議事項】

1. 令和2年度精度管理調査検討会打合せ会における協議内容の実施として

ALP-IFCC、LD-IFCC、ALB-BCP改良法への変更推奨案内文について

→ 承認。HP、メールおよび書面等を用いて会員および各施設への案内を行う。

<公益事業部>(報告者:澁谷公益事業部長)

【報告事項】

なし。

【審議事項】

なし。

●次回理事会

第9回理事会(Web開催)

令和3年3月13日(土)10:00~

●令和2年度臨時総会

令和3年3月20日(土)13:00~

第9回理事会議事録

開催日:令和3年3月13日(土)

時間:10:00~12:08

場所:ZoomによるWeb会議

出席:真田、松田、佐藤、竹川、狩野、大崎、安部、藤原、池本、住ノ江、井関、藤田、湊、菊口、千田、矢野、南、東塚監事、笠舞監事

欠席者：綿貫、澁谷、森、中町参与

- ・理事17名の出席により会議は有効裡に開催された(現在の理事数20名)。
- ・なお、開催前に出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることを確認している。
- ・議事録署名人の選出：
真田浩一、東塚監事、笠舞監事を選出した。

議事録作成：南

議題

I 会長報告(報告者：真田会長)

【報告事項】

1. 日臨技近畿支部関連
なし。
2. 兵臨技関連
 - 1) 2月20日(土)東播地区施設連絡者・責任者会議(Web)出席
 - 2) 2月28日(日)精度管理報告会(Web)出席
 - 3) 3月4日(木)学術部会(Web)出席
 - 4) 3月10日(水)神戸阪神地区施設連絡者・責任者会議(Web)出席
 - 5) 3月13日(土)精度管理調査検討会出席

【審議事項】

1. 次年度の理事会開催日について
綿貫副会長が土曜日に日臨技の会議があるため、理事会の日程を日曜日に出来ないか。
→ 継続審議とする。再度、綿貫副会長と相談し、土曜日の午後や日曜日開催も含めて日程調整する。また理事会の開催頻度についても今後検討する。
2. Zoomについて
ウェビナー500名28万円/年、ラージミーティング500名12万円/年、Zoom以外でネクプロウェビナー2,000名57万円/年などの契約

があるが、今後研修会などで活用するのにどの契約にするのがよいか。

- いずれも年間契約で金額が大きいので、学会など必要な時期に月間のスポット契約をするのはどうか。(竹川経理部長)
- 継続審議とする。経理と学術部とで協議する。

II 日臨技報告

【報告事項】

なし。

【審議事項】

なし。

III 業務執行報告

(報告者：松田副会長、佐藤副会長、
南事務局長、竹川経理部長)

業務執行理事による業務執行状況報告を行った。綿貫副会長は職務のため欠席。

IV 部局報告と審議

<事務局>(報告者：南事務局長)

【報告事項】

1. 自民党兵庫県連より、令和3年度兵庫県予算編成に対する要望の回答と意見交換会について
→ 真田会長Web参加予定(3/19 16:00)
2. 兵庫県理学療法士会より昨年度延期された学術大会の後援名義使用許可について
→ 昨年に理事会承認されているので、会長承認で返答済み
3. 令和2年度臨時総会議案書および開催案内について
→ HPにUP済み(2/17)
4. 日臨技より都道府県医学検査学会・都道府県研修会の開催状況調査について
→ 真田会長より回答済み
5. 日臨技より「新型コロナウイルス感染症

(COVID-19) 診療の手引き・第4.2版」の周知、および「大学等と自治体が連携した地域における検査体制の整備等」について

6. 愛知県臨床検査技師会より愛知県臨床検査標準化ガイドラインに対するパブリックコメントについて
7. 日臨技より、「都道府県施設連絡責任者等へのタスクシフティング啓発推進事業研修会」の日臨技役員招聘について
8. 兵庫県健康財団より令和3年度「健康マイプラン実践講座」実施について、および令和3年度健康ひょうご21県民運動地域実践活動助成金事業の実施について
9. 日臨技より、1月締め分の会費の送金、日臨技推進事業研修会、および臨床検査技師に対するタスクシフティング業務啓発事業助成金について
10. 日臨技より、「日臨技生涯教育研修制度」令和2年度事務処理について
11. 日臨技より、医療技術部門管理資格認定制度の受講について
→ HPにUP済み(3/12)
12. 日臨技より、入会申込書(写し)の送付廃止について
13. 神戸常盤大学より学位記授与式および入学式について
→ 卒業生・入学生および常盤大学専任教職員に限っての開催
14. 日臨技より、臨床検査技師に対するタスクシフト/シェア並びに新型コロナウイルス感染症に対する検査体制の整備状況に関する調査依頼について
→ 一斉メール送信
15. 兵庫県医師会より第19回「JMAT」実務研修会(第1回避難所対応コース)開催について
→ 一斉メール送信および3/20の定期発送に同封する。
16. 日臨技より、新型コロナウイルス感染症

(COVID-19) 病原体検査の指針、および唾液検体の採取方法について

17. 日臨技より、新型コロナウイルス感染症の研究用抗原キットに係る留意事項について
18. 第16回兵庫県がん診療連携協議会のオンライン開催について
→ 真田会長Web出席予定
19. 日臨技より、労働者派遣法施行令の改正について

【審議事項】

1. 令和2年度兵臨技功労賞・学術奨励賞選考委員会開催報告
→ 功労賞に山中陽子会員、学術奨励賞に丸岡隼人会員を推薦
→ 承認
2. 事務員の北川さんが3月末で退職し2名体制になるため、事務所の負担減に協力をお願いしたい。
→ 承認

<総務部>(報告者：池本総務部長)

【報告事項】

1. 会員数(月末集計)

令和3年度(2022)							
	会員数	会員数内訳			年会費入金内訳		
		継続	新規	兵臨技のみ	入金済(うち送金待)	免除	未入金
令和元年度	2296						
R2年12月	2350	2185	165	176	2295(0)	28	27
1月	2345	2173	172	177	2285(0)	34	26
2月	2348	2172	176	177	2286(0)	36	26

	施設数			会員数		
	R2年12月	1月	2月	R2年12月	1月	2月
神戸地区	127	128	128	912	907	911 ↑
阪神地区	66	66	66	492	491	489 ↓
丹波地区	14	14	14	99	98	99 ↑
東播地区	50	50	50	439	438	439 ↑
西播地区	46	46	46	392	393	392 ↓
その他	0	0	0	16	18	18
合計	303	304	304	2350	2345	2348 ↑

【審議事項】

1. 入会、退会

- 1) 賛助会員入会：なし
- 2) 賛助会員退会：なし
- 3) 会員入会：12月5名、1月9名、2月3名
- 4) 会員退会：12月4名、1月14名、2月1名
→ 承認

2. 臨時総会の現地参加者について

会長、副会長など少人数での現地参加とし、理事にWeb参加を呼びかける。

次年度からは、一般会員もWebで参加できる体制を検討する。

＜経理部＞（報告者：竹川経理部長）

【報告事項】

1. 予算管理月報について 2月末日
2. G表について 2月末日
3. 広告状況について 2月末日

【審議事項】

1. 事務所で預かっている交通費等について
少額の振込みは現実的ではないので、事務所預かりでよいか。
→ 承認。事務所に立ち寄る機会があれば受け取る。
2. 会員への入会金の返却について
音信不通の会員への対応をどうするか。
→ 事務所に一任、会員から連絡があり次第の返金でよいか。
→ 承認

＜渉外部＞（報告者：安部渉外部長）

【報告事項】

1. コロナウイルス禍、会員施設状況把握アンケートについて
 - 1) 検査室長（検査室責任者）宛アンケート結果報告（55施設）
 - 2) 臨床検査技師個人向けアンケート結果報告（回答数311名）
→ アンケート結果については、理事で情報を共有する。ただし部外秘とする。
2. 第19回JMAT兵庫実務研修会（第1回避難

所コース）開催について

3月14日（日） 於：兵庫県医師会館

当会会員より4名の参加予定

（参考）薬剤師受講7名、薬剤師会役員見学1名、JRAT（リハビリ系）6名受講

【審議事項】

なし。

＜組織部＞

（報告者：大崎組織部長、菊口理事、井関理事）

【報告事項】

1. 令和2年度 東播地区施設責任者・連絡者会議（Zoom）
令和3年2月20日（土）10：00～10：40
会議録（資料07-01）、報告書（資料07-02）
2. 第15回丹但地区学術組織合同研修会（Zoom）
令和3年2月27日（土）13：30～15：40
報告書（資料07-03）
3. 令和2年度 第2回丹但地区 地区会議（Zoom）
令和3年2月27日（土）16：00～17：00
会議録（資料07-04）

【審議事項】

1. 令和3年度 第38回西播地区研究発表会（ハイブリッド形式）
令和3年7月25日（日）10：00～13：00
事業計画書（資料07-05）
集会形式は感染対策を徹底した上で、参加者は収容人数の30％で行う。
→ 承認
・組織や学術の研修会などで他府県の会員の参加に違和感を覚える。兵臨技会員からクレームがでるのではないかと。（住ノ江広報部長）
→ JMTIS登録で兵庫県会員のみの参加にも設定できるが、定員に満たないので他府県の会員にも参加を許可している。定員に達する場合には、個別に対応する必要があると考える。（竹川経理部長）

- 学術では日臨技助成金を受けるのに他府県の会員の参加も認めている。(藤原学術部長)
- 100名を超える参加者に対応するためにウェビナー契約の検討も行っている。次年度の県学会に向けても検討の必要がある。(真田会長)
2. 第41回丹但地区研究発表会
令和3年6月27日(日)10:00～12:00
事業計画書(資料07-07)
集会形式とWeb形式のハイブリッド形式で行う。
- 承認
- 費用のことなどを考慮すると集会形式かWeb形式が望ましいが、西播・丹但地区の研修会をモデルケースとしてハイブリッド形式で行い、問題点を洗い出し今後の方向性を決めていく。(真田会長)
 - オンデマンド配信についてはメリットもあるが、個人情報の取扱いに関しては十分配慮が必要であるので慎重に行うべき。(松田副会長・大崎組織部長)
- 個人情報の取扱いに関する研修会をしてはどうか。(大崎組織部長・安部渉外部長)
- 学術部と組織部を中心に個人情報の取扱いに関して日臨技として検討する必要がある。(真田会長)
- Web研修会での個人情報の取扱いに関しては十分配慮していただくように発表者にアナウンスする。可能な限り、事前に役員で内容をチェックする。(大崎組織部長)
 - 本来であれば、受益者負担の原則で研修会の参加費を徴集すべきなので、次年度中には参加費の徴収方法を決める必要がある。(松田副会長)
- 会長・三役に一任。後日報告する。
3. 功労賞・学術奨励賞選考審査委員会委員に

ついて(神戸地区)

養輪会員の後任について

→ 松田副会長に候補者を挙げてもらう。

<広報部>(報告者:住ノ江広報部長)

【報告事項】

1. ホームページ(HP)への新規および更新掲載
 - お知らせ(トップページの作成、追加)
 - 研究班のページ修正
 - お知らせの掲載
 - 会員施設の修正の補正など
2. 広報会議
 - 開催なし
3. HP作業時間
住ノ江:3時間
新田: 3時間
渡邊: 1時間
4. HYOGOニュースの広告掲載について
来年度のHYOGOニュース広告は既に埋まっており、今後はHPバナー広告(3万円/年)を進める。現在、シーメンスからの依頼は、HPのバナー広告を勧めている。
5. 行事予定表の紙媒体での配布希望者について
現在の配布希望施設は、1施設(明石市民病院)であったが、確認したところ不要となった。よって4月号以降の行事予定の紙媒体での配布は行わず、今後の会員の希望により対応を考慮する。HYOGOニュースには、行事予定表のQRコードを印刷し、リアルタイムな情報にアクセス出来るようにしている。

【審議事項】

1. HYOGOニュースへの求人広告の掲載について
HPでの求人運用が適切に行われており、HYOGOニュース(希望の方のみ)での掲載

を不要としたい。

HP掲載14件(2/9～3/10)

→ 承認

→ 当面は、行事予定表やHYOGOニュースの運用変更点についての案内を定期発送に入れ、会員に啓蒙する。(真田会長)

<学術部>(報告者：藤原学術部長、真田会長)

【報告事項】

1. 第9回学術部会(Web形式)開催

今年度の研修会開催内容について話し合いを行い、問題点や開催時に気が付いた内容、次年度に向けた企画や開催方法などについて方向性を決めた。

2. 学術奨励賞と兵庫県健康財団会長表彰候補者について

学術奨励賞は丸岡班長、兵庫県健康財団会長表彰には山本剛会員を推薦する。学術奨励賞については3月9日の選考委員会で承認済み。

兵庫県健康財団会長表彰については書類を3月10日に提出した。

【審議事項】

1. 毎月の行事予定表が発行されなくなること

で、HPを見る以外に方法がなく、うまく伝わらない可能性があるのではないか。

- 学術の研修会の予定については、毎月20日頃に送信する技師会の案内とは別に、毎月初めに送信する方向で次年度実施してみたいがどうか。

→ 承認

→ メールの件名に“学術の研修会”と分かりやすく表示してもらう。(真田会長)

2. 学術奨励賞の選考について、客観的評価のためには学会発表や論文、著書などをまとめた書類の提出が必要ではないか。

→ 履歴書だけでなく、決まった形式の学術業績一覧を添付してもらうことで承認された。

<精度管理事業部>

(報告者：狩野精度管理事業部長)

【報告事項】

1. 令和2年度(第40回)兵臨技精度管理調査について

1) 精度管理解析集は兵臨技事務所に150部、医師会に30部納品され、参加施設に発送した。(R3/2/26)

2) JAMTQCの施設評価書は3月1日、統括評価表は3月5日に開示した。

3) 兵臨技HPに解析集の簡易版、2月28日開催の精度管理合同報告会の資料を掲載した。

4) 令和2年度の精度管理調査の結果概要：表参照

C評価総件数：

令和元年：278件⇒令和2年は161件

C評価の平均比率：

令和1.62%⇒1.40%

令和2年度は令和元年度に比べC評価の件数が減少したが、血液ガスと微生物フォトでC評価が増加した。

分野	C評価比率(%)		C評価件数	
	令和元年	令和2年	令和元年	令和2年
①：臨床化学(WET)	0.92	0.35	72	28
①：臨床化学(DRY)	4.07	2.05	31	13
②：ヘモグロビンA1c	1.76	1.69	3	3
③：血液ガス検査	1.49	1.73	10	12
④：免疫血清	0.46	0.23	4	2
⑤：血球計数検査	2.39	2.33	14	14
⑥：血液像検査	3.24	1.37	22	13
⑦：凝固検査	1.42	0.27	5	1
⑧：便潜血検査	0	0	0	0
⑨：尿沈渣検査	3.28	2.67	20	17
⑩：微生物検査	0.61	0	3	0
⑪：微生物塗沫鏡検	0.62	4.85	1	8
⑫：輸血検査	0.48	0.32	12	6
⑬：病理組織	0	0	0	0
⑭：免疫組織化学染色	0	0	0	0
⑮：細胞診	0.51	0.54	2	2
⑯：生理機能検査	6.21	5.4	79	42
C評価平均比率/C評価総件数	1.62	1.40	278	161

フォトは不正解数

5) サポート対応状況

対応総件数73件、是正完了70件、
是正対応中2件(化学)、
対応継続が必要1件(輸血)

【審議事項】

なし。

＜公益事業部＞(報告者：澁谷公益事業部長)

【報告事項】

なし。

【審議事項】

なし。

●次回理事会

令和3年度第1回理事会(Web開催)

日程調整して、後日報告する。

●令和2年度臨時総会

令和3年3月20日(土)13:00～

●令和3年度定時総会

令和3年6月12日(土)

臨時総会議事録

1. 会議の名称 令和2年度 臨時総会
2. 日 時 令和3年3月20日(土)
13時00分～13時45分
3. 場 所 公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会 研修センター
4. 出席した会員数 1,620名(出席率68.9%)
内訳 本人会場出席 5名
本人Web出席 10名
委任状出席 547名
議決権行使書提出者 1,058名
本会において、役員の一部についてはWeb会議システムを用いて出席しており、会場参加と併用し、開催前に出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることを確認している。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、少数名の総会関係者(会長、議長、司会、書記、理事、監事)による縮小した規模かつ可能な限り短時間での開催とした。

出席理事

会場出席：真田 浩一、松田 武史、
佐藤伊都子

Web出席：池本 純子、竹川 啓史、
南 雅仁、澁谷 雪子、
大崎 博之、住ノ江功夫、
藤田 勝也、井関 進也、
森 雅彦、菊口 圭介

出席監事

会場出席：東塚 伸一

Web出席：笠舞 和宏

5. 会員の現在数 2,351名

(基準日：令和2年12月20日)

6. 議事の経過

副会長 佐藤伊都子より、定款第4章(総会)第14条(開催)第1項に基づき、令和2年度臨時総会の開会を宣言した。

(1) 開会の辞 副会長 松田 武史

(2) 議長選出

定款第4章(総会)第16条(議長)の定めに基づき、この総会の議長として(公財)兵庫県予防医学協会 東塚伸一会員を選出した。

(3) 書記任命

書記として高砂市民病院 山中陽子会員を任命した。

(4) 会長 真田 浩一 挨拶

(5) 総会資格審査

副会長 佐藤伊都子より出席者数、委任状出席者数の内訳が述べられ、本総会は定款第4章(総会)第17条(決議)を充たし、有効に成立している旨の報告をした。

(6) 議事録署名人

議長は定款第4章(総会)第19条(議事録)

第2項により、議長及び出席した理事の中から当該総会において選ばれる議事録署名人2名の選出につき、議場に図ったところ議長一任の声に異議がなく、真田浩一会員、松田武史会員の2名を指名し、2名はこれを承諾した。

(7) 第1号議案

令和3年度 事業計画案の件

総括 会長 真田 浩一、

事業推進関係 会長 真田 浩一、

組織活動関係 副会長 佐藤 伊都子、

事務局関係 事務局長 南 雅仁より、

別紙 議案書のとおり提案があった。

第1号議案は賛成多数で承認された。

(賛成 1,617名 反対 3名)

(8) 第2号議案

令和3年度 予算案およびその他の事項の件

経理部長 竹川啓史より令和2年度実績、各部局から提出された令和3年度事業計画案に基づき、別紙 議案書のとおり収入予算及び支出予算の提案があった。

第2号議案は賛成多数で承認された。

(賛成 1,614名 反対 6名)

(9) 質疑応答

質問および意見：経費の無駄

(HYOGO JOURNAL)

回答：HYOGO JOURNALは国立図書館に登録されている正式な書籍となるので、投稿された文書は参考文献としても引用される。また発刊が財政を圧迫しているということもない。よって、当会としては有用性があると考えている。

(10) 書記解任

(11) 議長解任

(12) 閉会の辞 副会長 佐藤 伊都子

第1回理事会議事録

開催日：令和3年4月10日(土)

時 間：10:00～11:20

場 所：ZoomによるWeb会議

出 席：真田、綿貫、松田、佐藤、竹川、狩野、澁谷、藤原、池本、住ノ江、藤田、森、菊口、千田、矢野、南、湊、中町参与、東塚監事、笠舞監事

欠席者：安部、大崎、井関

- 理事17名の出席により会議は有効裡に開催された(現在の理事数20名)。
- なお、開催前に出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることを確認している。

• 議事録署名人の選出：

真田浩一、東塚監事、笠舞監事を選出した。

議事録作成：湊

議題

I 会長報告(報告者：真田会長)

【報告事項】

1. 日臨技近畿支部関連

第60回近畿医学検査学会の進捗について

2. 兵臨技関連

1) 3月13日(土) 令和2年度精度管理調査検討会出席

2) 3月17日(水) 西播地区 Web会議出席

3) 3月19日(金) 令和2年度兵庫県予算編成に対する要望の回答と意見交換会 Web会議出席

4) 3月20日(土) 令和2年度臨時総会出席

5) 3月25日(木) 令和2年度第3回子宮の日実行委員会 Web会議出席

6) 4月1日(木) 学術部 Web会議出席

【審議事項】

1. 今年度の理事会開催日について

理事会は原則的に「偶数月 第2土曜日 10:00～12:00」開催とする(Web)。急ぎの審議事項が発生した場合は臨時理事会の開催あるいはメール審議とする。

→ 承認

常務理事会については、定期的に開催すると規程にあるので、税理士の先生のアドバイスに基づいて検討する。

2. 子宮の日について

集会形式では行わず、ビデオなど録画したものを使用する。兵臨技は昨年同様協力を行い、費用は70,000円を分担する。ビラの配布は行わず、大丸から神戸図書館でのポスター掲示をしていただく予定。

→ 承認

II 日臨技報告

【報告事項】

1. 日臨技認定試験の件、昨年度は研修会と認定試験ともに全て中止したが、今年度はWeb研修会開催の予定、12月に幕張メッセで全ての認定試験を行う。心電図等の実技試験は、動画で対応する。
2. タスクシフト厚労省指定講習会、7月を開始予定。シミュレーターの準備で遅れる可能性あり、1回の講習会を60名、3班に分けて開催予定。大学等に会場を借りる準備が必要。
3. 第71回医学検査学会、大阪府、72回は群馬県の予定。
4. 日臨技災害見舞金の変更、見舞金の廃止をする。会費免除は継続する。
5. 日臨技の施設認定、今後は指導する方向。
6. 会誌の医学検査、紙媒体継続する。
7. 次年度より、日臨技70周年記念事業の準備を開始する。

【審議事項】

なし。

III 業務執行報告

(報告者：松田副会長、綿貫副会長、佐藤副会長、南事務局長、竹川経理部長)

業務執行理事による業務執行状況報告を行った。

IV 部局報告と審議

<事務局> (報告者：南事務局長)

【報告事項】

1. 兵庫県健康福祉部より令和3年度兵庫県精度管理委員の推薦について
→ 兵庫県立がんセンター検査技師長 幸福淳子会員を推薦
2. 黒住医学研究振興財団より研究助成事業の案内について
3. 滋慶医療科学大学大学院より2021年度の入学式の案内について
→ 来賓の出席不可のため、真田会長より祝辞を送付
4. 日臨技一斉メールシステムの機能強化について
→ 案内文を作成し、定期発送とHPで会員に周知する予定
5. 公益法人Informationに令和3年度事業計画書等の提出(3/25)
6. 事務所コピー機リース更新による入替(富士ゼロックス複合機：3/25)
7. 日臨技より2月締め分の会費と日臨技推進事業研修会の送金について
8. 令和3年度神戸常盤大学入学式に祝電を送付
9. 兵庫県健康福祉部より、がん診療連携拠点病院の指定について
10. 公益信託臨床検査医学研究振興基金より以

下の案内について

- 1) 公益信託臨床検査医学研究振興基金
- 2) 令和3年度研究奨励金授与候補者の応募要項および推薦書
- 3) 令和3年度藤田光一郎賞顕彰候補者の応募要項および推薦書
→ HPにUP済み(4/6)

11. 厚労省より衛生検査所指導要領の見直しについて

12. 令和3年度公益財団法人兵庫県健康財団会長表彰に山本 剛会員が決定

【審議事項】

1. 事務員さんの募集について

まずは媒体を使用せず、適任者がいれば南事務局長まで報告する。

→ 承認

- ・事務局員の定数を決めておいたほうがいいのではないか(松田副会長)。
- ・正規職員を雇用する場合は体制を整える必要がある。税理士の先生と相談の上定款を見直す必要もある(真田会長)。

<総務部>(報告者:池本総務部長)

【報告事項】

1. 会員数(月末集計)

令和3年度(2022)							
	会員数	会員数内訳			年会費入金内訳		
		継続	新規	兵臨技のみ	入金済(うち送金付)	免除	未入金
令和元年度	2296						
1月	2345	2173	172	177	2285(0)	34	26
2月	2348	2172	176	177	2286(0)	36	26
3月	2342	2166	176	178	2280(0)	36	26

	施設数			会員数		
	1月	2月	3月	1月	2月	3月
神戸地区	128	128	126	907	911	903 ↓
阪神地区	66	66	66	491	489	489
丹波地区	14	14	14	98	99	99
東播地区	50	50	50	438	439	440 ↑
西播地区	46	46	46	393	392	391 ↓
その他	0	0	0	18	18	20 ↑
合計	304	304	302	2345	2348	2342 ↓

【審議事項】

1. 入会、退会

- 1) 賛助会員入会: なし
- 2) 賛助会員退会: (株)スズケン
- 3) 会員入会: 1月9名、2月3名、3月1名
- 4) 会員退会: 1月14名、2月1名、3月86名
→ 承認

2. 退会手続きについて

下記の3通りがあるため、HPへ手続き方法を明示したい。



→ 会員からの問い合わせの詳細が不明なため、継続審議とする。

<経理部>(報告者:竹川経理部長)

【報告事項】

1. 予算管理月報について 3月末日
2. G表について 3月末日
3. 広告状況について 3月末日

【審議事項】

なし。

<渉外部>(報告者:安部渉外部長)

【報告事項】

1. 「看護の日」について

令和3年5月15日 於:兵庫県看護協会
コロナ禍でもあり看護協会のみで開催予定
兵庫県臨床検査技師会のHPに案内の掲載をして協力したい

2. 医療職団体連絡協議会について

令和3年度第1回が4月21日にWebにて開催予定
議題

- 1) コロナ禍における各団体の取組現状報告
- 2) 令和3年度事業について

当会より会長、公益事業部長、渉外部長の3名で参加予定

【審議事項】

なし。

＜組織部＞（報告者：大崎組織部長）

【報告事項】

1. 令和2年度 阪神・神戸地区合同施設責任者・連絡者会議 (Zoom)
令和3年 3月10日 (水) 18:00～19:15
報告書、決算書 (資料07-01)
2. 令和2年度 第1回西播地区施設責任者・連絡者会議 (Zoom)
令和3年 3月17日 (水) 18:30～19:45
報告書・決算書 (資料07-02)

【審議事項】

なし。

＜広報部＞（報告者：住ノ江広報部長）

【報告事項】

1. ホームページ (HP) への新規および更新掲載
2. 広報会議
 - ・開催なし
3. HP作業時間
住ノ江：2.5時間
新田： 2.5時間
渡邊： 1時間

【審議事項】

なし。

＜学術部＞（報告者：藤原学術部長）

【報告事項】

1. 第10回 学術部会 (Web形式) 開催
令和3年度の研修会開催内容について話合った。
2. 兵庫県健康財団会長表彰
山本 剛会員が結核予防功労者に決定した。

【審議事項】

1. 令和3年度 健康ひょうご21 県民運動推進フォーラムへの参加について

6月2日の表彰式への関係者の参加依頼
松田副会長が代表して出席

→ 承認

2. 今年度研修会や学会で使用を検討したい Zoom ウェビナーについて
利用料金を今年度は学会開催することで徴収できると考えて導入を検討
 - ・技師会で契約しているプロライセンスは代理店を通してしているため年間3万円かかっている。これに追加契約をしないとウェビナーを使用できない。代理店を通さずに Zoom と直接追加契約できるかが問題となる。参加者500人までの場合は、直接契約だと年間188,196円で代理店を経由すると280,800円となる。スポット契約でもいいかと思うが、参加費との兼ね合いもあるため、経理部長との相談が必要である。代理店契約のメリットは Zoom の勉強会やトラブル対応などのサポートをしてくれるなどあるが、使用用途を考慮すると、代理店契約ではなく Zoom との直接契約でもよいのではないか。(南事務局長)
 - ・学会等であれば1か月契約 (スポット契約) でもよいのではないか。(真田会長)
 - ・代理店契約のメリットについてなにかあるか。生理の研修会で100名を超えていて入れなかったため増やすべきと思う。またウェビナーにすると管理が楽になる。学会に関しては、ウェビナーだけで開催するのか、オンデマンドで開催するかで費用が異なる。経費について検討する必要がある。(中町参与)
 - ・大臨技が yahoo パスマーケットを使用して会費を徴収する予定。使用できれば会費の徴収も安定し、参加者の不公平感の是正にもなるため会費の収集に関して情報収集してもらっている。(真田会長)

- yahooパスマーケットは費用決済やキャンセル等もできるため、なるべく早急に検討するのが良いと思われる。(松田副会長)
 - 現在の契約が終了してから、新しく契約したほうがよいのか。(藤原学術部長)
 - 契約を途中で終了することは可能かと思う。会員にとってメリットが大きいのであれば途中で切り替えてもよいのではないか。(真田会長)
- 次回更新時にZoomとの直接契約に切り替え、ウェビナーを導入することで承認。

<精度管理事業部>

(報告者：狩野精度管理事業部長)

【報告事項】

1. 令和2年度(第40回)兵臨技精度管理調査について
令和3年3月13日(土)精度管理検討会の開催
感染対策を実施した上で開催、計48名が参加した。
2. 令和2年度の事業報告書と決算書
令和2年度の精度管理事業は令和元年度を基礎に、生化学試料の変更、フォト印刷の中止、精度管理合同報告会の開催、全分野のC評価に対するサポート体制の強化などを取組み、より方向に進めたと思う。
3. 令和3年度の精度管理事業用の譲渡血契約について
血液法改正により、新たに契約を結ぶ必要があるため、契約者は兵庫県臨床検査技師会で、血液の受渡担当者は輸血研究班班長で契約手続きを進めている。

【審議事項】

1. 新型コロナウイルスPCR精度管理実施の必要性について
試料候補：毒性のないウイルスのエンベロープに入れた模擬ウイルス

国立医薬品食品衛生研究所がサーベイや試薬のQCとして使用

価額：単価約2万(陰性・陽性)

(5セットで11万)

- 各施設がサーベイの参加を望んでいるかどうか状況を把握したほうがいいのではないか。(中町参与)
- アンケート調査を行ったほうがよいのか。(真田会長)

→ 参加の多寡にかかわらず実費で実施する方向で承認。

<公益事業部>(報告者：澁谷公益事業部長)

【報告事項】

1. 検査と健康展 日程

例年、神戸常盤大学のTOKIWA健康フェスタにて、検査と健康展を実施している。

→ 今年度は、10月10日(日)－神戸常盤大学 行事予定で決定より－に決定。

【審議事項】

なし。

●次回理事会

令和3年度第2回理事会(Web開催)

令和3年5月8日(土) 10:00～

●令和3年度定時総会

令和3年6月12日(土)

第2回理事会議事録

開催日：令和3年5月8日(土)

時 間：10:00～11:23

場 所：ZoomによるWeb会議

出席：真田、松田、佐藤、綿貫、竹川、狩野、大崎、安部、藤原、池本、澁谷、森、井関、藤田、湊、菊口、千田、矢野、南、中町参与、東塚監事、笠舞監事

欠席者：住ノ江

- 理事19名の出席により会議は有効裡に開催された(現在の理事数20名)。
- なお、開催前に出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることを確認している。
- 議事録署名人の選出：
真田浩一、東塚監事、笠舞監事を選出した。

議事録作成：南

議題

I 会長報告(報告者：真田会長)

【報告事項】

1. 日臨技近畿支部関連
なし。
2. 兵臨技関連
 - 1) 4月21日(水)兵庫県医療職団体協議会
Web会議出席
 - 2) 4月25日(日)第12回西播地区Web研修会出席(講師)
 - 3) 4月27日(火)事業および会計監査出席
(兵臨技事務所)
飯塚顧問税理士との顔合わせ
 - 4) 5月6日(木)学術部Web会議出席

【審議事項】

1. 税理士法人 鳩合同会計事務所との契約内容について
 - 1) 現在使用している会計ソフト(PCA)の更新
→ 承認
 - 2) 「距離別による定額制の交通費支払い」に即した規程の見直し
 - 交通費を定額制にすることで事務作業が軽減される。
 - 交通費、講師料の規程の見直しに関して継続審議とする。
 - 3) 労務・庶務作業の追加依頼
→ 承認

II 日臨技報告(報告者：綿貫副会長)

【報告事項】

1. タスクシフト法案、6月末までに承認予定。
厚労省指定講習会はテキストの都合で7月開始予定が遅れる見込み。予定では、各県で年3回開催要請。
2. 第70回医学検査学会、福岡より参加要請、4月末で2,400名 目標5,000名。Web開催期間5月15日から6月15日。
3. 支部学会、Web開催時は参加費3,000円とし、赤字は日臨技が補填する。
4. 臨地実習ガイドラインが作成された。実習は11単位(1単位は30～45時間)学校から何日と指定あり。

【審議事項】

なし。

III 業務執行報告

(報告者：松田副会長、佐藤副会長、
綿貫副会長、南事務局長、
竹川経理部長)

業務執行理事による業務執行状況報告を行った。

IV 部局報告と審議

<事務局>(報告者：南事務局長)

【報告事項】

1. 日臨技より令和3年度日臨技永年職務精励者表彰受賞者決定について
→ 兵庫県は28名が受賞
2. 日臨技より臨床検査技師教育の見直しについて
3. 会員の家族からの死亡弔慰金支給申請書の提出について
→ 弔慰金を振込済み
4. 兵庫県健康福祉部より令和3年度高齢者特別賞表彰の推薦について
→ 該当者なし。

潜在候補者として、高見壽夫会員を報告。

5. 日臨技より第2回新型コロナウイルス検査
機器整備状況調査報告
6. 日臨技より令和3年度都道府県技師会との
関連事業について
7. 尼崎市より令和3年度尼崎市衛生検査所精
度管理専門委員の推薦について
→ 県の精度管理専門委員の幸福淳子会員
に依頼
8. 事務員さんとの雇用契約締結の報告
→ それぞれ時給10円の昇給で契約更新
9. 日臨技より3月締め分の会費の送金につい
て

【審議事項】

1. 糖尿病療養指導士兵庫県連合会より糖尿病
ステップアップセミナー2021への後援名義
使用の承認について
→ 承認
2. 糖尿病療養指導士兵庫県連合会より糖尿病
教育セミナー2021への後援名義使用の承認
について
→ 承認
3. 令和3年度定時総会議案書案について
・議長と書記は集会参加が必要か。(池本総
務部長)
→ Webとの併催なので議長は集会参加の
方が進行しやすい(東塚監事)
→ 議長の人選について会長と総務部長で
詰めていく(真田会長)
→ 議案書案の内容については承認
4. 兵庫県薬剤師会より第24回近畿薬剤師学術
大会の後援名義使用の承認について
→ 承認。ただし当会の共催等承認申請書
の様式に記入してもらってから、承認
の手続きを行う。

＜総務部＞(報告者：池本総務部長)

【報告事項】

1. 会員数(月末集計)

令和3年度(2022)							
	会員数	会員数内訳			年会費入金内訳		
		継続	新規	兵臨技のみ	入金済(うち送金待)	免除	未入金
令和元年度	2296						
2月	2348	2172	176	177	2286 (0)	36	26
3月	2342	2166	176	178	2280 (0)	36	26
4月	2314	2258	56	140	2184 (20)	14	116

	施設数			会員数		
	2月	3月	4月	2月	3月	4月
神戸地区	128	126	124	911	903	896 ↓
阪神地区	66	66	65	489	489	493 ↑
丹波地区	14	14	13	99	99	99
東播地区	50	50	49	439	440	432 ↓
西播地区	46	46	47	392	391	377 ↓
その他	0	0	0	18	20	17 ↓
合 計	304	302	298	2348	2342	2314 ↓

【審議事項】

1. 入会、退会

- 1) 賛助会員入会：なし
- 2) 賛助会員退会：なし
- 3) 会員入会：2月3名、3月1名、4月56名
→ 入会者で施設名の未入力者がいるが
自宅会員なのか(佐藤副会長)
→ 施設に郵送物が届かないように未入
力の会員もいるようである
→ 自宅会員が多くなると事務作業が煩
雑になるので、会からの案内は全て
メールでの配信が良いと思われるが、
メールアドレス未登録者が約80名
もいるので難しい。(佐藤副会長)
→ 精度管理の是正案内でもメールを上
手く受け取れていない事例があった
ので、メール配信だけにするには会
員への周知が必要(中町参与)
→ 技師会としての対策が必要なので今
後検討を重ねていく。(真田会長)
- 4) 会員退会：2月1名、3月86名、4月4名
→ 入会者、退会者については承認

2. 定時総会について

- ・令和3年度公益社団法人 兵庫県臨床検

査技師会定時総会出席及び議決権行使書・委任状(案)

- ・令和3年度 定時総会の開催について(ご案内)(案)

→ 承認

＜経理部＞(報告者：竹川経理部長)

【報告事項】

1. 広告状況について 4月末日

【審議事項】

1. 令和2年度決算書類について

→ 承認。飯塚顧問税理士に再度確認してもらってから会員に公開する。

＜渉外部＞(報告者：安部渉外部長)

【報告事項】

1. 「看護の日」について

令和3年5月15日 於：兵庫県看護協会
4月13日(火)看護協会より中止の連絡あり。
技師会HPに中止案内を掲載

2. 医療職団体連絡協議会について

令和3年度第1回が4月21日にWebにて開催
議題

- 1) コロナ禍における各団体の取組現状報告
- 2) 令和3年度事業について
- 3) その他

当会より会長、公益事業部長、渉外部長の3名で参加

今年度の兵庫県医療職団体協議会合同研修会は開催の方向で活動を継続(適宜コロナ等状況を鑑み判断していくこととなった)

3. 兵庫県合同防災訓練について

今年度開催は近畿府県合同防災訓練(通称：2府7(県))での開催であり、場所は淡路市主体(12月4、5日)

【審議事項】

なし。

＜組織部＞(報告者：大崎組織部長、井関理事、菊口理事)

【報告事項】

1. 令和3年度 第12回西播地区研修会(Zoom)

令和3年4月25日(日)10:00～12:00

報告書(資料07-01)

【審議事項】

1. 令和3年度 丹但地区施設責任者・連絡者会議(Zoom)

令和3年5月18日(火)18:00～19:00

計画案(資料07-02)

→ 承認

2. 令和3年度 第1回西播地区 地区会議(Zoom)

令和3年6月23日(水)18:30～20:00

計画案(資料07-04)

→ 承認

＜広報部＞(報告者：住ノ江広報部長)

【報告事項】

1. ホームページ(HP)への新規および更新掲載

・HPでの問い合わせ、Q&A内容の作成・修正、よくある質問の作成

2. 広報会議

・開催なし

3. HP作業時間

住ノ江：2.5時間

新田： 3時間

渡邊： 3時間

【審議事項】

なし。

＜学術部＞(報告者：藤原学術部長)

【報告事項】

1. 第11回学術部会(Web形式)開催

1) 今年度の研修会開催予定、兵庫県医学検査学会開催、会計処理について

会費徴収方法について話し合いを行った。

【審議事項】

1. 兵庫県医学検査学会の開催について

開催時期：令和4年1月か2月

開催方法：Web開催のみ

(オンデマンド方式も検討)

→ 開催の方向で承認

＜精度管理事業部＞

(報告者：狩野精度管理事業部長)

【報告事項】

1. 令和2年度第40回兵臨技精度管理調査の訂正文について

精度管理解析資料集(臨床化学)と施設別評価表の記載に齟齬がある指摘を受けて、訂正案内を作成し、配信する予定。

(誤) 精度管理調査解析資料集(p3)

評価B:「基準」を満たしていない。

改善の余地がある。

(正) 精度管理調査解析資料集(p3)

評価B:「基準」を満たしているが、

改善の余地あり。

【審議事項】

1. 令和3年度第41回精度管理調査のコース案内について

変更点:

- 病理: 鍍銀染色・Ki-67染色に変更
- 生理機能: 筋電図から脳波に変更
- 遺伝子分野追加: 新型コロナウイルスPCR

→ 遺伝子は参加費10,000円予定で開示する。

→ 精度管理調査のコース案内について変更点を含めて承認

＜公益事業部＞(報告者: 澁谷公益事業部長)

【報告事項】

なし。

【審議事項】

1. 検査と健康展

開催(予定)日: 10月10日(日)

場所: 神戸常盤大学

※ 開催申請について

5月21日までに企画書、予算書の暫定版を提出し、開催日の2か月前までに企画書、予算書を提出する(7月31日までに提出予定)。

資料: 令和3年度全国「検査と健康展」案内

令和3年度全国「検査と健康展」

実施要領

令和3年度全国「検査と健康展」

企画書 予算案

コロナウイルスの感染状況により、開催の可否を検討する可能性あり。

→ 開催申請について承認

●令和3年度定時総会(Web併催)

令和3年6月12日(土) 13:00～

●次回理事会(Web開催)

令和3年度第3回理事会

令和3年6月12日(土) 総会終了後

令和3年度第4回理事会

令和3年8月14日(土) 10:00～

第3回理事会議事録

開催日: 令和3年6月12日(土)

時 間: 14:00～15:15

場 所: 兵庫県臨床検査技師会 研修センター
およびZoom併用によるハイブリッド会議

出 席: 真田、松田、佐藤、竹川、狩野、澁谷、池本、住ノ江、安部、大崎、藤田、井関、森、菊口、千田、矢野、南、湊、中町参与、東塚監事、笠舞監事

欠席者: 藤原、綿貫

• 理事18名の出席により会議は有効裡に開催された(現在の理事数20名)。

• なお、開催前に出席者の音声と映像が即時に

他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いのできる仕組みとなっていることを確認している。

・議事録署名人の選出：

真田浩一、東塚監事、笠舞監事を選出した。

議事録作成：湊

議題

I 会長報告（報告者：真田会長）

【報告事項】

1. 日臨技近畿支部関連

なし。

2. 兵臨技関連

1) 5月18日（火）丹担地区施設連絡者／責任者会議（Web開催）出席

2) 5月19日（水）令和3年度第1回兵庫県合同輸血療法委員会（Web開催）出席

3) 5月27日（木）臨時3役Web会議開催

4) 6月3日（木）学術部Web会議出席

5) 6月7日（月）税理士法人 鳩合同会計事務所 飯塚先生へ定款見直しについて依頼

【審議事項】

1. 臨床検査技師によるワクチン接種及びタスク・シフトへの対応チームの立ち上げについて
→ チームメンバー編成について承認

II 日臨技報告（報告者：綿貫副会長）

【報告事項】

なし。

【審議事項】

なし。

III 業務執行報告

（報告者：松田副会長、佐藤副会長、
南事務局長、竹川経理部長）

業務執行理事による業務執行状況報告を行った。

IV 部局報告と審議

<事務局>（報告者：南事務局長）

【報告事項】

1. 日臨技より「臨床検査技師へのタスク・シフト/シェアに関する指定講習会」実技講習備品について
→ 事務所で保管中
2. 薬剤師会より定時総会後の懇親会中止の案内
3. 日臨技より臨床検査技師へのタスク・シフト/シェア「厚生労働省指定講習会実施計画」の進捗状況について
4. 日臨技ホームページ会員専用サイト登録メールアドレス確認について
→ 定期発送、一斉メール送信
5. 厚労省より「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応」について
6. 厚労省より「新型コロナウイルス感染症のPCR検査等における精度管理マニュアル」について
7. 日臨技より「臨床検査技師のワクチン接種について」の案内
→ HPへUP済み（5/27）、一斉メール送信
8. 日臨技より「令和3年度定時総会の成立に関するご協力について」のお願い
→ ポスターをHPにUP済み
9. 日臨技より「被災者会費減免制度 申請方法の変更について」の案内
→ 日臨技HPの「日臨技共済制度」に掲載
10. 日臨技より4月締め分の会費および生涯教育推進研修会委託費の送金について
11. 厚労省よりワクチン接種の収入認定について
12. 厚労省より新型コロナウイルス感染症のワクチン接種を推進するための各医療関係職種の専門性を踏まえた対応の在り方等について
13. 日臨技より「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）病原体検査の指針（第4版）」に

ついて

14. 総務省・経産省より令和3年経済センサス活動調査について

→ 飯塚先生に確認を依頼し、6/7に回答済み

15. 日臨技より臨床検査技師によるワクチン接種の経緯説明会の開催について

→ 真田会長と松田副会長がWeb参加予定(6/14、15、16のいずれか)

【審議事項】

1. 自民党兵庫県支部連合会より令和4年度、政府・兵庫県・神戸市予算編成に対する最重要要望事項のご提出について

→ 会長が作成する方向で承認。

2. 兵庫県医務課より令和3年度公衆衛生事業功労者表彰の推薦について

→ 平成22年に当会が受賞してから該当なし。

→ 適任者がいれば南事務局長に報告する。

3. 医療と介護の総合展より次回開催の後援依頼について

→ 後援依頼を受けることで承認。

＜総務部＞（報告者：池本総務部長）

【報告事項】

1. 会員数（月末集計）

令和3年度（2022）							
	会員数	会員数内訳			年会費入金内訳		
		継続	新規	兵臨技のみ	入金済（うち送金待）	免除	未入金
令和2年度	2342						
3月	2342	2166	176	178	2280 (0)	36	26
4月	2314	2258	56	140	2184 (20)	14	116
5月	2353	2251	99	146	2229 (22)	17	104

	施設数			会員数		
	3月	4月	5月	3月	4月	5月
神戸地区	125	124	125	903	896	912 ↑
阪神地区	66	65	65	489	493	500 ↑
丹但地区	14	13	13	99	99	101 ↑
東播地区	50	49	49	440	432	437 ↑
西播地区	46	47	47	391	377	387 ↑
その他	0	0	0	20	17	16 ↓
合計	302	298	299	2342	2314	2353 ↑

【審議事項】

1. 入会、退会

1) 賛助会員入会：なし

2) 賛助会員退会：なし

3) 会員入会：3月1名、4月56名、5月43名

4) 会員退会：3月86名、4月4名、5月8名

→ 承認

2. 役員候補者選出委員・選考委員

神戸地区 川井 順一（西神戸医療センター）

阪神地区 川村 道広（近畿中央病院）

丹但地区 上野 正子（出石医療センター）

東播地区 藤原万紀子（市立西脇病院）

西播地区 前田 晴美（姫路聖マリア病院）

委嘱期間（令和3年6月～令和5年定時総会
終結時まで）

（選任後2年以内に終了する事業年度のうち
最終のものに関する定時総会の終結時まで）

→ 承認

＜経理部＞（報告者：竹川経理部長）

【報告事項】

1. 予算管理月報について 5月末日

2. G表について 5月末日

3. 広告状況について 5月末日

【審議事項】

なし。

＜渉外部＞（報告者：安部渉外部長）

【報告事項】

なし。

【審議事項】

1. 兵庫県臨床検査技師会・登録フォームより
会員外の臨床検査技師からの問い合わせに
ついての返答

問い合わせ内容：

技師会に入会していない技師がワクチン接種の打ち手になれるのか。また接種に関する研修や求人、勤務体制について。

→ 近日中に日臨技からアナウンスがある旨と、詳細が分かり次第正式な回答を

行う、という返答とする。

2. 兵庫県臨床検査技師会災害対策マニュアル(案)について

日臨技災対マニュアル改訂版が執行理事会で通過の見込みが得られた為、兵臨技災対マニュアル(案)を作成した。6、8、10月の理事会で内容を詰め、12月で制定する方向で進めたい。

- ・役割分担について
- ・マニュアル内〇〇〇、△△△、□□□について
- ・マニュアル内容そのものについて
- ・他

→ 承認。意見等あれば理事会開催前月の月末までに安部部長に連絡する。

<組織部>(報告者:森理事、菊口理事)

【報告事項】

1. 令和3年度 丹但地区施設責任者・連絡者会議 (Zoom)

令和3年5月18日(火) 18:00~19:00

報告書, 決算書(資料07-01)

【審議事項】

1. 令和3年度 第1回東播地区ナイトセミナー (Zoom)

令和3年7月28日(水) 18:30~20:00

計画案(資料07-02)

→ 承認

2. 令和3年度 第1回西播地区施設責任者・連絡者会議 (Zoom)

令和3年8月18日(水) 18:30~20:00

計画案(資料07-04)

→ 承認

<広報部>(報告者:住ノ江広報部長)

【報告事項】

1. ホームページ(HP)への新規および更新掲載。

- ・HPでの問い合わせ Q&A内容の作成・修正、よくある質問の試験運用

→ 以後は、渉外部長にメールで質問が届

く形になる。

2. 広報会議

- ・開催なし

3. HP作業時間

住ノ江:4時間

新田: 5時間

渡邊: 3時間

4. 研修会の集金方法 (Peatix:ピーティックス)について

研修会の集金方法について、情報センターの新田さんより学術会議で提案あり。

無料のセミナーであれば手数料が発生しないため、テスト研修会で運用を確認

「現在10月1日にテスト研修会作成中:

一時保存」

- ・パスマーケットについても合わせて検討いただきたい。(松田副会長)

- ・セキュリティや安全性についても検討が必要。(中町参与)

- ・チケット購入者以外も参加できてしまうのではないかと、参加者の管理についてはどうするのか。(森理事)

→ Peatixの場合はPeatixにログインしなければZoomに参加できないため、従来のようにZoomのURLを直接参加者に送るより、その可能性が低くなる。(住ノ江部長)

- ・実際参加した出席者についても把握できるか。(井関理事)

→ 今後検討する(住ノ江部長)

【審議事項】

なし。

<学術部>(報告者:藤原学術部長)

【報告事項】

1. 第12回 学術部会(Web形式)開催

令和3年度の研修会開催予定、兵庫県医学検査学会開催、会計処理について会費徴収方法の検討を行った。

【審議事項】

なし。

＜精度管理事業部＞

（報告者：狩野精度管理事業部長）

【報告事項】

- 令和3年度第41回兵臨技精度管理調査の日
臨技システム使用申請完了した。
 - 申込期間 令和3年8月3日（火）～
令和3年9月14日（火）
 - 試料発送 令和3年11月3日（水）
 - 回答締切 令和3年11月4日（木）～
11月16日（火）
- 令和3年度第41回精度管理調査施設への案内文について
変更点：
 - コース内容：遺伝子を含まない全コース⑮、遺伝子を含む全コース⑯を設定
JAMTQC請求上遺伝子検査別途請求できないため上記設定に変更
 - 全コース設定、振込み時の注意事項、参加証の発行時期を追記
- 免疫染色標本購入費用について
Ki-67染色用標本
配布枚数：2枚、施設単価：約2,500円

【審議事項】

- 新型コロナウイルス試料購入費用について
試料：Full Length Genome、不活化処理済み
新型コロナウイルスを使用
配布検体量：
750 μ L、施設単価：約7,500円前後
→ 参加費は7,000円で決定。但し書きで検査対象（PCRとLAMP法）を明記する。

＜公益事業部＞（報告者：澁谷公益事業部長）

【報告事項】

なし。

【審議事項】

なし。

●次回理事会

令和3年度第4回理事会（Web開催）

令和3年8月14日（土）10：00～

第4回理事会議事録

開催日：令和3年8月14日（土）

時 間：10：00～12：12

場 所：ZoomによるWeb会議

出席者：真田、松田、佐藤、綿貫、竹川、狩野、大崎、安部、藤原、池本、澁谷、住ノ江、森、井関、藤田、湊、菊口、千田、南、中町参与、東塚監事、笠舞監事

欠席者：矢野

- 理事19名の出席により会議は有効裡に開催された（現在の理事数20名）。
- なお、開催前に出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることを確認している。
- 議事録署名人の選出：
真田浩一、東塚監事、笠舞監事を選出した。

議事録作成：南

議題

I 会長報告（報告者：真田会長）

【報告事項】

- 日臨技近畿支部関連
なし。
- 兵臨技関連
 - 6月12日（土）令和3年度定時総会出席
 - 6月23日（水）令和3年度第1回西播地区会議（Web開催）出席
 - 6月27日（日）第41回丹但地区研究発表会（ハイブリッド開催）出席
 - 7月1日（木）学術部会（Web開催）出席
 - 7月9日（金）令和3年度第1回兵庫県合

同輸血療法委員会 (Web 開催) 出席

6) 7月25日(日)第38回西播地区研究発表
会 (ハイブリッド開催) 出席

7) 8月5日(木)学術部会 (Web 開催) 出席

8) Zoomについて

→ 10月より新契約開始。直接契約で
500名までのウェビナーも追加契約。

9) 臨床検査技師によるワクチン接種につ
いて

→ 神戸市では実技研修を行っているが、
他市町村や兵庫県としては行われて
いない。

10) 兵庫県自民党議員との意見交換会につ
いて (9/9または9/10開催)

→ 臨床検査技師によるワクチン接種の
状況を報告予定

【審議事項】

1. 複十字シールおよびがん寄附金の依頼につ
いて

→ それぞれ1か月程度時期をずらして、
HPへのUPと一斉メール送信すること
で承認

2. 都道府県災害連絡責任者の選出について

→ 人選は会長に一任することで承認

3. 令和3年度兵庫県公衆衛生協会会長表彰の推
薦について

→ 兵庫県立がんセンターの秋篠範子会員
を推薦することで承認

4. タスクシフト/シェアに関する厚生労働大
臣指定講習会について

→ 近畿支部の研修会に真田、綿貫、佐藤、
澁谷、大崎、松田、住ノ江、森、安部
の9名の理事が参加することで承認

5. 臨床検査技師学校養成所指定規則の改正に
ついて

→ 臨地実習指導者講習会に兵庫県より神
戸大学医学部附属病院の大沼会員・兵
庫医科大学病院の池本会員が参加する

ことで承認

Ⅱ 日臨技報告 (報告者：綿貫副会長)

【報告事項】

1. コロナワクチン接種の座学

7/10時点で約6,000名、
実技研修修了者約540名

2. 昨年度の日臨技への入会者1,500人
(例年3,000名)と減少

3. 8/8に日臨技事務所でタスクシフトシミュ
レーション研修会開催、各支部より3名参加。
研修内容をビデオ撮影行い、各県の参考資
料にする。コロナ感染増加のため兵庫は参
加できず。

4. 近畿支部のタスクシフト研修会は9/5、森
ノ宮医療大学で開催。兵庫県の参加者はタ
スクシフトチーム5名の予定が4名追加で9
名に変更。参加費1万円が15,000円になる
見込み。

5. 臨地実習指導者講習会、各病院1名程度、
全国で1,200名程度の予定。WebとZoomを
併用、グループ学習を行う。先だって各県
1名、世話人講習会を10月に行う。参加費
3,000円

【審議事項】

なし。

Ⅲ 業務執行報告

(報告者：松田副会長、佐藤副会長、

綿貫副会長、南事務局長、竹川経理部長)

業務執行理事による業務執行状況報告を行っ
た。

Ⅳ 部局報告と審議

<事務局> (報告者：南事務局長)

【報告事項】

1. 厚労省より「新型コロナウイルス感染症に
係るワクチン接種のための筋肉内注射の臨

- 床検査技師、救急救命士による実施のための研修について」
2. 兵庫県健康増進課より「兵庫県公衆衛生協会団体会費の納入とメールアドレス登録の依頼」について
→ 事務所にて対応済み
 3. 派遣会社より事務職員の採用について→ 7月26日より1名勤務開始
 4. 健康ひょうご21県民運動推進会議より「令和3年度健康ひょうご21県民運動推進会議総会(会長専決)」について
 5. 厚労省より「新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの迅速な接種のための体制確保に係る医療法上の臨時的な取扱いについて(その4)」
 6. 西宮市保健所より、精度管理専門委員の推薦について(依頼)
→ 県立がんセンターの幸福淳子会員を推薦
 7. 兵庫県保険医協会より、第53回総会決議の報告
 8. 兵庫県公衆衛生協会より「令和3年度兵庫県公衆衛生協会中央研究会における演題および演題原稿の募集」について
→ HPにUP済み(6/30)
 9. 公益法人Informationに令和2年度事業報告書等の提出(6/28)
→ 7/23に補正依頼後、再申請済み
 10. 姫路市保健所より、令和3年度姫路市衛生検査所精度管理専門委員の推薦について
→ 県立がんセンターの幸福淳子会員を推薦
 11. 日臨技より、5月・6月締め分の会費および生涯教育推進研修会の送金について
 12. 令和3年度兵庫県自治賞被表彰候補者(神戸地区)の推薦について
→ 該当者なし
 13. 厚労省より「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の区域変更等に伴う周知」について
 14. 厚労省より「催物の開催に係る事前相談等の際のフォーマット等」について
 15. 糖尿病療養指導士兵庫県連合会より「糖尿病教育セミナー2021」の案内
→ 7月の定期発送および一斉メール送信済み
 16. 兵臨技のみ会員および賛助会員の会費未納について
→ 会費納入お願いの案内を送付済み
 17. 日臨技より「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)診療の手引き(第5.1版)について」、および「新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取扱いについて(その50)」
 18. 日臨技より「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律」の公布について
 19. 厚労省より、臨床検査技師等に関する法律施行令の一部を改正する政令等の公布について
 20. 日臨技より、第71回日本医学検査学会バナーリンクの依頼
→ HPにバナーリンク済み
 21. 日臨技より、令和3年度定時総会議決権行使における回収手数料の送金について
 22. 日臨技より、都道府県災害連絡責任者の選任について→ 調整中(8/31締切)
 23. 厚労省より、令和3年度立入検査実施通知について
 24. 厚労省より「医療広告規制におけるウェブサイト事例解説書」について
 25. 厚労省より「医療事故の再発防止に向けた提言第14号の公表」について
 26. 厚労省より、電波環境協議会による「医療機関において安心・安全に電波を利用する

ための手引き(改訂版)」(令和3年7月)について

【審議事項】

1. 日本睡眠検査学会より、第2回学術集会の後援依頼について

→ 承認

2. 第50回「医療功労賞」候補者の推薦について
9/15締切、H23に春名久美子会員が受賞してから推薦なし

→ 候補者がいれば事務局長まで

3. ピンクリボンひめじより「世界遺産姫路城ピンクリボンライトアップ及び啓発イベント」の後援依頼について

→ 承認

4. 日臨技より、臨床検査技師学校養成所指定規則の一部を改正する省令案に関する御意見の募集について

- ・今回改正される省令案で必ず見学させる行為として、運動誘発電位検査や体性感覚誘発電位検査、消化管内視鏡検査とあるが、臨地実習受け入れ施設の現状から可能なのか。(大崎組織部長)

→ 運動誘発電位検査や体性感覚誘発電位検査を定期的に行っている施設は少なく、また実施場所が手術室であることや患者や家族の同意を得ることが容易ではないため、見学を必須条件とすると受け入れ施設が限定されることが危惧される。

→ 検査見学の義務化は難しいことを、個人でパブリックコメントに入力し、多くの意見を集める方向で進める。

5. 日臨技「認知症ワーキンググループ」より、都道府県技師会における認知症予防啓発活動の実施について(R3/9の1か月間)

→ 事務所のオレンジのライトアップは実施困難であるが、HPの修正については、日臨技のアイコン挿入は可能で、背景

のオレンジ化は技術的に可能なら実施する。

→ 認知症予防啓発活動の提案に賛同することで承認。

<総務部>(報告者:池本総務部長)

【報告事項】

1. 会員数(月末集計)

令和3年度(2022)							
	会員数	会員数内訳			年会費入金内訳		
		継続	新規	兵臨技のみ	入金済(うち送金待)	免除	未入金
令和2年度	2342						
5月	2353	2251	99	146	2229(22)	17	104
6月	2365	2247	118	143	2250(7)	18	97
7月	2377	2245	132	142	2261(4)	21	95

	施設数			会員数		
	5月	6月	7月	5月	6月	7月
神戸地区	125	125	125	910	910	915 ↑
阪神地区	65	65	65	500	506	511 ↑
丹波地区	13	13	13	101	102	102
東播地区	49	49	49	437	438	439 ↑
西播地区	47	49	49	387	393	394 ↑
その他	0	0	0	16	16	16
合計	299	301	301	2351	2365	2377 ↑

【審議事項】

1. 入会、退会

1) 賛助会員入会: なし

2) 賛助会員退会: なし

3) 会員入会: 5月43名、6月19名、7月14名

4) 会員退会: 5月8名、6月4名、7月2名

→ 承認

<経理部>(報告者:竹川経理部長)

【報告事項】

1. 予算管理月報について 7月末日

2. G表について 7月末日

3. 広告状況について 7月末日

【審議事項】

1. 研修会場のノートPC購入について

今後2台のノートPCを更新する必要がある。
今年度と来年度で1台ずつ購入をするか、
今年度で2台を購入するかの審議を願いた

い。また、オフィス搭載機を購入するよりも、オフィスソフト、セキュリティソフトは別途購入し、2台分を使えるようにする方が安価になる。

→ 管理台帳を作成し、PCの廃棄などがわかるようにすべきではないか。

(松田副会長、真田会長)

→ PCの使用管理も今後検討する必要があるのではないか(綿貫副会長)

→ 今年度PCを2台購入でオフィスソフト、セキュリティソフトは別途購入すること、また管理台帳を作成することで承認。PCの使用管理については、継続審議とする。

＜渉外部＞(報告者：安部渉外部長)

【報告事項】

1. 兵庫県臨床検査技師会・登録フォームより、会員外の臨床検査技師からの問い合わせについて
2. メディカルスタッフ体感Webセミナーの開催について
当会として、昨年同様の日臨技作製動画を配信予定。(全団体のノベルティをセットしたプレゼントを300個準備する方向で検討中)

【審議事項】

1. 兵庫県臨床検査技師会災害対策マニュアル(案)について
日臨技災対マニュアル改訂版が執行理事会で通過した為、兵臨技災対マニュアル(案)を作成した。
8、10月の理事会で内容を詰め、12月で決定する方向に進めたい。意見・指摘等については各理事会前月末日までをお願いしたい。
 - ・役割分担について
 - ・マニュアル内〇〇〇、△△△、□□□について

・赤字部分の追記内容について

・マニュアル内容そのものについて

→ 災対本部の第二、第三設置場所については過去に理事会で審議しているので議事録を確認して検討する。

2. 兵庫県臨床検査技師連絡網の整備(メールアドレス, LINEなど)

・非常時を想定し、主連絡網の整備に加えて副連絡網も考慮

・個人情報もあり、どの範囲までするかを検討

→ 組織部で連絡網を作成済みなので活用してはどうか(松田副会長)

→ 大崎組織部長と安部渉外部長で調整

＜組織部＞(報告者：大崎組織部長、森理事)

【報告事項】

1. 第41回丹但地区研究発表会 ハイブリッド(朝来医療センター+Zoom)
令和3年6月27日(日)10:00～12:00
報告書(資料07-01)
2. 第38回西播地区研究発表会 ハイブリッド(あすかホール+Zoom)
令和3年7月25日(日)10:00～12:40
報告書(資料07-02)
3. 第1回東播地区ナイトセミナー Zoom
令和3年7月28日(水)18:30～20:00
報告書(資料07-03)

【審議事項】

1. 第30回東播地区研究発表会
(Zoomまたはハイブリッド)
令和3年12月18日(土)10:00～12:00
計画案(資料07-04)
 - 今後のハイブリッド開催に向けて、機材をそろえる必要がある。(森理事)
 - 住ノ江部長に機材の洗い出しをしてもらい、次回理事会で審議する。
 - 開催に関しては承認
2. 令和3年度 新人研修会について

- 湊理事より、インシデント事例のグループディスカッションをしてはどうかと提案があり検討中。10月か11月頃の開催に向けて準備中。(大崎組織部長)
- 兵庫県学会で新人向けの研修をする案が出ているので、学術部とジョイントするのはどうか。(真田会長)
- 新人研修会の開催に関して承認

＜広報部＞(報告者：住ノ江広報部長)

【報告事項】

1. ホームページ(HP)への新規および更新掲載。
2. 広報会議
 - ・開催なし
 - ・8月5日 学術会議
(ピーテックスの運用説明)
3. 研修会の集金運用について
 - ・ピーテックス、パスマーケットの比較
- 手数料はパスマーケットの方が安価だが、運用はピーテックスの方が事務所の負担が少なく、ZoomのURLの流出がないため便利と思われる。
- ・セキュリティー資料
- 個人情報の流出は両社とも同程度あるが、クレジットカード情報の流出は報告されていない。
- ピーテックスを使用する方向で運用を詰めていく。

【審議事項】

1. HYOGOニュース 発行部数について
 - ・現在の発行部数は1,000部であるが、毎回不足している。また事務所より、施設への配布を2部から1部に減らすことは可能かという意見もあり。
- 施設への配布は一旦現行どおりで継続審議とする。
- 発行部数は1,100部に増やすことで承認
2. デモ研修会(参加費有料)の試験運用について

学術(病理研究班)より、有料の研修会にピーテックスを使用した運用案が出ている。実際に8月中にデモ研修会を行い、確認が必要。

→ デモ研修会の開催に関して承認

＜学術部＞(報告者：藤原学術部長)

【報告事項】

1. 学術部会(Web形式)開催報告
 - 1) 令和3年度の研修会開催予定
 - 2) 兵庫県医学検査学会開催日を学術部として決定(令和4年2月27日)
 - 3) ピーテックスについて

【審議事項】

1. 学会の日程について
 - アンケート結果と学術班長の予定を中心に上記に決定
 - 開催日をR4/2/27で承認
2. 研修会でのピーテックスの運用開始について
 - いつから有料にするのか決める必要がある。(松田副会長)
 - ピーテックスの運用開始のお知らせにキャンセルの扱いや、個人情報の流出に関しての技師会の立場、有料の開始日などを明記する必要がある。
(住ノ江広報部長)
 - Web開催で研修会の会費を徴収すると収入の増加が見込まれる。公益社団法人なので収支をゼロにする対策が必要。
(中町参与)
 - ピーテックスの運用方法を学術部で検討して、再度理事会で審議する。次回理事会までに審議が必要であればメール審議も活用する。

＜精度管理事業部＞

(報告者：狩野精度管理事業部長)

【報告事項】

1. 令和3年度第41回兵臨技精度管理調査の申込状況(R3/8/3～9/14)

8月7日現在申込施設数65、新規の新型コロナウイルス遺伝子検査34施設

- 令和3年度第41回兵臨技精度管理調査の精度管理委員・解析委員
昨年度63名に遺伝子検査担当として1名追加し、計64名となった。
- 試料の準備、発送は今年度も神戸大学病院の協力の下、実施予定。
(採血時の医師の立ち合い、輸血試料の準備、試料発送の準備など)
- 新型コロナウイルス遺伝子の精度管理調査試料について
検査試薬・検査機器が多岐にわたるため、申込確定後、参加施設に対して使用機器試薬の調査を行った上で、配布試料および手順を検討して対応する予定。

【審議事項】

なし。

＜公益事業部＞(報告者：澁谷公益事業部長)

【報告事項】

- 令和3年度ふれあいの祭典 ふれあいフェスティバルin神戸「健康福祉まつり」への参加申し込みについて
(締め切り：令和3年7月2日)
日時：令和3年10月16日(土)、17日(日)
会場：メリケンパーク
※ 新型コロナウイルス感染症の感染状況などで、状況は変わる可能性がある。今年度は、展示を中心に行う予定。

【審議事項】

なし。

●次回理事会(Web開催)

令和3年度第5回理事会

令和3年10月9日(土)10:00～

第5回理事会議事録

開催日：令和3年10月9日(土)

時 間：10:00～11:30

場 所：ZoomによるWeb会議

出席：真田、松田、綿貫、佐藤、竹川、狩野、澁谷、池本、住ノ江、安部、大崎、藤田、藤原、井関、森、菊口、千田、矢野、南、湊、中町参与、東塚監事、笠舞監事

欠席者：なし

- 理事20名の出席により会議は有効裡に開催された(現在の理事数20名)。
- なお、開催前に出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることを確認している。

- 議事録署名人の選出：

真田浩一、東塚監事、笠舞監事を選出した。

議事録作成：湊

議題

I 会長報告(報告者：真田会長)

【報告事項】

1. 日臨技近畿支部関連

10月31日(日)にタスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会(実務担当者対象)を開催

兵臨技からは真田、松田、綿貫、佐藤、大崎、住ノ江、安部、森の8名が参加。

2. 兵臨技関連

1) 8月18日(水) 令和3年度第1回西播地区施設責任者・連絡者会議(Web開催)出席

2) 8月19日(木) 学術部会(Web開催)出席

3) 10月5日(火) 学術部会(Web開催)出席

4) 10月21日(木) 子宮の日会議(Web開催)出席予定

3. タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会について

11月～3月にかけて定員60名で毎月1回開催予定(計5回、300名)

近日中にメンバー会議を開催予定。

講師予定

- 肛門機能&内視鏡検体採取：
神鋼記念病院 石井 正之医師
- 静脈路確保&吸引痰：兵庫県看護協会から講師派遣可
- 皮下グルコース：看護協会調整中、無理な場合は当会で対応
- 成分採血&誘発電位検査は動画視聴のみ

【審議事項】

1. 第61回近畿医学検査学会について
 - 令和4年11月19日(土)オンライン開催
～12月3日(土)オンデマンド配信
 - 双方向のWeb学会&バーチャル展示会「EventIn」の活用を検討中。
- ※ 11/15にZoomによる説明を受ける予定。
→ 承認。説明会に参加できる役員は参加する(14時から15時頃)。

II 日臨技報告(報告者：綿貫副会長)

【報告事項】

1. JAMTQCシステムの改修を行う。
2. 臨床検査の診療報酬点数改訂の要望書を厚労省へ提出した。
3. 支部研修会、タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会10月31日、会場は森ノ宮医療大学で開催予定
4. タスク・シフト/シェアの啓発事業を開始する

【審議事項】

なし。

III 業務執行報告

(報告者：松田副会長、綿貫副会長、佐藤副会長、南事務局長、竹川経理部長)
業務執行理事による業務執行状況報告を行った。

IV 部局報告と審議

<事務局>(報告者：南事務局長)

【報告事項】

1. 日臨技より、タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会について
→ 日臨技HPより基礎講習受講可能(8/20～)
2. 兵庫県各種友好団体との意見交換会中止のお知らせ
3. 健康ひょうご21県民運動推進会議より「令和3年度健康づくり推進員の再任確認及び新任推進員候補者の推薦、推進員研修会の開催について」
→ 南を推進員に再任
4. 健康ひょうご21県民運動推進会議より「がん・結核セミナー」と「Dr.家森と楽しむ世界の健康長寿食」の案内について
→ 集会形式のため、当会からの広報は控える
5. 兵庫県医務課より、放射線業務従事者等の健康管理等の徹底について
6. 日臨技より、都道府県災害連絡責任者の選任について
→ 佐藤副会長を選出
7. 兵庫県医務課より「令和3年度公衆衛生事業功労者に対する厚生労働大臣表彰」候補者の推薦について
→ 該当なし
8. 厚労省より「医療法の一部改正(臨床研究中核病院関係)の施行等について」等の一部改正について
9. コベルコビジネスサポート株式会社より、合併に伴う社名変更について

- 新社名「コベルコビジネスパートナーズ株式会社」
- 10. 日臨技より「医療用抗原検査キット販売に対する提言」について
 - 日臨技HPに掲載(9/30)
- 11. 日臨技より「現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスク・シフト/シェアの推進について」
 - 日臨技HPに掲載(10/4)
- 12. 厚労省より「医療事故情報収集等事業第66回報告書の公表について」
 - 日臨技HPに掲載(9/28)
- 13. 令和3年度兵庫県公衆衛生協会会長表彰(公衆衛生功労)について
 - 秋篠範子会員が受賞
- 14. 日臨技より、7月・8月締め分の会費および生涯教育推進研修会の送金について
- 15. 日臨技より、「令和3年度地域ニューリーダー育成講習会」の開催について
 - 当初予定の12月開催見送り
- 16. 日臨技「認知症ワーキンググループ」より、認知症予防啓発活動の提案についての御礼
 - 活動報告書を提出
- 17. 第24回近畿薬剤師学術大会について
 - 集会とWebのハイブリッド開催から完全Web開催に変更
- 18. 厚労省より「消費者安全法に基づく消費者事故等に関する情報の通知について」
- 19. 厚労省より「COVID-19病原体検査の指針4.1版」について
- 20. 令和3年度兵庫県輸血医療従事者研修会後援依頼について
 - 真田会長が委員を務めている委員会主催の研修会であり、後援を承認

【審議事項】

1. 日臨技より、結核研究奨励賞候補者の推薦について
 - 再度打診し、候補者がいれば報告する。

2. PCA会計ソフト新バージョンの導入について

→ 承認

3. 兵庫県感染症対策課から厚労省の委託事業の新型コロナウイルス感染症PCR検査等に係る精度管理調査への参加協力依頼について。先着1,200施設、参加費は無料。

→ HPに案内を掲載する。

<総務部>(報告者：池本総務部長)

【報告事項】

1. 会員数(月末集計)

令和3年度(2022)							
	会員数	会員数内訳			年会費入金内訳		
		継続	新規	兵臨技のみ	入金済(うち送金待)	免除	未入金
令和2年度	2296						
7月	2348	2172	176	177	2286(0)	36	26
8月	2342	2166	176	178	2280(0)	36	26
9月	2314	2258	56	140	2184(20)	14	116

	施設数			会員数		
	7月	8月	9月	7月	8月	9月
神戸地区	125	125	125	915	921	925 ↑
阪神地区	65	65	65	511	508	508
丹波地区	13	13	13	102	101	101
東播地区	49	49	49	439	441	442 ↑
西播地区	49	49	48	394	395	394 ↓
その他	0	0	0	16	14	15 ↑
合計	301	301	300	2377	2380	2385 ↑

【審議事項】

1. 入会、退会

1) 賛助会員入会：なし

2) 賛助会員退会：なし

3) 会員入会：7月14名、8月7名、9月6名

4) 会員退会：7月2名、8月4名、9月1名

→ 承認

2. 第1回令和4・5年度役員候補者選出委員会について

11月13日10時開催

→ 承認。真田会長、松田副会長、南事務局長、池本部長が参加予定。

3. 役員候補者選出規程の細則上の元号の変更

ならびにHPへの掲載修正

→ 承認

＜経理部＞（報告者：竹川経理部長）

【報告事項】

1. 予算管理月報について 9月末日
2. G表について 9月末日
3. 広告状況について 9月末日
4. 研修会場のノートパソコンが設置された。

【審議事項】

なし。

＜渉外部＞（報告者：安部渉外部長）

【報告事項】

1. 兵庫県臨床検査技師会・登録フォームより
会員からの問い合わせ
2. 神戸市医療産業都市一般公開メディカルス
タッフセミナー
メディカルスタッフ体感Webセミナーノベ
ルティについて
当会から、クリアファイル100枚を11/1～
8に送付予定
(うち、1枚を写真撮影用に先行送付済み：
事務所)
3. 医療職団体研修
コロナに対する各団体の取組について
発表者：真田会長
内 容：日臨技と連携して行った検体採取
とPCR検査とワクチン接種につい
て報告
4. 12/4・5近畿府県合同防災訓練（緊急消防援
助隊近畿ブロック合同訓練同時開催）の医
療・救護部会第1回開催（10/1 於：兵庫県
庁災害対策センター本部会議室）
 - ・神戸市防災訓練も同時開催
 - ・例年以上に消防の訓練が強くなる。
 - ・当会として、展示ブースは今年度なし。
 - ・医師会チーム帯同型で参加予定。人数、
参加会場未定（医師会他職能団体と調整
中。来賓にて会長他3～5名程度の参加）

・兵庫県医師会（各市医師会含む）は淡路市
メイン会場、洲本市サテライト会場の2
会場で3チーム、神戸市防災訓練魚崎会
場（市民参加型）に2チームの参加予定。

5. 都道府県技師会災害対策マニュアル作成に
向けた日臨技Web研修
11/25（木）18：00～Webにて（佐藤副会長）
研修に向けた事前eラーニングあり（11月中
に配信予定）

【審議事項】

1. 兵庫県作業療法士会から兵庫県作業療法学
会の案内について兵臨技HPへの掲載と会
員へのメール配信を依頼された。
→ HPの掲載のみ対応する。
2. 問い合わせ：HPのバナー広告の広告枠があ
れば掲載したいという内容に
対する返答
→ 広告の掲載を希望する場合は、賛助会
員として入会してから利用していただ
くという内容で返答する。
3. 看護フェアについて
今年度のテーマは「フレイル予防」
当会は例年エコー検査で参加しているが、
今年度はテーマに沿った内容の一般市民向
け動画配信を看護協会より要望されている。
→ InBodyの紹介をすることで承認。
4. 兵庫県臨床検査技師会災害対策マニュアル
（案）について
災対マニュアル内抜粋
兵庫県臨床検査技師会事務所を第一設置場
所とする。兵臨技事務所が災对本部として
使用困難な場合および安全性等様々な要因
により第一案での設置が不可能な場合は○
○○○○○○○○○○を第二設置場所、○○
○○○○○○○○○○を第三設置場所とする。
（兵臨技事務所が使用困難でかつ県及び医師
会との連携を円滑化できる神戸市内での設
置を第二に、兵庫県は東西南北が広域にわ

たるため、神戸市に甚大な被害が生じた際に、県内人口密度等を考慮し西部での設置を第三に事前決定しておく必要がある)

1) 災害対策本部設置場所の第二案、第三案について

- 第二案設置場所について
一に兵庫県保健医療調整本部、二に兵庫県医師会災害対策本部に近く、電気等のLifelineが整っている安全な場所が望ましい。(2017年度理事会で、場所の最終決定まで至らなかった)
- 第三案もLifeline等の環境面については同様。西部地区にも設けるか、設けず、神戸市内の技師会事務所より連携を図るか。
 - 第二案について神戸大学医学部附属病院が第一候補。病院側に承認を取ったのち正式文書とする。
 - 第三案(事務所と神戸大学医学部附属病院が使用できない場合)まで必要かどうか。兵庫県西部に関しては一度、真田会長が確認を行う(新設: 県立はりま姫路総合医療センター(仮称))。

<組織部>(報告者: 湊理事、菊口理事)

【報告事項】

1. 令和3年度 第1回西播地区施設責任者・連絡者会議(Zoom)
令和3年8月18日(水) 18:30~19:45
報告書(資料07-01)

【審議事項】

1. 令和3年度 兵臨技新人研修会(Zoom)
令和3年11月14日(日) 15:00~17:00
計画案(資料07-02)
 - 承認
2. 令和3年度 第2回西播地区 地区会議(Zoom)
令和3年11月17日(水) 18:30~

計画案(資料07-03)

→ 承認

<広報部>(報告者: 住ノ江広報部長)

【報告事項】

1. HPへの新規および更新掲載。
 - 9月のアルツハイマー月間用ページ作成
 - デモ研修会の行事予定表のバナー作成
 - (重要なお知らせ) システムメンテナンスのお知らせ掲載
 - (他学会からのお知らせ) がん征圧のための寄附金募集のお願い掲載
 - HPログインの削除・各ページに移動
 - (お知らせ) 令和3年度日臨技近畿支部輪血研修会開催プログラムのお知らせ
 - 血液研究班班長修正 中村⇒神原
 - 【重要】研修会等における参加費徴収方法について HPにアップロード
 - (他団体からのお知らせ) 結核征圧のための複十字シール運動について
 - 9月のアルツハイマー月間用ページリンク先変更
 - (お知らせ) 令和3年度日臨技近畿支部研修会「臨床化学研修会」開催案内
2. 研修会参加費サイト<ピーティックス>
 - 事業決算書 参加費有料テスト研修会資料
 - テスト研修会(有料)の作成・修正
 - 各研究班のグループ作成・サブグループ権限設定
 - テスト研修会(有料)の決算、振り込み、引き落とし確認
 - ピーティックスの運用方法説明(組織・学術、学術生理)
 - 有料でも問題なく、振り込み、引き落としが確認できた。今後の参加費徴収においても問題なく運用が可能と判断した。
 - 病理研究班
研修会の問い合わせ返信(チケットの購

入確認)

参加者数の確認、重複購入者の修正

- ・生理研究班

研修会の内容確認、HP 公開設定

3. 広報会議 (HYOGO ニュース作成) 会議開催

なし メールリングリストでの運用

- ・表彰記事掲載依頼 功労賞・学術奨励賞
- ・学術研究班・組織部記事依頼

血液・一般・西播・東播

- ・グルメ情報誌

掲載依頼、賛同書依頼、次期会員連絡

- ・広報委員 記事校閲

4. 兵庫県医学検査学会 HP 作成

- ・新田

フリーソフト「WordPress」で HP 作成

- ・Web 会議 8 月 23 日 住ノ江・新田
学会用サーバー契約

1,100 円/月 6 か月計 6,600 円

【審議事項】

なし。

<学術部> (報告者：藤原学術部長)

【報告事項】

1. 学術部会 (Web 形式) 開催報告

- ・令和3年度兵庫県医学検査学会の詳細を
検討中
- ・10月発送予定の開催案内について

【審議事項】

なし。

<精度管理事業部>

(報告者：狩野精度管理事業部長)

【報告事項】

1. 令和3年度第41回兵臨技精度管理調査の申
込状況 (R3/8/3～9/14)
申込みは141施設、複数申込みは2施設あ
った。新規の新型コロナウイルス遺伝子検査
は73件あった。
2. JAMTQC システム制限上で全コースを設定
した影響として病理、微生物など実施しな

いコースの参加申込みが生じたため、参加
施設に対して不要な試料に関するメールを
送付し、14施設の協力が得られた。

3. 新型コロナウイルス遺伝子の精度管理調査 試料について

新型コロナウイルス参加申込施設への使用
機器・試薬に関する調査結果から、精度管
理試料の変更が必要となった。

4. 試料の発送準備は11月3日に神戸大学で実 施予定

【審議事項】

なし。

<公益事業部> (報告者：澁谷公益事業部長)

【報告事項】

1. 令和3年度ふれあいの祭典 ふれあいフェ
スティバル in 神戸「健康福祉まつり」(10月
16日・17日開催) の出展辞退について

9月8日：兵庫県健康福祉部少子高齢局より、
「調理飲食禁止に加え、体験・相
談も出展禁止」との連絡があった。

9月14日：出展辞退

【審議事項】

1. 検査と健康展について

10月10日(日)開催予定であった「検査と健
康展」(神戸常盤大学 TOKIWA 健康フェ
スタ) の中止決定

→ 日臨技と相談の結果、代替案として
Web開催を検討中。

→ 日臨技からは中止とするかは、代替案
を検討後でよいとの回答を得た。

1) Web 配信案：下記の動画を活用

- ・臨床検査学科：ウイルスについて
- ・放射線学科・看護学科：感染症の検査、
感染予防・感染経路について
- ・口腔保健学科：マスク生活で起こる口腔
内トラブル
- ・こども教育学科：コロナ禍での遊びにつ
いて

現在、神戸常盤大学の授業（地域交流、全学科2年生）で、新型コロナウイルス感染症に関する地域への配信（動画・画像）を作製している。視聴の対象は、小学生であるが、親世代から伝わることも考え、「こどもから親世代」としている。作製終了は、10月31日予定。大学側には、許可を得ている。

→ 開催承認。

2. 令和3年度 検査セミナー

開催日時：令和3年12月4日（土）

14：00～16：00

開催場所：兵庫県民会館 パルテホール
（ZoomによるWeb開催を併用）

テーマ：“多発性骨髄腫”
～見えない腫瘍を求めて～

計画案（資料11-01）

→ 承認。真田会長、松田副会長、
佐藤副会長、澁谷部長が参加予定。

●次回理事会

令和3年度第6回理事会（Web開催）

令和3年12月11日（土）10：00～

第6回理事会議事録

開催日：令和3年12月11日（土）

時間：10：00～11：00

場所：兵臨技 研修センターおよびZoomを
併用したWeb会議

出席：（兵臨技 研修センター）

真田、松田、綿貫、佐藤、南、住ノ江、森、
東塚監事

（Web）

竹川、池本、澁谷、狩野、大崎、安部、
藤原、藤田、井関、矢野、千田、菊口、湊、
中町参与、笠舞監事

欠席者：なし

・理事20名の出席により会議は有効裡に開催された（現在の理事数20名）。

・なお、開催前に出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることを確認している。

・議事録署名人の選出：

真田浩一、東塚監事、笠舞監事を選出した。

議事録作成：南

議題

I 会長報告（報告者：真田会長）

【報告事項】

1. 日臨技近畿支部関連

なし。

2. 兵臨技関連

1) 10月21日（木）子宮の日会議（Web開催）
出席

2) 11月2日（火）学術部会（Web開催）出席

3) 11月13日（土）第1回R4・5年度役員候補者選出委員会（Web開催）出席

4) 11月14日（日）新人研修会（Web開催）
出席

5) 11月17日（水）西播地区会議（Web開催）
出席

6) 11月25日（木）EventIn Web説明会出席

7) 11月30日（火）子宮の日会議（Web開催）
出席

8) 12月2日（木）学術部会（Web開催）出席

9) 12月4日（土）検査セミナー出席

【審議事項】

1. タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会について

座学修了者約100名、受講中約150名。年度内に3回（2/6、2/20、3/13）開催する。

→ 承認

2. 第61回日臨技近畿支部医学検査学会（Webとオンデマンド開催）

テーマ案「変化～未来の検査室への予期・探知・適応～」

会場は、神戸常盤大学を予定

- ・ハイブリッド開催は難しいか(綿貫副会長)
 - 費用面や、春に大阪で全国学会が開催されるため集客の問題もあり難しい。
 - テーマに関しては承認

Ⅱ 日臨技報告(報告者：綿貫副会長)

【報告事項】

1. 災害対策支援規定第4条に基づく災害時支援協定書について、都道府県技師会へ提案する。
2. 表彰規定の改定を行った。(日臨技HP、新旧対照表参照)
3. 会員意識調査と施設実態調査のアンケートを調査中。協力を願いたい。
4. 日臨技無料職業紹介所を廃止する。
5. タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会の進捗について
(年度内は来年3月初旬までに終了)

【審議事項】

1. 宮島議員の政経セミナーへの参加について
 - 真田会長、綿貫副会長の2名の参加で承認

Ⅲ 業務執行報告

(報告者：松田副会長、佐藤副会長、綿貫副会長、南事務局長、竹川経理部長)
業務執行理事による業務執行状況報告を行った。

Ⅳ 部局報告と審議

<事務局>(報告者：南事務局長)

【報告事項】

1. 令和3年度兵庫県公衆衛生協会中央研究会兼総会の開催について(11/20開催)

→ 秋篠範子会員が表彰式に出席

2. 日臨技より、医療用抗原検査キット販売に対する国民向けの啓発について

→ 日臨技HPに掲載(10/20)

3. 令和3年度兵庫県輸血医療従事者研修会の開催について(11/13開催)

→ HPへUP済み(10/27)

4. 日臨技より、「臨床検査技師学校養成所指定規則の一部を改正する省令の交付について」および「臨床検査技師養成所指導ガイドラインについての修正について」

→ 日臨技HPに掲載(10/20、11/17)

5. 事務所年末年始体制および事務員さんの寸志について

→ 事務所休業日は、12/29～1/3(HPへ掲載済み)。事務員さんの寸志については例年通りの支給とする。

6. 兵庫県の最低賃金見直しに伴う、事務員さんの時給見直しについて

→ 兵庫労働基準監督署より最低賃金の変更(上昇)の通達があったため、10/1より労働基準法に基づき、当会の臨時職員の時給の改定を行った。

7. 日臨技より、「臨床検査技師等に関する法律施行令第18条第3号及び第4号に定める厚生労働大臣の定める検体検査、生理学的検査、採血及び検体採取に関する科目に関する協議などの手続きについて」の改正等について

8. 日臨技より、会費の送金および日臨技生涯教育推進研修会の送金について

(9月、10月締め分)

→ 確認済み

9. 日臨技より、宮島喜文会長のご尊父様訃報のお知らせ(11/11)

→ 弔電を送付

10. 内閣官房孤独・孤立対策担当より、孤独・孤立対策ホームページの新設にかかる周知

について

11. 日本衛生検査所協会近畿支部より、臨床検査大会記念式典および懇親会中止のお知らせ
12. 第98回兵庫県保険医協会評議員会決議について
13. 兵庫県公衆衛生協会より、第80回日本公衆衛生学会における演題発表者への助成等について
→ HPへUP済み(12/7)
14. 令和4年度「兵庫県功労者表彰」に係る候補者の推薦について
→ 該当者なし
15. 令和3年度衛生検査所精度管理協議会委員推薦の依頼について
→ 狩野精度管理事業部長を推薦
16. 兵庫県放射線技師会より賀詞交換会開催中止のお知らせについて

【審議事項】

1. 小島三郎記念技術賞および福見秀雄賞の推薦について
→ 適任者がいれば事務局まで

<総務部> (報告者：池本総務部長)

【報告事項】

1. 会員数(月末集計)

令和3年度(2022)							
	会員数	会員数内訳			年会費入金内訳		
		継続	新規	兵臨技のみ	入金済(うち送金待)	免除	未入金
令和2年度	2342						
9月	2385	2240	145	139	2337(2)	24	24
10月	2389	2239	150	138	2340(1)	26	23
11月	2395	2238	157	138	2344(1)	28	23

	施設数			会員数		
	9月	10月	11月	9月	10月	11月
神戸地区	125	124	124	925	926	929 ↑
阪神地区	65	65	65	508	512	511 ↓
丹波地区	13	13	13	101	101	101
東播地区	49	49	49	442	440	442 ↑
西播地区	48	49	49	394	395	397 ↑
その他	0	0	0	15	15	15
合計	300	300	300	2385	2389	2395 ↑

【審議事項】

1. 入会、退会
 - 1) 賛助会員入会：なし
 - 2) 賛助会員退会：なし
 - 3) 会員入会：9月6名、10月6名、11月7名
 - 4) 会員退会：9月1名、10月2名、11月1名
→ 承認
2. 役員候補者選出委員会
 - 1) 役員候補者選出委員の委嘱について(お知らせ)
 - 2) 令和4・5年度会長候補者選挙にあたっての選挙人名簿登録日決定について
 - 3) 令和4・5年度会長候補者の立候補及び選挙期日等について
→ 承認
3. 新春セミナー・新年交流会について
本年も非開催とする
→ 至急案内を作成し、広報することで承認

<経理部> (報告者：竹川経理部長)

【報告事項】

1. 予算管理月報について 11月末日
2. G表について 11月末日
3. 広告状況について 11月末日

【審議事項】

なし。

<渉外部> (報告者：安部渉外部長)

【報告事項】

1. 技師会窓口お問い合わせ
開業医の医師よりタスク・シフト/シェアによる臨床検査技師の業務拡大について
2. 医療職団体メディカルスタッフセミナーについて
 - ・10月30、31日にWeb開催
<https://kbic.fbri-kobe.org/ippankoukai/>
(サイトは終了)
 - ・ラリーイベントのプレゼント応募(クイズ正解者)が最大予定数300名の予定を超

え317名

- 当会のノベルティ(クリアファイル)100名分は事前送付済み。追加で217名分の送付を行った(会長承認済み)。
- Webサイトアクセス数等の報告は後程(神戸医療産業都市推進機構)との事だが、12/8時点で報告はなし

3. 看護フェア

- Webにて開催中(～R4/3/31)
- 看護協会(担当：太期様)11/19に当会のテーマと動画URLを返答
「フレイル予防に役立つ臨床検査の紹介」
(InBody動画)
(看護フェアURL)

https://www.hna.or.jp/outline/n_access/nursing_of_mind_spread_business/nursingday_events/

12/8時点で当会のテーマ掲載はあるものの動画リンク先については「動画掲載までしばらくお待ちください」と表示されている。

4. 第48回兵庫県医療職団体協議会研修会について

2月12日(土)12:30～16:30

於：兵庫県看護協会会館3F研修室3

Zoom併用

11月の定期発送にて案内同封済(会長承認済み)

- ### 5. 令和3年度近畿府県合同防災訓練について
- 頃安祐葉会員、安部史生の2名で参加
 - 今年度の来賓は知事、消防を除いてはなし。
 - 12/5 午前、淡路市メイン会場、午後、洲本市サテライト会場において医師会JMAT兵庫として看護協会、薬剤師会等と共に救護所、仮想医療機関支援活動を行った。

6. 兵庫県医師会JMAT研修(ロジスティック編)2/20開催予定

当会にも参加案内がある模様

7. 兵庫県臨床検査技師会災害対策マニュアルについて

兵庫県臨床検査技師会災害対策本部第2設置場所を神戸大学医学部附属病院内に設置する件について真庭病院長、矢野検査部長の承認が得られた。(佐藤副会長)

【審議事項】

1. 看護フェアについて

開催期間がR4/3/31までであり、当会HPにもお知らせ掲載してよいか。また1月の定期発送において案内同封してもよいか。チラシ300枚、ポスター5枚のため、会員所属施設を優先する方向で考えている。

→ 承認。チラシについては個人会員には送付しない。

<組織部>

(報告者：大崎組織部長、森理事、井関理事)

【報告事項】

1. 令和3年度第2回西播地区 地区会議(Zoom)

令和3年11月17日(水)18:30～19:10

報告書(資料07-01)

2. 令和3年度新人研修会(Zoom)

令和3年11月14日(日)15:00～17:00(Zoom)

報告書(資料07-02)

【審議事項】

1. 令和3年度 東播地区施設責任者・連絡者

会議(Zoom)

令和4年1月29日(土)10:00～11:30

計画案(資料07-03)

→ 承認

2. 第16回 丹但地区学術組織合同研修会(Zoom)

令和4年2月19日(土)13:30～15:40

計画案(資料07-05)

→ 承認

3. 令和3年度丹但地区 地区会議(Zoom)

令和4年2月19日(土)16:00～

(丹但地区研修会終了後)

計画案(資料07-07)

→ 承認

<広報部>(報告者:住ノ江広報部長)

【報告事項】

1. ホームページ(HP)への新規および更新掲載。

- 定款の修正権限変更
- (他団体からのお知らせ)厚生労働省委託事業「新型コロナウイルス感染症のPCR検査等にかかる精度管理調査」
- サーバーメンテナンスのお知らせ
- (他団体のお知らせ)第27回兵庫県作業療法学会のご案内
- (お知らせ)令和3年度日臨技近畿支部研修会 臨床一般検査部門研修会のお知らせ
- R3検査セミナーのお知らせ R3/10/27
- 令和3年度兵庫県輸血医療従事者研修会のお知らせ R3/10/27
- 【重要なお知らせ】
事務所の休業日 R3/10/27

2. 研修会参加費サイト〈ピーティックス〉

- 病理研修会 収支報告 問題なし
- 他の研修会も作成協力

3. 広報会議(12月号HYOGOニュース作成)

会議開催なし

- 県学会の記事依頼・内容確認

4. 兵庫県医学検査学会 HP作成

- Web会議 県学会の作成修正方法について R3/10/13 21:00～
- 兵庫県医学検査学会 HP作成 R3/10/17
- 会長の挨拶、概要、演題募集など内容作成 R3/10/20
- 県学会のHPのバナー作成、オープン R3/10/23

5. 近畿学会準備

- Web会議 システム 新田(住ノ江)

6. HYOGO ジャーナルの原稿依頼

- 原稿の最終締め切り12月末日

→ HYOGO ジャーナルに掲載する会員数は12月末時点でよい

【審議事項】

なし。

<学術部>(報告者:藤原学術部長)

【報告事項】

1. 学術部会(Web形式)開催報告

令和3年度 兵庫県医学検査学会の詳細を決定

【審議事項】

1. 兵庫県医学検査学会について

予算案

→ 承認

<精度管理事業部>

(報告者:狩野精度管理事業部長)

【報告事項】

1. 令和3年度第41回兵臨技精度管理調査の参加状況

申込みは144件、参加費の未納は11件、メールにて催促実施

2. 令和3年度第41回兵臨技精度管理調査試料発送

- R3/11/4送付済

最終到着八鹿病院 18:00、2施設が17:00以降に到着

- 試料不備

血算フィブリンが2施設

→ 試料再送で対応

血液ガス試料入れ忘れ

→ 試料再送で対応

- 特殊染色返却用スライド入れ忘れ3施設

→ 再送で対応

- 試料破損による送付依頼1施設⇒着払いで対応

3. 令和3年第41回兵臨技精度管理調査の改善

サポート開始

- 正答速報をHPに掲載(R3/11/25)
- C評価施設へのサポート開始
(病理細胞2施設、新型コロナウイルス4施設、輸血4施設)

4. 第71回医学検査学会にて

【兵臨技精度管理調査の改善サポート効果】
の演題提出

5. 令和3年度精度管理調査検討会

日 時：令和4年3月12日(土)
15:00～17:00

会 場：兵庫県医師会館2階会議室

開催方式：現地開催、案内は医師会より参加施設へ案内、人数制限なし。

6. 精度管理調査検討会開催に関する打合せ会
開催

日 時：12月2日(木) 15:00～

場 所：県医師会館

技師会出席：中町祐司、佐藤伊都子、
千田園子、狩野春艶

特記事項：昨年度提示したブラインドサーベイの実施は難しい、開業医が精度管理に関する意識調査、POCTの使用状況などについてアンケートを実施してはとの提案がなされた。(西宮医師会丸岡技師より)技師会としては、県医師会から正式な要望があれば、対応を検討する。

【審議事項】

なし。

<公益事業部>(報告者：澁谷公益事業部長)

【報告事項】

1. 検査セミナー開催報告

開催日時：令和3年12月4日(土)
14:00～16:00

開催場所：兵庫県民会館(パルテホール)

【審議事項】

なし。

●次回理事会(Web併催)

令和3年度第7回理事会

令和4年2月12日(土) 10:00～

定時総会議事録

1. 会議の名称 令和3年度 定時総会
2. 日 時 令和3年6月12日(土)
13:00～13:50
3. 場 所 公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会 研修センター
4. 出席した会員数 1,663名(出席率71.0%)
内訳 本人会場出席 5名
本人Web出席 20名
委任状出席 540名
議決権行使書提出者 1,098名

本会において、役員の一部についてはWeb会議システムを用いて出席しており、会場参加と併用し、開催前に出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることを確認している。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、少数名の総会関係者(会長、議長、司会、書記、理事、監事)による縮小した規模かつ可能な限り短時間での開催とした。

出席理事

会場出席：真田 浩一、松田 武史、
佐藤伊都子

Web出席：池本 純子、南 雅仁、
竹川 啓史、澁谷 雪子、
狩野 春艶、大崎 博之、
住ノ江功夫、安部 史生、
藤原 美樹、藤田 勝也、
湊 宏美、井関 進也、

森 雅彦、菊口 圭介、
矢野 曜子、千田 園子

出席監事

会場出席：東塚 伸一

Web出席：笠舞 和宏

5. 会員の現在数 2,344名

(基準日：令和3年3月12日)

6. 議事の経過

副会長 松田武史より、定款第4章(総会)
第14条(開催)第1項に基づき、令和3年度
定時総会の開会を宣言した。

(1) 開会の辞 副会長 松田 武史

(2) 議長選出

定款第4章(総会)第16条(議長)の定め
に基づき、この総会の議長として高砂市
民病院 山中陽子会員を選出した。

(3) 書記任命

書記として兵庫医科大学病院 湊 宏美
会員を任命した。

(4) 会長 真田 浩一 挨拶

(5) 総会資格審査

総務部長 池本純子より出席者数、委任
状出席者数の内訳が述べられ、本総会は
定款第4章(総会)第17条(決議)を充たし、
有効に成立している旨の報告をした。

(6) 議事録署名人

議長は定款第4章(総会)第19条(議事録)
第2項により、議長及び出席した理事の
中から当該総会において選ばれる議事録
署名人2名の選出につき、真田浩一会員、
松田武史会員の2名を指名し、2名はこ
れを承諾した。

(7) 【第1号議案】

令和2年度 事業報告

総括 会長 真田 浩一、

事業推進関係 副会長 松田 武史、

組織活動関係 副会長 佐藤 伊都子、

事務局関係 事務局長 南 雅仁より、

別紙：議案書のとおり報告があった。

第1号議案は賛成多数で承認された。

(賛成 1,659名 反対 4名)

(8) 【第2号議案】

令和2年度 決算報告、監査報告

・令和2年度 決算報告

経理部長 竹川啓史より令和2年度決算
報告に基づき、別紙：議案書の通り収入
及び支出の報告があった。

《付属書類》

正味財産増減計算書、貸借対照表、財
務諸表に対する注記、財産目録、収支
予算事業別区分経理内訳表(G表)

・令和2年度監査報告

監事 東塚伸一より、別紙：議案書の通
り事務運営及び会計処理が適切に行われ
ているとの報告があった。

第2号議案は賛成多数で承認された。

(賛成 1,661名 反対 2名)

(9) 会員からの意見

・定時総会の出欠確認をWebで出来ない
か。

回答：電磁評決については費用の問題も
あり早期の導入は難しい。

・年度末のHYOGO JOURNALに毎月の会
報をまとめた冊子は資源・コストのムダ。

回答：HYOGO JOURNALは国立国会図
書館に登録されている正式な書籍
となるので、投稿された文書は参
考文献としても引用される。また
発刊が財政を圧迫しているという
こともない。よって、当会として
は有用性があると考えている。

(10) 書記 解任

(11) 議長 解任

(12) 閉会の辞 副会長 佐藤 伊都子

令和 3 年度 兵庫県医学検査学会（第 26 回）

令和 3 年度兵庫県医学検査学会（第 26 回）開催概要

学 会 名：令和 3 年度兵庫県医学検査学会（第 26 回）

会 期：2022 年 2 月 27 日（日） 13:00～17:30 WEB 開催（Zoom Webinar）
（オンデマンド配信 2022 年 2 月 28 日～2022 年 3 月 28 日）

テ ー マ：啓 HIRAKU ～気になる検査に Zoom in～

生涯教育点数：専門 20 点

開 催 形 式：WEB 開催（Zoom Webinar）＋オンデマンド配信

学 会 長：真田 浩一（兵庫県立姫路循環器病センター）

実行委員長：大沼 健一郎（神戸大学医学部附属病院）

事 務 局 長：藤原 美樹（ツカザキ病院）

主 催：公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会

事 務 局：公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会

〒651-0085 神戸市中央区八幡通 4-1-38

TEL：078-271-0255 FAX：078-271-0256

E-mail：info@hamt.or.jp

学会長挨拶



真田 浩一

(令和3年度兵庫県医学検査学会(第26回) 学会長
／兵庫県立姫路循環器病センター)

この度、令和3年度兵庫県医学検査学会(第26回)を開催いたします。

今回のテーマは「啓 HIRAKU ～気になる検査にZoom in～」です。「啓」は3つに分解すると、「戸」は神棚の扉、「文」は手、「口」は神様のお祈りに使う器であり、3つ合わせて「神棚に向かってお祈りする」様子を表しており、「ひらく、開放する、導く」などの意味を持つことから、「啓」一文字で「HIRAKU」と読ませ、臨床検査の未来がひらかれるようにとの願いを込めています。

新型コロナウイルス感染者数は落ち着いてきておりますが、アフターコロナ、ウィズコロナにおける学会のあり方および兵庫県の抱える地理的な問題(遠方の方々の参加)などを見据えてWEB開催(オンデマンド配信あり)を選択しました。また、WEB開催は一方通行になりがちなので、参加者の皆様に少しでも参加した実感を味わってもらうため、特別企画は「リアルタイムアンケートによる参加型セッション」形式で行います。

一人でも多くの皆様のご参加および演題投稿をお待ちしております。

参加登録について

参加登録期間

参加登録はすべて令和3年度兵庫県医学検査学会（第26回）ホームページ（以下HP）、もしくは兵庫県臨床検査技師会HP技師会行事予定表（2022年2月27日）を介したPeatixでの対応となります。

参加登録期間：2022年1月10日（月）～2022年2月13日（日）

●令和3年度兵庫県医学検査学会（第26回）HP⇒Peatix サイト

<https://hamt2021.com/>

●兵庫県臨床検査技師会HP⇒行事予定表⇒2022年2月27日⇒Peatix サイト

<https://www.hamt.or.jp/gyouji>

※参加登録後に、参加者へPeatixを介して、開催日までにオンデマンド用パスワードを送信します。

学会参加費

参加区分	参加費(税込)
兵臨技会員	1000 円
兵臨技非会員	3000 円
学生	無料
賛助会員	1000 円

領収書について

Peatix サイトより、購入したチケット画面にて、「領収データを表示」ボタンで印刷ができます。

プログラム

13:00～ 会長挨拶

13:05～ 一般演題（発表 6 分、質疑応答 3 分）

1. ホルマリン固定における業務改善

山中 菜央（地方独立行政法人加古川市民病院機構 加古川中央市民病院）

2. 日常業務から学んだ精度保証

池本 颯太（地方独立行政法人加古川市民病院機構 加古川中央市民病院）

3. ISO15189 認定下における脳神経生理検査情報システム更新

神前 雅彦（兵庫医科大学病院）

4. UF-1000i と尿定性結果の乖離からマルベリー小体を認めた症例

眞城 里奈（兵庫県立尼崎総合医療センター）

5. 当院生理検査部門における患者心肺停止時の取り組みについて

国岡 司（姫路赤十字病院）

6. 当院の術中迅速組織標本作製時の面出し不良を防ぐ工夫

中西 大地（神戸大学医学部附属病院）

14:10～ 特別企画 I

「新型コロナウイルスと臨床検査 ～COVID-19 を学び、攫む～」

座長：丸岡 隼人（神戸市立医療センター中央市民病院）

竹川 啓史（西神戸医療センター）

【企画のねらい】

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の出現により、我々はかつて経験したことのないパンデミックを経験した。SARS-CoV-2 に関する新規検査の導入や院内感染対策など、各施設の検査部においても早急な対応が迫られ、試行錯誤を繰り返しながら早 2 年が経過した。本企画では、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行初期から最前線に対応してきた 3 名の先生方をお迎えし、遺伝子検査・抗原検査・抗体検査などの検体検査および生理機能検査における院内感染対策について、経験談や今後の課題についてご講演いただく。『攫む』という言葉には『自分のものとする』という意味がある。本企画で COVID-19 を自分のものとし、日常検査に活かせるような企画となれば幸いである。

講演 1「新型コロナウイルス遺伝子検査あれこれ ～検出方法の違いを知る～」

演者：白石 祐美 先生（神戸市立医療センター中央市民病院）

講演 2「新型コロナウイルスの免疫学的検査～抗原、抗体、サイトカイン検査の位置づけ～」

演者：原 祐樹 先生（日赤愛知医療センター名古屋第二病院）

講演 3「感染対策のこれ必要、これ必要？」

演者：山本 剛 先生（西神戸医療センター）

15:50～ 特別企画Ⅱ

「悩みを解決！精度管理と標準化～当院はこうしている～」

座長：山本 義徳（北播磨総合医療センター）

神原 雅巳（社会医療法人中央会尼崎中央病院）

渡邊 勇気（神戸大学医学部附属病院検査部）

松木 慎一郎（兵庫県立尼崎総合医療センター）

【企画のねらい】

検査室は保証された検査結果を臨床に報告する義務がある。検体採取や精度管理は、検査結果の精度を保証する上で重要である。今回3つの分野において、精度管理や検体採取にポイントを絞り講演していただき、各施設の運用について考える機会としたい。

化学：医療法改正以後、内部精度管理は努力義務ではあるが、精度の確保として重要である。

それぞれの施設で実施している内部精度管理について、1度見直すきっかけにしてほしい。

生理：超音波検査において外部精度管理は実施されているが、内部精度管理は統一された方法はなく各施設に任されている。今回は実際にどうやって行っているかを講演して頂き、自施設の内部精度管理をあらためて考えるきっかけにして欲しい。

血液：造血器腫瘍の診断は従来の形態学的診断から遺伝子や細胞表面マーカー（FCM）によるところが大部分をしめるようになっている。臨床検査技師は、骨髓穿刺をすることはできないが、採取された検体の分注から標本作製は臨床検査技師に委ねられている施設が多いと思う。正確な診断を行うためにも、どの様に検体処理を行うとよいか一度考える機会にしていきたい。

講演1 「ストレスの少ない精度管理を目指して」

演者：久富 大樹 先生（関西労災病院）

講演2 「超音波検査の内部精度管理（心臓超音波を中心に）」

演者：菅沼 直生子 先生（神戸市立医療センター中央市民病院）

講演3 「正確な診断は正しい検体処理から～考えてみよう 骨髓検体処理の標準化～」

演者：中村 真一 先生（八鹿病院）

オンデマンド配信について

オンデマンド視聴について

オンデマンド配信の視聴には、参加登録が必要です。参加登録後に配信されるパスワードを入力して視聴してください。

オンデマンド配信サイト

令和3年度兵庫県医学検査学会（第26回）HPのオンデマンド配信より、下記期間で配信されます。視聴には、参加登録後に配信されるパスワードが必要です。

令和3年度兵庫県医学検査学会（第26回）HP

<https://hamt2021.com/>

2022年2月28日（月）9:00 から 3月28日（月）

※視聴にあたっての注意事項※

本会オンデマンド配信サイトにおいて掲載されている全ての内容の著作権は、著作者（発表者）に帰属します。

著作権法および関連法律、条約により私的使用などを明示的に認められている範囲を超えて、本サイトの掲載内容（文章、画像、映像、音声など）の一部および全てについて、事前に許諾なく無断で複製、転載、送信、放送、配布、貸与、翻訳、変造する事は、著作権侵害となり、法的に罰されることがあります。

このため、著作権者からの許可無く、掲載内容の一部および全てを複製、転載または配布、印刷など、第三者の利用に供することを禁止します。

特別企画抄録集

特別企画 I 「新型コロナウイルスと臨床検査 ～COVID-19 を学び、攫む～」

講演 1 新型コロナウイルス遺伝子検査あれこれ ～検出方法の違いを知る～

神戸市立医療センター中央市民病院 白石 祐美

当院では、2020 年 3 月から、新型コロナウイルス PCR 検査を院内で実施するべく、種々の試薬を購入し、検討を開始した。今でこそ様々な検査キットが販売されているが、当初はすぐに利用できる測定キットなど無く、国立感染症研究所が公開しているプロトコルを元にして PCR 測定系を構築した。しかしながら、その後の世界的な物流、工場生産の停止に伴って、測定に直接使用する試薬のみならず、様々な物品（マイクロピペットのチップや、スポイトに至るまで）の不足が起こり、時に代用品を用いざるを得ない状況があった。また、対応できる技師の人数も当初は 3 人と極めて限られていた。ちょうどこの頃、院内感染発生により大量の濃厚接触者を検査する必要があり、その対応は困難を極めた。この経験より、検査対応可能な人員の増員や、各業務の標準作業手順書作成による明瞭化を行い、現在では 11 人の要員によって検査を担当している。時間外検査や緊急検査においては、抗原検査（ルミパルス）、多項目 PCR 検査（フィルムアレイ）を併用しているが、これらの検査法は多検体処理には不向きであるため、現在も入院・手

術前検査においては当初からの PCR 検査を継続して実施している。

今日では、種々の測定原理に基づく多様な検査キットが流通しており、その違いによって、検出感度や、要求される手技のレベルも異なる。2021 年 11 月に、兵庫県下において初の新型コロナウイルス遺伝子検査サーベイランスが実施されたが、検査キットによる性能の違いが浮き彫りになった。自施設で使用する検査キットにおいては、実際の検体を測定する前段階として、まずは検出感度や特異度の評価を検証した上で使用する必要がある。また、各検査法における原理や、検出感度の限界について正しく理解した上で、状況に応じて適切な検査法を選択することが肝要である。

特別企画 I 「新型コロナウイルスと臨床検査 ～COVID-19 を学び、攫む～」

講演 2 新型コロナウイルスの免疫学的検査～抗原、抗体、サイトカイン検査の位置づけ～

日赤愛知医療センター名古屋第二病院 原 祐樹

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の診療、診断に関連する臨床検査試薬については、新型コロナウイルス（以下、SARS-CoV-2）の出現当初は非常に限られていた。SARS-CoV-2 出現から約 2 年が経過し、さまざまな臨床検査試薬が体外診断薬の承認を得たことで選択肢は大きく拡大した。また、COVID-19 に関連するエビデンスは日進月歩でアップデートされ、次々に新しい情報が発表されている。しかし、選択肢の拡大、頻繁に更新される情報は非常に有難い側面がある一方、現場で働く私たちに困惑をもたらす側面を有しているとも言える。そこで、本講演では COVID-19 診療における抗原検査、抗体検査やサイトカイン検査等の免疫学的検査について情報の整理、共有をしたいと考えている。

SARS-CoV-2 抗原検査は大きく分けると定性検査と定量検査に分けられ、同じ抗原検査であるもののそれぞれの検査特性や適用は異なっている。特にイムノクロマト法を原理とする抗原定性の簡易キットは、種々のキットが上市され、簡便に利用できることから、大小さまざまな規模の施設で

採用されており、特に核酸検出検査を持たない施設では不可欠な検査法である。こうした背景からも抗原検査は今後も重要な診断試薬として残っていくと考えられる。

抗体検査については、当初は COVID-19 診断のための検査法として登場したが、ワクチン接種の浸透に伴い、検査法としての位置づけは変化しつつある。サイトカイン関連検査においては、ウイルス感染の抑制因子の 1 つである IFN- λ 3、アトピー性皮膚炎の病勢マーカーとして用いられていた TARC が COVID-19 重症化予測マーカーとして有用であることが判明するなど、従来からあった検査項目の新たな活用が見いだされている。

講演当日は最新のエビデンスを含めつつ、自施設での経験などを基に現場の疑問、悩みに応えるような講演にしたいと考えている。

講演3 感染対策のこれ必要、これ必要？

西神戸医療センター 山本 剛

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が、世界中でパンデミックを起こしてから2年経過した。COVID-19は我々の生活環境や様式を一転させたが、何度か大きな流行も経験してきた。病院では、流行の度にやるべき課題が見つかり最善を尽くしてきたはずではあるが、全てで過去の事例が参考になることは無く、その都度最適な状況を模索しながら状況判断を行なってきたと考える。PCRがCOVID-19の診断に欠かせない検査であることは全ての国民が知っていると思うが、我々は以前からPCRを検査室に導入し、病気の診断に貢献してきたので、「何をいまさら」と思うのではない。しかし、SARS-CoV-2検査時に必要とされる感染対策は決まっているが、検査を行う上で、感染することが怖く実際に何をしたら良いのか分からないことは、私からすれば「何をいまさら」と感じる。実施することは標準予防策に加えて経路別感染予防策を適切に行うことで、検査を行う上での感染曝露を最小限にするために自分はどうすべきか考えることが大切である。

【医療現場に必要な感染予防策】

- ・標準予防策：全ての患者は感染性があるものと考えて取るべき感染対策のこと。
- ・空気感染対策：飛沫核が漂う環境で行う予防策。N95マスクによる予防策が基本。
- ・飛沫感染対策：飛沫が曝露される条件で行う予防策。サージカルマスクやゴーグルによる予防策が基本。
- ・接触感染対策：病原体が含まれる体液に接触する条件で行う予防策。手袋やエプロンによる予防策が基本。

【これ必要、これ必要？】

- ・抗原検査に安全キャビネットの設置は必要？
- ・呼吸機能検査にN95マスクは必要？
- ・心電図電極の患者毎交換は必要？
- ・患者の検温は必要？

連絡先 06-6879-3569

特別企画Ⅱ「悩みを解決！精度管理と標準化～当院はこうしている～」

講演1 ストレスの少ない精度管理を目指して

関西労災病院 久富 大樹

【はじめに】平成30年12月1日に施行された医療法改正では、検査室に対して「検体検査業務の精度確保」が求められている。また、ISO15189の要求事項にも内部精度管理について含まれており、監査対象となっている。当検査部では、精度管理業務に多くの時間と労力を割いていたが、その反面、業務内容については明文化されておらず、感覚や経験に頼る部分があった。そのため、各担当でメンテナンスに要する時間が異なり、管理状態の判断や対応方法が統一されていなかった。他にも、業務負担が大きいと、運用方法に対する改善要望もあったことから、効率化と省力化を目的とした業務の見直しと標準化を行った。その中で、目標値や管理幅の設定方法、ブランクキャリブレーションのタイミングなど標準化を行った項目について紹介する。

【方法】改善したい業務内容をムリ・ムダ・ムラの3種類に分類し、さらに、「緊急度」と「重要度」を指標に加え見直す内容に優先順位を決めた。

目標値の設定については、測定回数と平均値の安定性から、

目標値の再設定期間を求めた。管理幅については、各種許容誤差限界との比較や、キャリブレーションの再現性から正しく校正される確率が高くなる範囲を検討した。ブランクキャリブレーションについては、試薬の開封安定性から搭載後から測定結果に影響が出るまでの日数を確認した。

【結果・考察】見直す内容を絞ったことで、業務改善に効果のある項目から無理なく対応することができた。管理幅の設定方法を標準化することで、管理者以外でも設定することが可能となり、業務分担が可能となった。また、管理幅の設定段階から携わることで理解が深まり、依然と比べ精度管理業務に対して意欲的になったと感じている。さらに、適切な管理幅を設定することで、逸脱する度に行っていた再測定など対応が少なくなった結果、精度管理業務に費やす時間を削減できた。

目標値などについても同様に、業務改善効果が認められた。

【結論】業務内容を整理し、見直しと標準化を進めることで、ストレスの少ない精度管理体制が構築できた。

【連絡先】06-6416-1221（内線8220）

特別企画Ⅱ「悩みを解決！精度管理と標準化～当院はこうしている～」

講演 2 超音波検査の内部精度管理（心臓超音波を中心に）

神戸市立医療センター中央市民病院 菅沼 直生子

【はじめに】超音波検査の内部精度管理は、対象が患者であること、精度の保証された検査機器で行う以上に知識や技能の高い検査者が必要であること、検査結果が定性的評価や診断であることが多く数値化が難しいこと、標準的な精度管理方法が国際的に定められていないことなどの理由により、検体検査の精度管理に比べ管理しにくく困難なものとなっている。超音波検査の内部精度管理は、いつでも誰がどのエコー装置で検査を実施しても、同一の診断結果を報告できることを目的としている。当院は ISO15189 認定取得を機に試行錯誤をしながらその方法を構築してきた。今回はその方法について紹介する。

【当院で実施している内部精度管理の実際】機器間差・技師間差の確認を行い、精度管理を行なっている。各エコー装置は、日常の保守メンテナンスとその記録を行い、さらに年 1 回の予算の範囲でメーカー点検を実施している。また、各エコー装置の特徴を認識し、装置間差の確認も行っている。技師間差に関しては、基本断面の描出技術と計測の確認として技能チェックを同一被検者に対して行なっ

ている。また目合わせとして毎週カンファレンス（症例検討を含む）を行い、同じ画像を供覧し、目視での左室駆出率や逆流の程度の確認を行なっている。また外部精度管理のフォトサーベイを用いた目合わせも年 2 回行なっている。また計測方法・判断基準を標準化するために当院で利用しているガイドラインを明確化し、マニュアルを作成している。レポートにおいては、検査所見の標準化ためレポートテンプレートを導入している。

【課題と考察】技師間の計測間差については施設内で定めた基準であり、妥当であるかの検証は今後でもある。また施設間の差についての管理は現状では不十分である。今後国際的あるいは国内で統一したリファレンスの提示が望まれ、外部精度管理のフォトサーベイの充実（例えば動画による目視での左室駆出率など）も必要と考える。

【結語】当院での心臓超音波検査の内部精度管理の取り組みを紹介し、今後の課題について考察した。

連絡先：078-302-4321（代表） PHS*069

特別企画Ⅱ「悩みを解決！精度管理と標準化～当院はこうしている～」

講演 3 正確な診断は正しい検体処理から～考えてみよう骨髓検体処理の標準化～

八鹿病院 中村 真一

【はじめに】

骨髓検査は血液疾患の診断には不可欠な検査である。しかし、この骨髓検査の運用は施設によって様々であるのが現状である。議論にされることの多い「抗凝固剤を使用の有無」を初めとして、各検査工程にて施設間による運用は様々であると思われる、長い骨髓検査の歴史を経てもなお、その「標準化」は未だ達成できていないのが現状ではないかと考えられた。

そこで、本学会での講演に先立ってまずは骨髓検査の「現状」を明らかにすることで標準化への一助となるべくアンケート調査を実施し、各施設の運用方法を調査したので、結果を踏まえて報告したい。

【アンケート調査】

第 4 回血液検査研修会に参加した会員を中心にアンケート調査を依頼した。また、近畿各府県の血液研究班にも協力を依頼した。なお、各施設 1 名に回答して頂くようお願いした。

内容は、骨髓採取から標本作製までの段階について選択方法とし、Google フォームを用いて作成した。

【まとめ】

骨髓細胞鑑別に関する研修会や文献は多々あるが、その観察する「スライド標本」が顕微鏡にセットされるまでの工程も検査技師の重要な役割である。アンケートでは、検査工程には施設間において差があることが分かった。検査結果に影響を及ぼさないものもあるが、細胞分類にカウントする細胞など検査血液学会より推奨されるものとは異なる運用も一部の施設で確認された。本調査結果を参考にされ、今後の施設での骨髓検査の運用を考え直す機会となれば幸いである。

【謝辞】

本アンケートの実施に伴い、兵庫県内外から多数の回答を頂き有意義な調査となった。アンケートに回答頂いた方々に深く御礼申し上げます。

連絡先 079-662-5555（内線 1421）

一般演題抄録集

EntryNo. 1

ホルマリン固定における業務改善

◎山中 菜央¹⁾、松原 志乃¹⁾、穴田 彩織¹⁾、犬山 恵¹⁾、赤穂 美和¹⁾、栗山 敏範¹⁾
地方独立行政法人加古川市民病院機構 加古川中央市民病院¹⁾

【はじめに】

適切な標本作製を担保しつつ、病理業務の時間短縮を目的とした TQM 活動の一環として固定業務の改善を行ったので報告する。

【背景】

近年、病理検体を利用した遺伝子検査やコンパニオン診断の需要が増えている。そのため当院では、検体の固定を 10%中性緩衝ホルマリンにて 48 時間以内になるよう努めている。手術検体は、提出翌日に病理医が切り出し作業を行っているが、固定不十分であることが多く、技師が再固定を行う。その際の固定確認を別技師が行う場合、技師間で固定方法や確認事項が異なっていた。そのため、検体の状況がわからず時間がかかってしまっていた。

【方法】

大きく 2 点の改善を行った。①提出された手術検体を当日中に病理医が割を入れ、翌日まで固定する。②切り出し時、再固定が必要な検体は、他の検体と区別できるようブロックを裏向きで固定する。裏向きにするブロックは、検体ご

とにホルマリンの浸透が遅い検体の中心部にする。このように固定確認業務のルールを統一した。ルール統一前後 2 週間の固定確認業務の時間測定を行った。

【結果】

①手術検体を提出当日に割を入れたことで、切り出し時に固定が完了している検体が増えた。②ルール統一前は、固定確認が一日平均 18 分 24 秒かかっていたが、ルール統一後は平均 6 分 32 秒となり、約 12 分の時間短縮をすることができた。

【まとめ】

切り出し時に固定が完了している検体が増えたことで、再固定が必要な検体を減少することができ、固定確認業務の時間短縮につながった。また、ルールを統一したことで、一目で検体の状況が把握できるようになった。さらに、ホルマリン暴露時間も削減したといえる。今後は、他業務の時間短縮にも取り組みつつ、脱灰や脱脂が必要な検体の見分け方を検討し、さらに適切な標本作製ができるよう改善していきたい。
連絡先---079-451-8673

EntryNo. 2

日常業務から学んだ精度保証

◎池本 颯太、西澤 真菜¹⁾、伊原 佑香¹⁾、沖田 愛子¹⁾、森 雅彦¹⁾、横山 千佳子¹⁾
地方独立行政法人加古川市民病院機構 加古川中央市民病院¹⁾

【はじめに】

臨床検査に求められることは、正確かつ迅速に検査データを提供し、患者の診断および治療に貢献できるかである。その上で、精度保証は検査値の総合的な信頼性の保証に繋がる必要不可欠な要素である。検体の性状を確認し、測定し、報告する過程において、1 年半生化学担当者として経験した事例を報告する。

【内容】

①溶血の判断：溶血が疑わしい検体については検査システムにコメントを残し、採り直し及び検査値への影響の判断に利用している。またその様な検体の検査データを見直し、溶血の影響度合いの確認を自主的に行っている

②血液以外の検体の測定前の性状確認と結果報告：遠心後、上清の粘性が強い検体については希釈を行い測定する。検体は腹水、胸水、嚢胞内液、ドレーン、胆汁などが多く、関節液は必ず希釈報告を行っている。結果は参考値として報告している。

③同項目の測定機器間での検査値の乖離事例：Na の検査値

に、救急外来の血液ガス測定装置で 120.7mmol/l、生化学検体で 142mmol/l と乖離が見られた。救急外来で測定した血ガスの Na 値が本来より低くでていることが疑われたため、救急外来の装置は使用しない事で緊急対応とした。

④免疫装置の精度管理：HISCL5000 で午後の精度管理で、TSH がターゲット値から 10%以上の外れ値となった。それまでは 6%範囲で収束していた。原因を装置、試料、コントロール試料から考え、搭載時の試薬の混和不良を疑い再度混和しコントロール測定したところ、10%以内の精度管理値となった。試薬の混和不良が直接的原因であったと推測した。

【結語】

日々、測定装置の様子をよく観察し、問題発生時にはいち早くその違和感に気付けるかが、分析装置の精度管理において重要であると学んだ。一方で、患者検体の性状をよく理解し、検査値への影響を考慮することも必要である。今後も確かな精度管理の継続と、検体の性状と検査値への影響事例を日々経験し、正確な検査値報告に努めていきたい。

EntryNo. 3

ISO15189 認定下における脳神経生理検査情報システム更新

◎神前 雅彦¹⁾、杉浦 瑞葉¹⁾、柴山 沙織¹⁾、畠田 典子¹⁾、井垣 歩¹⁾、小柴 賢洋²⁾
兵庫医科大学病院 臨床検査技術部¹⁾、兵庫医科大学 臨床検査医学講座²⁾

【はじめに】当院では脳神経生理検査領域において、日本光電株式会社の臨床検査情報システム（Laboratory Information System）（以下 LIS）を使用しており、2020 年 11 月に同社間でのシステム更新を行った。また、当院臨床検査技術部は 2016 年 2 月に ISO15189（以下 ISO）認定を取得後、2020 年 1 月に更新、認定を継続している。今回 ISO 認定下における LIS 更新を経験したので、その概略について報告する。

【LIS 更新の経緯】2020 年 8 月：新システムの概要説明、11 月初旬：担当検査技師およびシステムを利用する診療科医師へのシステム説明および意見聴取、11 月下旬：システム更新および機器入れ替え、稼働開始。

【ISO 関連】①機材検討計画書および報告書の作成、②供給品評価票の作成、③標準操作手順書 Standard Operating Procedures（SOP）の更新、④新システムの教育、⑤機材管理票、機材識別ラベルの更新、⑥利用者からのフィードバックの実施、他。

【考察】機器・システムの新規導入や更新に関しては、

ISO の認定に関係なく、確認すべき事項が多く存在し、臨床に及ぼす影響を最小限にする必要がある。今回の更新では、ISO 取得時に作成、年度ごとに見直し、改訂している購買・機材に関する手順書を参考にしながら LIS の更新を行ったが、ISO の認定取得から更新を経ていることもあり、手順書およびスタッフも成熟しており、各種書類の作成および LIS 更新をスムーズに実施することが出来た。また、システム更新から 1 年が経過するが、各種手順書に準じて書類作成・改訂を実施したため、その内容を容易に遡及することが出来、次回更新時にも活かすことが出来ると考えられる。さらに 2021 年 8 月に【利用者からのフィードバックアクセスメント】として、『新システム利用に関するアンケート』をシステム利用医師に実施し、その結果をメーカーと共有、更新前の聴取と併せて、システムを改善することで、臨床の期待に応えることが出来ている。引き続き、臨床の期待に応えることが出来る検査室の運営を目指していく。（兵庫医科大学病院 臨床検査技術部 脳波筋電図室 0798-45-6314）

EntryNo. 4

UF-1000i と尿定性結果の乖離からマルベリー小体を認めた症例

◎眞城 里奈¹⁾、中島 和希¹⁾、駒井 隆夫¹⁾
兵庫県立尼崎総合医療センター¹⁾

【はじめに】

現在、尿一般検査においては、省力化のため尿中有形成成分分析装置を使用し、ロジックを元に必要な場合のみ鏡検を実施する施設が多い。今回我々は、尿潜血反応と尿中有形成成分分析装置 UF-1000i の RBC 結果の乖離から、Fabry 病患者に特徴的なマルベリー小体が確認できた症例を経験したため報告する。

【症例・検査結果】

50 代男性。幼少期から思春期にかけて四肢先端と上半身の痛みの症状あり。血縁者が Fabry 病と診断されたことを契機に本人も診断され、現在は酵素補充療法中。

US3500		UF1000i	
潜血	(-)	RBC	10~19/HPF
白血球	(-)	WBC	5~9/HPF
蛋白	(1+) 30	EC	1 未満/HPF
比重	1.020	YLC	(+)
pH	6.0		

尿潜血と UF-RBC の乖離から鏡検が行われ、特徴的な渦巻

状構造の成分を認めマルベリー小体と同定した。

【考察】

UF-1000i では前方散乱光と側方散乱光を用いて測定が行われ、前者は大きさを示す。そのため、赤血球と同程度の大きさである成分（酵母様真菌・シュウ酸カルシウム結晶・脂肪球など）は誤判定の要因となる。

尿潜血(-)、UF-RBC 10~19/HPF であったこと、マルベリー小体の大きさが 4~15 μm と赤血球と同程度であることから、UF-1000i がマルベリー小体を赤血球と誤認したと考える。また鏡検時に卵円形脂肪体様の成分も認めたが、尿蛋白が 0.21 g/gcre であることと脂肪円柱を認めなかったことからマルベリー細胞であったと考えられる。

【まとめ】

尿潜血と UF-RBC の乖離から鏡検を行なう場合は、マルベリー小体・マルベリー細胞の可能性を念頭に置くことが重要である。

連絡先：06-6480-7000（内線 2014）

EntryNo. 5

当院生理検査部門における患者心肺停止時の取り組みについて

◎国岡 司¹⁾、田渕 裕子¹⁾、丸田 穂¹⁾、大西 由希子¹⁾、佐竹 郁哉¹⁾、水田 裕一¹⁾、住ノ江 功夫¹⁾、山本 繁秀¹⁾
姫路赤十字病院¹⁾

【はじめに】患者急変はいつどこで起こるかわからず、即座に適切な対応が必要となる。そのため当院生理検査部門は、これまで患者心肺停止（以下 CPA）時における生理検査部門での取り組みを行ってきた。しかし、実際に経験した CPA の際にこれまでの取り組み通りに動けなかった部分もあり、課題を残す結果となった。そこで今回、院内急変時の的確な初期対応と検査技師としての役割を見直したので、内容と成果について報告する。

【取り組み】当院救命率向上部会の指導のもと以下の取り組みを行った。①救急カート・AED 設置場所の確認：CPA 発生時に必要な物品の場所および使い方について再確認した。②シナリオを用いた CPA シミュレーションの実施・評価：CPA 発生から搬送までの一連の流れを繰り返し行い評価した。

【結果】①必要物品の設置場所について把握できた。②実際の CPA に近い形でシミュレーションできた。一次救命処置（胸骨圧迫・気道確保など）の知識や方法、対応者間でのコミュニケーション、その他検査技師でも出来ること

（発生場所周辺の整備、患者誘導、外来または病棟への連絡）などについて再確認できた。

【考察】救急カート・AED、その他必要物品の設置場所について確実に把握しておくことは、迅速な対応に繋がり、救命率の向上が見込める。病院内の専門組織である、救命率向上部会から評価・指導を受けることで、曖昧な点が明確になった。繰り返しトレーニングを行うことで、落ち着いて適切な対応ができるようになり、不安を取り除くことが出来るため有効的であると考ええる。

【今後の課題】患者急変はいつでもどこでもだれでも遭遇する可能性があるため、生理検査部門だけでなく検査部全体に浸透させていく必要がある。また、シチュエーションを変えて継続的にトレーニングを行い、体に記憶させて CPA 発生時に即座に落ち着いて適切な対応ができるようにしなければならない。

姫路赤十字病院 検査技術部：079-294-2251（内線：2151）

EntryNo. 6

当院の術中迅速組織標本作製時の面出し不良を防ぐ工夫

◎中西 大地¹⁾、塚本 龍子¹⁾、今川 奈央子¹⁾、須广 佑介¹⁾、猪原 千愛¹⁾、古澤 哲嗣¹⁾、吉田 美帆¹⁾、伊藤 智雄²⁾
神戸大学医学部附属病院病理部¹⁾、神戸大学医学部附属病院病理診断科²⁾

【はじめに】病理組織標本作製薄切時における面出しは、診断に関わる重要なプロセスである。パラフィンブロックであれば半透明であるため、ブロック内の検体の形状を確認することが容易であるが、凍結ブロックは包埋剤が白色になり確認が困難となる。今回我々は、術中迅速組織診断時の面出し不良対策として、凍結ブロック内における検体の確認方法について検討したので報告する。

【方法】2021 年 10 月～11 月までの 30 検体を対象とした。術中迅速組織検体の標本作製時に、検体を透明な包埋皿に入れた状態で患者情報ラベルとともに、スマートフォンのカメラで検体下方から写真撮影を行った。撮影後は包埋剤（ホワイトコート、UI 化成）を入れ、ヒスト・テックピノ®で凍結し標本作製を行った。包埋皿に入れた状態の検体の写真と凍結 HE 標本のサイズを計測し、面出し不良かどうかを判定した。判定基準の設定：3×4mm の三角錐に切出したトリのレバーの凍結ブロックを、底辺側から 60 μm ごとに HE 標本作製し、当院の技師 9 名により基準とする底面側の標本と面出し適正と判断した標本との長

径短径差以内を「面出し不良ではない」とした。

【結果】面出し良好と判定した検体数は、検討した 30 件中 28 件であった。2 例とも、短径が基準を下回っていたことより、面出し不良と判定された。

【考察】結果より、6.7%の症例で面出し不良が検出され、客観的に薄切の精度管理を行うことができた。術中迅速組織診断における面出しは、凍結ブロック作製時の包埋剤の流入や凍結操作により包埋皿内の検体の向きや位置が変わり、病理診断にとって適切な薄切面による HE 染色標本作製されない場合があるが、凍結ブロック作製前の検体の状態を写真撮影することで、精度管理が可能になった。今回の方法は、包埋前の検体が確認できるだけでなく、検体が同時に複数提出された場合の検体取り違い防止効果も期待できる。

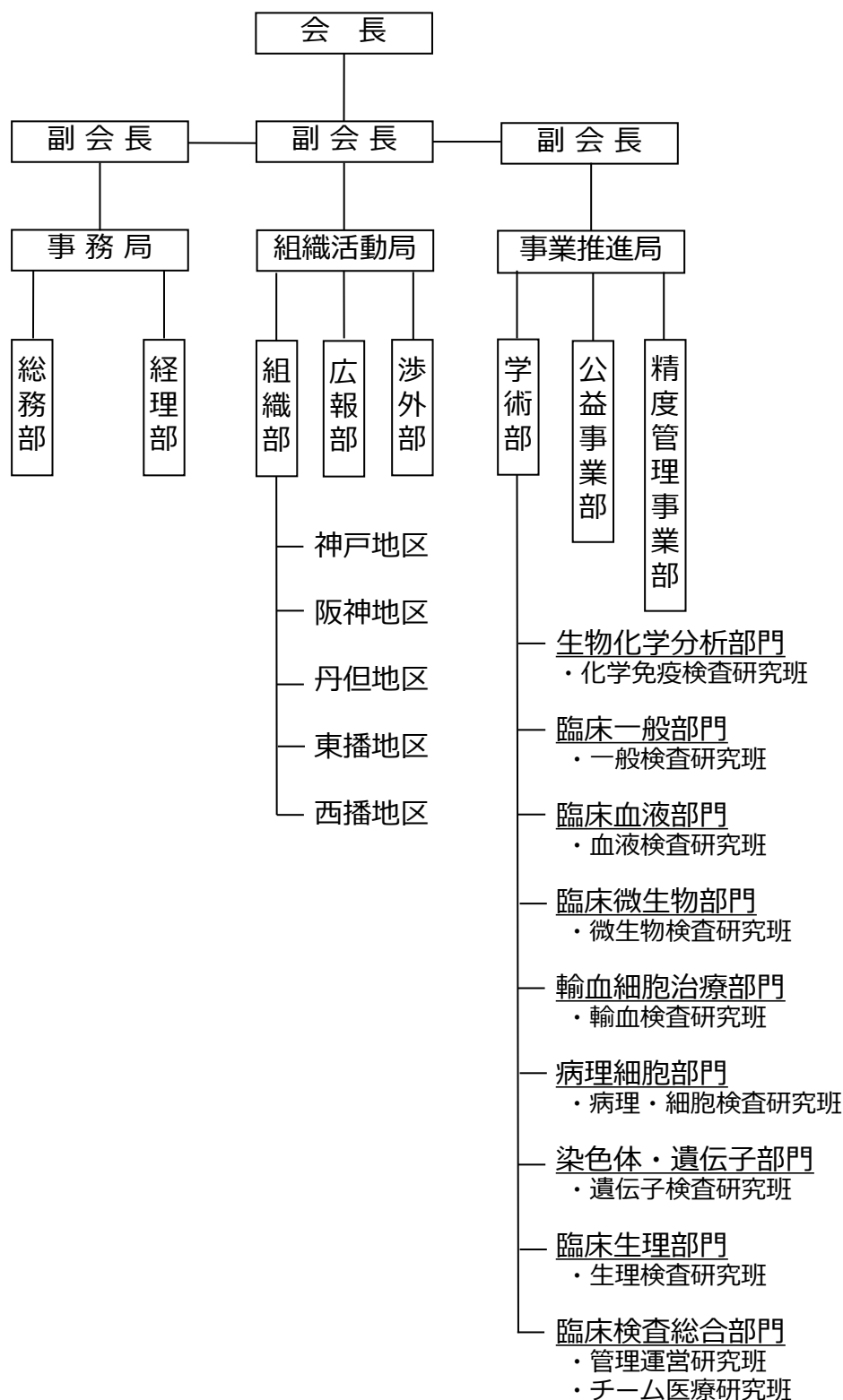
【結語】今後更に事例を蓄積し、有効性の確認とともに必要に応じて改善を行い、実臨床への応用を目指したい。

神戸大学病院 (078-382-6474)

令和3年度 賛助会員 (五十音順)

アークレイマーケティング(株)	東ソー(株)
アイ・エル・ジャパン(株)	東洋紡(株)
アボットジャパン (同)	(株)トラストブレイン
アルフレッサ(株)	ニチバン(株)
アルフレッサファーマ(株)	日水製薬(株)
(株) イムコア	ニッポーボーメディカル(株)
(株)エイアンドティー	日本光電工業(株)
栄研化学(株)	日本電子(株)
H. U. フロンティア(株)	日本ベクトン・ディッキンソン(株)
(株)LSI メディエンス	バイオ・ラッド ラボラトリーズ(株)
オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス(株)	(株)ビー・エム・エル
(株)カイノス	ビオメリュー・ジャパン(株)
関東化学(株)	(株)日立ハイテク
(株)関薬	広瀬化学薬品(株)
キヤノンメディカルシステムズ(株)	フクダ電子兵庫販売(株)
極東製薬工業(株)	富士フイルムメディカル(株)
コベルコビジネスパートナーズ(株)	富士フイルム和光純薬(株)
サクラファインテックジャパン(株)	ベックマン・コールター(株)
シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティックス(株)	松浪硝子工業(株)
シスメックス(株)	(株)ミズホメディー
(株)シノテスト	ミナリスメディカル(株)
白井松器械(株)	宮野医療器(株)
積水メディカル(株)	武藤化学(株)
(株)セロテック	(株)メディセオ
(株)タウンズ	(株) やよい
チェスト(株)	ライカ マイクロシステムズ(株)
(株)テクノメディカ	ラジオメーター(株)
テルモ(株)	ロシュ・ダイアグノスティックス(株)
デンカ(株)	

公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会 組織・執行体制



(公社) 兵庫県臨床検査技師会 入会申込書

兵庫県臨床検査技師会理事会 御中

私は、貴会への入会を申し込みます。

届出年月日 年 月 日

フリガナ 氏名			
生年月日	西暦 年	性別（男・女）	
	昭和・平成 年 月 日		
勤務先	フリガナ		
	名称		
	所属部署		
	〒 ー		
	住所		
	電話		FAX
	E-mail		※技師会からの連絡に使用します。
自宅	〒 ー		
	住所		
	電話		FAX
	E-mail		※技師会からの連絡に使用します。
資料等送付先	施設（施設会員は原則施設へ送付） ・ 自宅		
臨床検査技師 免許番号		取得年月日：	年 月 日
衛生検査技師 免許番号		取得年月日：	年 月 日
日臨技会員番号 (日臨技会員であった方)			
所属学会			
その他の資格 (資格名を記入下さい)	国家資格		
	認定資格		
兵臨技事務局記入欄	会員番号：		
	入会日：	年 月 日	事務局受付日 年 月 日

(公社)兵庫県臨床検査技師会 個人情報保護規程に則り、今回取得した個人情報は、技師会活動に必要な範囲で利用し、それ以外の目的で使用することはありません。

広 報 部 名 簿

□ 査 読 委 員	真 田 浩 一	県立姫路循環器病センター
	松 田 武 史	神鋼記念病院
	綿 貫 裕	奥新クリニック
	佐 藤 伊都子	兵庫医科大学病院
	住ノ江 功 夫	姫路赤十字病院
	小 松 敏 也	宝塚市立病院
	新 田 篤 史	県立淡路医療センター
□ 学 術 研 究 班 員	渡 邊 勇 気	神戸大学医学部附属病院
	山 本 義 徳	北播磨総合医療センター
	竹 川 啓 史	神戸市立西神戸医療センター
	小 林 真	(株)兵庫県臨床検査研究所
	大 沼 健一郎	神戸大学医学部附属病院
	神 原 雅 巳	尼崎中央病院
	加 藤 正 輝	宝塚市立病院
	丸 岡 隼 人	神戸市立医療センター中央市民病院
	直 本 拓 己	神戸大学医学部附属国際がん医療・研究センター
	神 前 雅 彦	兵庫医科大学病院
□ 広 報 部 委 員	住ノ江 功 夫	姫路赤十字病院
	中 村 光 希	神鋼記念病院
	湊 宏 美	兵庫医科大学病院
	渡 邊 優 子	神戸大学医学部附属病院
	矢 野 美由紀	神戸大学医学部附属病院
	小 松 敏 也	宝塚市立病院
□ 広 報 編 集 室	〒670-8540 姫路市下手野1-12-1 姫路赤十字病院 検査技術部 TEL 079-294-2251 FAX 079-296-4050	

会報 HYOGO JOURNAL

第43巻第1号 通巻247号

The Hyogo Journal of Medical Technology Vol.43 No.1

令和4年2月12日 印刷

令和4年2月19日 発行

発 行 者 真 田 浩 一

編集責任者 住ノ江 功 夫

発 行 所 公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会 TEL 078-271-0255
〒651-0085 神戸市中央区八幡通4-1-38

印 刷 所 コベルコビジネスパートナーズ株式会社 TEL 078-261-7781
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通2-2-4

リアルタイム精度管理システム

QCLinx Neo

システムイメージ

シノテスト QCLinx サーバー
データ集計・保存



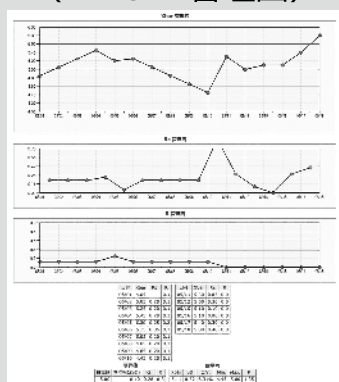
各施設 P C

- ・WEB 上にて測定値を入力
- ・結果の確認

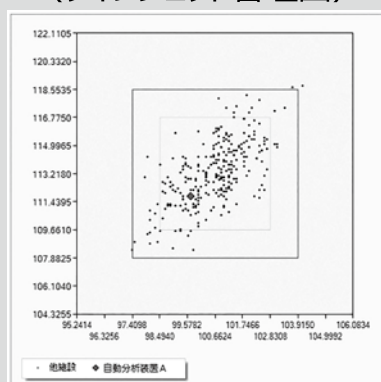


画面イメージ

内部精度管理 (\bar{X} -Rs-R 管理図)



外部精度評価 (ツインプロット管理図)



リアルタイムで
外部精度管理結果が
確認できます

グループサーベイに
対応しています

外部精度評価 (SDI 評価)

項目	管理材料	測定名称	SDI	Xbar	SD	C.V.	Xbar	SD	C.V.	r	対象件数	総件数	測定件数
ALB	Aalto Control LEVEL I - A	分析装置 1	1.3149	3.6000 g/dL	0.0000	0.00%	3.4743	0.0955	2.75%	0.6935	400	500	1
	Aalto Control LEVEL II - A		1.1510	5.0000 g/dL	0.0000	0.00%	4.7934	0.1795	3.74%		400	500	2
ALP	Aalto Control LEVEL I - A	分析装置 1	0.9718	220.0000 U/L(IU/L)	0.0000	0.00%	220.4358	7.7857	3.53%	0.7054	400	500	1
	Aalto Control LEVEL II - A		1.5561	453.0000 U/L(IU/L)	0.0000	0.00%	423.2342	19.1284	4.52%		400	500	1
ALT	Aalto Control LEVEL I - A	分析装置 1	-0.9546	22.0000 U/L(IU/L)	0.0000	0.00%	25.2605	3.4365	13.59%	0.9931	500	501	1
	Aalto Control LEVEL II - A		-1.0765	114.0000 U/L(IU/L)	0.0000	0.00%	133.5843	18.1920	13.62%		400	501	2
AMY	Aalto Control LEVEL I - A	分析装置 1	0.5955	87.0000 U/L(IU/L)	0.0000	0.00%	84.5722	4.0767	4.82%	0.7142	500	500	0
	Aalto Control LEVEL II - A		1.0913	217.0000 U/L(IU/L)	0.0000	0.00%	203.4780	12.3907	6.09%		400	500	1
AST	Aalto Control LEVEL I - A	分析装置 1	0.2211	23.0000 U/L(IU/L)	0.0000	0.00%	22.3969	2.7279	12.18%	0.9500	400	501	2
	Aalto Control LEVEL II - A		0.1702	139.0000 U/L(IU/L)	0.0000	0.00%	136.1575	16.7003	12.27%		500	501	1

機能一覧

内部精度管理	日間 \bar{X} -Rs-R 管理図・日間 \bar{X} -Rs-R 管理図 PDF・日間データ一覧・日付別 PDF・項目別 PDF
外部精度評価	ツインプロット管理図・ツインプロット管理図 PDF/SDI 評価・SDI 評価 PDF
メンテナンス	各種マスタ登録
測定値登録	測定データ入力・CSV 取込・Microsoft Excel からのコピー&ペースト

動作環境

Webブラウザ	Microsoft Internet Explorer 11/Microsoft Edge/Google Chrome
---------	---

※ 本文中に記載されている会社名、商品名等は各社の登録商標または商標です。

《問い合わせ先》

株式会社シノテスト

カスタマーサポート

<https://www.shino-test.co.jp>

TEL 0120-66-1141

FAX 042-753-1892

第1版:2019年5月



健康と科学に奉仕する

宮野医療器株式会社



本 社	〒650-8677	神戸市中央区楠町5丁目4-8	☎(078)371-2121(ダイヤルイン)
大倉山別館 M S C	〒650-8677	神戸市中央区楠町2丁目3-11	☎(078)371-2121(ダイヤルイン)
ポートアイランド60	〒650-0047	神戸市中央区港島南町4丁目6-1	☎(078)302-7001(代表)
MSCイースト70	〒596-0817	岸和田市岸の丘町2丁目2番10号	☎(072)447-6208(代表)
MSCウエスト	〒654-0161	神戸市須磨区弥栄台2丁目12-1	☎(078)797-2072(代表)
神戸西営業所	〒654-0161	神戸市須磨区弥栄台2丁目12-1	☎(078)797-2072(代表)
姫路営業所	〒670-0940	姫路市三左衛門堀西の町7番地	☎(079)281-0880(代表)
明石営業所	〒674-0083	明石市魚住町住吉2丁目1-33	☎(078)947-3237(代表)
中兵庫営業所	〒669-3304	丹波市柏原町上小倉152-1	☎(0795)72-2288(代表)
北兵庫営業所	〒668-0063	豊岡市正法寺46-2	☎(0796)24-1170(代表)
阪神営業所	〒661-0026	尼崎市水堂町3丁目15-14	☎(06)6436-5678(代表)
大阪支社	〒564-0002	吹田市岸部中2丁目2-13	☎(06)6821-7171(代表)
大阪北営業所	〒564-0002	吹田市岸部中2丁目2-13	☎(06)6821-7111(代表)
大阪中央営業所	〒553-0006	大阪市福島区吉野5丁目5-8	☎(06)6468-3701(代表)
大阪東営業所	〒578-0948	東大阪市菱屋東2丁目14-20	☎(06)4308-6160(代表)
大阪南第一営業所	〒593-8316	堺市西区山田2丁目27-2	☎(072)271-3801(代表)
大阪南第二営業所	〒596-0817	岸和田市岸の丘町2丁目2番10号	☎(072)447-6208(代表)
和歌山営業所	〒640-8322	和歌山市秋月412番地1	☎(073)475-2365(代表)
京都営業所	〒601-8188	京都市南区上烏羽南中ノ坪町20番地	☎(075)692-3921(代表)
舞鶴出張所	〒624-0906	舞鶴市宇倉谷1555番地4	☎(0773)78-2881(代表)
奈良営業所	〒630-8453	奈良市西九条町2丁目10-6	☎(0742)64-4500(代表)
奈良中営業所	〒634-0072	橿原市醍醐町132番地11	☎(0744)20-0505(代表)
岡山営業所	〒700-0945	岡山市南区新保1307-1	☎(086)805-0211(代表)
広島営業所	〒733-0842	広島市西区井口5丁目23-15	☎(082)270-0530(代表)
福山営業所	〒721-0973	福山市南蔵王町3丁目12-13	☎(084)973-1080(代表)
鳥取営業所	〒680-0902	鳥取市秋里1356番地	☎(0857)26-6771(代表)
米子営業所	〒689-3547	米子市流通町158-19	☎(0859)37-1610(代表)
出雲営業所	〒693-0024	出雲市塩治神前3丁目8-6	☎(0853)20-0566(代表)
高松営業所	〒761-0312	高松市東山崎町435-2-102	☎(087)847-3430(代表)
名古屋営業所	〒465-0024	名古屋市中東区本郷1丁目1番地	☎(052)776-5151(代表)
東京営業所	〒113-0034	東京都文京区湯島2丁目16-7	☎(03)3816-4575(代表)
神奈川営業所	〒244-0815	横浜市中区戸塚区下倉田町828番地335	☎(045)869-5150(代表)
埼玉営業所	〒362-0805	埼玉県北足立郡伊奈町栄6-84	☎(048)720-1161(代表)
福岡営業所	〒811-1323	福岡市南区弥永5丁目26-3	☎(092)571-2993(代表)
北九州営業所	〒802-0832	北九州市小倉南区下石田3丁目5-24	☎(093)963-6161(代表)
熊本営業所	〒861-8035	熊本市東区御領6丁目3-34	☎(096)389-8833(代表)
モイアン神戸店	〒650-8677	神戸市中央区楠町5丁目4-8	☎(078)371-2130(代表)
モイアン姫路店	〒670-0940	姫路市三左衛門堀西の町7番地	☎(079)283-2061(代表)
モイアン阪神店	〒661-0026	尼崎市水堂町3丁目15-14	☎(06)6434-5711(代表)
モイアン大阪店	〒553-0006	大阪市福島区吉野5丁目5-8	☎(06)6468-2220(代表)
モイアン鳥取店	〒680-0902	鳥取市秋里1356番地	☎(0857)26-6771(代表)